

川柳塔



創刊大正十三年 通卷一一四八号

日川協加盟

No.1148

同人特集・私の一句

一月号

★ 同人特集 ★

「私の好きな笑いの句」募集

締切 2月15日（本社事務所宛）

発表
四月号

※ 詳細は刷り込み用紙参照

第十一回 春の川柳塔まつり誌上大会募集

川柳塔社では、日頃句会などにお出掛けになれない方々を含め、結社を越えて広く川柳をお楽しみいただく機会として、第十一回誌上大会を企画いたしました。参加要領は左記のとおりです。是非皆様のご参加をお待ち申しあげます。

課題と選者（各題2句 共選） 川 橋 塚 祐

課題吟
花一中岡千代美（番傘川柳本社）

一
九
一

一待

目暎

投句要領

投句料

投句締切

送付先

大阪市天王寺区大道一—一四—一七—二〇一
川柳塔社 誌上大会係 宛
TEL／FAX(06)6779-1349(0)

令和五年一月二十日(月) 消印有効

規定の用紙(コピー可)または、用紙の入手できない場合は便箋などご使用いただいても結構です。
一〇〇〇円(切手は不可)

賞及び発表
各題特選に賞呈 発表は川柳塔誌五月号誌上
川柳塔誌を購読されていない方には発表誌呈

2023年(令和5年) 本社句会 開催日程表

会場：ホテルアヴィーナ大阪

開催日	時間	会場	
1月10日(火)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3F
2月7日(火)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3F
3月7日(火)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3F
4月10日(月)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3F
5月8日(月)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3F
6月7日(水)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3F
7月6日(木)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3F
8月10日(木)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3F
9月7日(木)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3F
第29回 川柳塔まつり	同人総会	10:00~11:00 生駒	3F
	句会	11:00~17:00 金剛(全室)	4F
	懇親宴	17:00~20:00 葛城(全室)	3F
11月7日(火)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3F
12月7日(木)	13:00~17:00	葛城の間(全室)	3F

ウサギの島

小 島 蘭 幸

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

今年は兎年、私が住む竹原市には海外でも名の知れたウサギの島があります。

山陽新幹線を三原駅で降り、呉線に乗り換えて美しい瀬戸内海を見ながら約20分で忠海駅に着きます。忠海港から船で15分でウサギの楽園、大久野島に渡ることが出来ます。

島唯一の宿泊施設、国民休暇村は連泊をされる多くの外国人観光客、修学旅行生、大学のサークル活動、一般客で満室が続いていましたが、コロナになりましたから島に渡る人も少なくなりました。

平成元年3月18日～19日、大久野島国民休暇村で第24回全国郵政川柳人連盟中国ブロック大会が開催されました。私は家族4人で出席しました。長女は小学三年生、次女は小学一年生の時でした。二人とも川柳のおじちゃんと自転車で島を一周したり、ウ

サギと触れ合つたりして島の春を満喫していました。宴会にも出席して、二人で童唄、パラダイス銀河を歌つて大いに場を盛り上げてくれました。翌日の句会にも出席して、8句ずつ入選したのには驚かされました。

今ではすっかり「ウサギの島」として定着している大久野島ですが、「地図から消された島」「毒ガスの島」の別称も持つていて、戦時中、私の母も女子挺身隊として参加したと聞いています。

島には要塞の名残をとどめる砲台跡や弾薬庫、発電所の遺構があり、毒ガス資料館も設置されています。

大久野島は訴える

戦争の悲惨さを

平和の尊さを

生命の重さを

この歴史を忘れないために

二度と再び繰り返さないために

いつまでも平和であり続けるために

コロナが落ち着きましたら、大久野島でのんびり

ウサギと戯れたいと思います。

座右の句

すこしずつ義理ある人を妻に言う

後藤柳允

私の句

登ろうとしてから山が高くなる

石澤はる子

川柳塔 一月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田尋「エト・卯」

■巻頭言 ウサギの島 小島蘭幸 (1)
やることがある 新家完司 (2)
川柳塔 (同人吟) 小島蘭幸選 (4)
波穂草の花 ① 野沢省悟 (36)
橘高薰風句集『肉眼』 (37)
自選集 (38)
句集の森 後藤梅志 (41)
温故知新 (41)
水煙抄 (42)
英語 de Senryu ⑬ 吉村侑久代 (59)
誹風柳多留 一二篇研究 (60)
愛染帖 (62)

やることがある

新家完司

認知症になる原因はいろいろあるが、その内の一つが「やることが無くて暇を持て余している」ということ。もう一つは「コミュニケーションが少ない」ということ。定年退職をしてからほんやりボケ気味になってきたという人は珍しくない。もちろん、加齢も一つの要因ではあるが、これまでも忙しい職場で頑張ってきた人が、急に暇になつて話し相手も少なくなってきたことが大きく影響しているのだろう。

その点、川柳に取り組んでいた私たちは句会や大会に出席するために与えられた課題に向かって毎日のように作句している。外出が困難な場合は誌上大会に向けて、或いは所属する川柳会の会員作品やときにはネット句会にまで応募している。その作品も「少しでも良いものを」と思えばいいかげんにはできず、脳味噌を絞つて推敲を重ねて:となれば、一日はアツという間に過ぎてしまう。まさに「忙しくて

檜櫻抄 「ためらう」

江島谷勝弘・永見心咲共選 (66)

一路集

「伝える」

「はるばる」

村上直樹選 (70)

初歩教室 「雲」

北山まみどり選 (71)

水野黒兎 (72)

同人特集 私の一句

インスピレーション・ナビ

印象吟 (73)

川柳塔鑑賞

水煙抄鑑賞 (74)

せんりゅう飛行船 (75)

大西泰世 (82)

各地柳壇

（佳句地十選／高田博泉・岸本孝子） (83)

川本真理子 (86)

十二月本社句会案内

新家完司 (87)

高瀬霜石 (84)

一月各地句会案内

道夫・真澄・憲彦 (108)

(88)

柳界展望

（ひとこと／北澤稠民） (136)

(106)

■編集後記

（ひとこと／北澤稠民） (136)

(108)

座右の句

黙つて眠つてそのうち糸を吐くつもり 八木千代

私の句

百人に百の挽歌があるだろう

妹能令位子

ボケる暇がない」という嬉しい悲鳴。

また、「会話」は、相手の言葉を理解して自分の想いを伝えるという作業の繰り返しであり、無意識にやっているようだが脳はフル回転していくボケ防止になる。

この「相手の言葉を理解して、自分の想いを伝える」という作業は、話し相手がないと出来ないことではあるが、独りでいるときの「読書と作句」に置き換えることもできる。すなわち、他人の句を読むことによって作者の言葉と想いを理解する。そして作句することによって自分の想いを纏めて発言する。会話と比較して不足しているのは「声を出す」こと。声を出すことはストレス発散になり認知症予防でも大いに推奨されている。従つて、「読書と作句」に疲れたときは「歌をうたう」こと。独居なら自由に歌えるが、家族に聽かれるのが嫌な場合は散歩でもしながら歌えば良い。ともあれ、川柳に取り組んでいるということは「やることがいっぱいある」ということであり、意識せずともボケ防止になつているということはまことに有り難い。

川柳

大阪市 平 井 美智子

バーコード背負つて闊歩する此の世
ある日ふとマスクを取ればおばあさん
そうかムンクも喉が渴いていたんだね
私の鳥の部分は濡れたまま

金曜の夜は自分のことで泣く

真っ直ぐに進めと茶柱が揺れる
下駄箱の上の小さなまねき猫

枚方市 栢 尾 奏 子

大晦日今年も仕事しています

年賀状触るアドレナリンが出る
年賀状これは我らの誇りです

仕事仕事私は悪いお母さん
クリスマスなんて無かつたねと娘

再生紙元の記憶は戻らない
活字になれば色褪せてくる一行詩

倉吉市 牧 野 芳 光

小 島 蘭 幸 選

生きている臭いのコインランドリー
放棄地に白髪累々スキの穂

悪いもの見たのか視力落ちてくる
目立たないよう呼吸をしています

大阪市 谷 口 義

団十郎もにらみをきかす年の暮
せーのーでおばあさんにもお正月

皆既月食も観たし大らかに生きよう
心配事があるのか秋刀魚が瘦せている
国葬は辞退しますと書いておく

足りなかつたり余つたりして歳を越す

桜井市 安 土 理 恵

小夜ふけて天体ショウのひとり席
零余子めしままごとほどを焼きあげる
足許の闇につわ露の黄色

遠い耳怒鳴り合つてわけじやない
夫婦茶碗へこだわりはまだ終らない
さみしさもちよつぴりお年玉の準備

金曜の夜は自分のことで泣く

真っ直ぐに進めと茶柱が揺れる
下駄箱の上の小さなまねき猫

枚方市 栢 尾 奏 子

大晦日今年も仕事しています

年賀状触るアドレナリンが出る
年賀状これは我らの誇りです

仕事仕事私は悪いお母さん
クリスマスなんて無かつたねと娘

再生紙元の記憶は戻らない
活字になれば色褪せてくる一行詩

倉吉市 牧 野 芳 光

堺市澤井敏治

幻じやなかつたまつりの日の五分

賞を受け路郎読本よみかえす

八十路坂いまださまよう深い森

百態の雲とおしゃべりする白蘿

降り出すとおしゃべりになる雪だるま

令和も五歳あけましておめでとう

大阪市高杉力

ジャンケンに負けてジュースになる苺

温めてください弁当も愛も

いつまでも青いところは父譲り

花言葉通りになんて咲くものか

夕凧のうちにしておくことがある

終章へ向かうにト書きなど要らぬ

堺市棄原道夫

やる気満々で包丁研いでいる

花も根もみじん切りするおまざごと

駄々つ子のダダ塊になつてきた

どぶ川が涙のように涸れている

よく見ればいちばん頑固な虫の顔

枕になるような尻尾が欲しいのです

尼崎市山田耕治

ストローを突つ込んだまま捨ててある

遠足の子供が下りていく車内

娘等に老い見せまいと床磨く

全身でよろこんでいる犬を抱く
お隣へ娘が何か頼んでる
じいさんに小春日和のプレゼント

大阪市宇都満知子

鬼嫁のパッキン緩くなってきた

無造作に転がつてたな親の愛

折々に守つてくれる亡母が居る

ゆつくりゆつくり七十路のソナチネ

朝の光に今日のスイッチを見つける

たいせつな一年なのに早いこと

土佐清水市辻内次根

一生を旅に例えて今佳境

花園を飛ぶ蝶三百六十度

秋の日の夕日の角度寺の屋根

弄つていじつて操作方法覚え込む

すぐぼしやる私カフェイン依存症

トタン屋根びつくり花梨の実が落ちた

八王子市川名洋子

ページ繰る私はやはり紙が好き

義経の菊人形が見得を切る

愛犬を鎌にしてつつがない

湯タンポを抱いて対処の光熱費

ベンチでうたたね小春日和の昼

お菓手帳お守りに持つている

堺市今井万紗子

言い聞かす今が一番若いんだ

今日もまたいっぱい言うたありがとう

お互い様やんわり言うてわかること

一粒の母の涙が責めてくる

何時もの駅優しい風が待つて

マスク越しでもあなたの笑顔すぐ分かる

現状を変えたくはない多数決

失敗の数が人間力になる

ああ言えばこう言う2色ボールペン

退屈はしない3色ボールペン

老醜がまた右腕を切り捨てる

6割の馬力でつつがなく生きる

いい朝だ両手をひろげ深呼吸

力まない素直な君がだいすきだ

変身する月一回の美容院

いざとなれば涙を武器にかえます

なんとかなるさ魔法の言葉もつて

久しぶり友の電話に涙する

久し振り笛も太鼓も嬉しそう

右見ても左向いてもカタカナ語

殺すのも死ぬのも嫌な兵士たち

三田市堀正和

本棚に眠つたままの歎異抄

募金箱持つ子の瞳キラキラと

寅年もトラは優勝出来ぬまま

手の甲に蝶がとまつて逃げぬ秋

ここちよい書齋薄日の古畳

文机お茶も飲まずに日がくれる

人ごみに行かぬ約束そと解く

富士が好き今年も行けぬままでした

障子張りがんばったねと亡夫の声

お釣りだけもらい商品置いてくる

優しさも続くと消える有難み

料理よりイス席にしてクラス会

家の傾き知つてゴルフボール

ミサイルより平和が欲しいウクライナ

指定席買えればガラガラ自由席

新年へ天駆け抜ける君を見た

元旦の空へ小さな力こぶ

新年にずっと笑顔の君がある

おめでとう私の自立門出です

おせちの主役好物だったお赤飯

空白が目立つ新年予定表

岩国市 上 村 夢 香

鳥取市 岸 本 宏 章

年下にやさしいことばかけられて
このごろはニュースを見ない日は暮れる

変化球拾ってくれる母がいた

白バイがときどきわたしチエックする

雨の日にゆるり繙く歎異抄

防府市 坂 本 加 代

鳥取市 岸 本 孝 子

世の中を明るく照らす医療かな
介護でもプロに任せてスマートに
しあわせは分けて与えて波静か
七〇代ラストチャンスを楽しもう

日銀と政府協調しているか

鳥取市 奥 田 由 美

鳥取市 倉 益 一 瑶

バス停に名前が残る雑貨店
持ち込みの足もとを見る下取り屋
元気なら百寿の父にハイボール
牛丼の大盛たのむ胃カメラ後
園児から山里過疎に来たコロナ

鳥取市 加 藤 茶 人

鳥取市 田 賀 八 千 代

鏡だけ知る毎日の浮き沈み
舌だけが頼り微妙な匙加減
身構えて好きと言えない片思い
ヒット曲昔B面だったのよ
ああこんな所に今朝の探し物

未消化の恋を埋めてる里の森

手助けは無理でも出来る思いやり
コンビニに家事の代役してもらう
素質ある人はめきめき上手くなる
愚痴ひとつ親には言つたことがない
いつの世も駕籠に乗る人担ぐ人

八頭身だった体もくずれ果て
遺言は確かにうちに書いておく

財布にはポイントカードだけたまる

悩み事すぐに忘れるのも特技

料理にはクレームつけぬいい旦那

破れ傘繕いながら生きている
傘開くわたし守つてくれますか
派手なシャツ買ってリズムを変えてみる
楽譜持たぬ母が見事に歌い切る
いくつもの愚痴飲み込んだ陽が沈む

鳥取市 田 賀 八 千 代

鳥取市 田 賀 八 千 代

電話でいい気遣いながら母は待ち
おぼろ月好きならスキと言ひなさい
今だからどしゃ降りの恋懐かしい
眠りなさいばあちゃんずつとここ居るよ

未消化の恋を埋めてる里の森

鳥取市 棚 田 大

鳥取市 前 田 楓 花

何事も代役たのみ逃げている
本役も代役者見て感動す
できぬこと気のせいにして逃げている
何事も孝行顔で甘えてる
孝行を解いてる人の声弱い

鳥取市 谷 口 回春子

居眠りで全てを棒に振る愚か
踏切りで乗り鉄気分孫と味わう
免許返納するかしないか迷う歳
八十路坂あとひと息でやつてくる
頭ばかり眺めています紅葉狩り

鳥取市 永 原 昌 鼓

音沙汰のないのが無事とかぎらない
ピンポンはまだ打てますよ米寿です
耳鳴りにテレビの音を奪われる
親孝行できずお墓に手を合わす
またひとつ歳をとるのね誕生日

鳥取市 中 村 金 祥

うさぎ年白兎の浜が大賑わい
勲章は貰えぬけれどボランティア
電線を伝う野猿にあしらわれ
あと一步とろい我が身が憎らしい
湾に入り安心したか酔い潰れ

食べて寝る幸せかもね籠の鳥

晴れの日を味方に付けて吊るし柿

蕎麦殻の枕の音が子守唄

友達の秘密絶対ばらさない

幸せの続きをに呑んだ大吟醸

鳥取市 山 下 凱 柳

検討をするなら誰も直ぐできる
政治家の同じフレーズ聞き飽きた
あれそれを一日何度言うことか
苦も難も皆人生の一ページ
善と悪何時も心に去来する

鳥取市 吉 田 孔 美 子

温泉で收まりそうにない義憤
温泉で下つたと言う眉尻だ
宇宙基地近くに温泉はないか
日本海北の狂気の音有りや
猫だけ足音させてお出迎え

鳥取市 吉 田 弘 子

夫植えた花を株分け秋日和
プレゼント孫の好意の派手を着る
多数決の一人になれる年会費
あと五年生きたいものだ母の齢
拉致を解く人こそ歴史名を残す

風物詩冬支度する花時計

倉吉市 大羽 雄大

米子市 伊塚 美枝子

稻刈りを終えた田んぼに鷺の舞

大山の初冠雪にコタツ出す

ハロウインもサンタもババは無関心

剪定を終えた庭木は男前

私の心朝陽と共に上昇す

倉吉市 田中 紀美恵

米子市 後藤 宏之

どつぶりと貧乏になれ八十年
友が逝く心の明かり消えてゆく

やさしさは金では買えぬ宝物

仏とも言われた亡母にあやかりたい

母が死ぬわざかな光り求め生き

境港市 藤原久直

米子市 後藤 宏之

知らぬ間に皺も白髪も増えている

良く動く父の形見の腕時計

削除キー押しても残る傷一つ

グーチヨキパー足も一緒にグーチヨキパー

線を引きました静かになりました

米子市 池田美穂

米子市 後藤 宏之

痩せサンマどこをつつけばいいだろう

ゴキブリに地球の未来聞いてみる

一日の動線たどる探し物

一世紀柱にしがみつく時計

ウキウキと買い物ギヨツと請求書

私もそろそろ要るかGPS

線引きをされてもらつた給付金

娘が捨てて母が拾つて着た昭和

いつの間に固い絆が重くなる

ほどの良いゆるさで結ぶ絆良し

米子市 妹能令位子

米子市 竹村 紀の治

鳥取県 門村 幸子

卒寿まであと三年のお楽しみ
がらくたも生きた証に見えてくる
スイッチを入れても直ぐに歩けない
甘口も辛口もまた深い酒

飾りものみんな外して野天風呂

米子市 中原 章子

すだち柚子カボスの違い教えられ
音訳の校正ほつと目処がつく
欲しいのは風水害に強い家
国連の無力はがゆいことばかり
一年の早さよ飛来コハクチヨウ

鳥取県 斎尾 くにこ

朝刊を読む時間帯至福どき
小春日に防虫剤を入れ替える

セルフレジ増えてパートの場を奪う
ミサイルの発射が恐い空の旅
しあわせになれぬ戦争なぜ止めぬ

米子市 成田 雨奇

半世紀前の私がいるノート
今もまだ追越車線走る人
進化するスーパー同じお買い物
二度聞いて分かる字幕がつき解る
飛べぬ羽蟻も餃子も持つてている

鳥取県 竹信 照彦

髪染めた笑うしかない色が出た
花の鉢運んで少し役に立つ

鈍足で得意種目は棒倒し

他人との境界線があやふやだ

捨てられぬものがまだまだ多過ぎる

米子市 野川 宣子

歩く休む歩く休む腰かける
待ち時間短く早いぢげの医者
新聞を読むのも日課ゆっくりと
マスクしてぐもり声になる詩吟
杖二本突けば曲がらぬ腰になる

鳥取県 本庄 ひろし

感染数シナリオ通り減りません
あめ玉を舐めたとたんに電話鳴り

のんべんがらり刺激が欲しい老いふたり

辛抱のあなたに贈る感謝状

出来秋に感謝しながら食べ過ぎる

重すぎるおんぶレースは勝ち目無し
この想い切ないけれど届かない
旗振りがいな今年の忘年会
約束と少し違うがまあいいか
飼う人に似たのかどうか暴れ犬

鳥取県 本庄 ひろし

鳥取県 山 下 節 子

メガネにマスク補聴器までも耳はタフ
保険金目当てにされるサスペンス

ちぐはぐな返事とうとう墓穴掘る

母は偉大どんな代役でも出来る

孫の守り親の代役気をつかう

その件には触れず林檎囁んでいる

不可欠な一日青空が憎い

早食いのリズムがすでにジャズである

沈黙は美德かいつまでもバカな

無力さを感じる胸に刺さる語彙

松江市 石 橋 芳 山

松江市 藤 井 寿 代

何十年ぶり夫婦でもみじ狩り

脳トレと信じて欠かさないパズル

背中のボタン頼む時だけ可憐妻

三年振りに娘が帰省すると言う
私にも欲しい山茶花の純白

松江市 松 本 知 恵 子

玄関に元気なカボチャ飾つて

秋日和野菊飾つて友を待つ

師の家の前は会釈をして通る

調子いい神楽の夜が眠られぬ
しつとりと小唄聞こえる裏通り

出雲市 伊 藤 玲 峰

窯開き心を奪う技がある
美しい一生でした火が絶えぬ

感染を拒みつづける咳ばらい

いい趣味を教えて逝った師を偲ぶ

秋最中真っ向勝負してみよう

出雲市 岸 桂 子

出雲市 岸 桂 子

老いの身に達成感の一仕事

帰省して満天の星友と見る

薬飲む心やすらぐこと信じ

あの頃は良かつたねとは言いません

もう二度と戻れぬ時を生きている

あきらめのつかないヒールを磨きます

淡淡と日を送るのに老けていく

節博の指から夢がすりぬける

アンチとはいいません共存します

他一名に括られて生きている

岡山市 大 石 洋 子

青空を付けてあげますカルテにも

三年ぶり空さえ笑う秋祭り

冬が来る地蔵さんにもチヤンチヤンコ

手が触れて迷いが覚める雨も止む

稻刈りも終わり田んぼに汗の痕

岡山市 工 藤 千 代 子

岡山市 工 藤 千 代 子

岡山市 丹 下 凱夫

岡山県 藤 澤 照代

新米が噴くD51のよう噴く
「読書の日」には図書館でカフェオーレ

スキップが出来なくなつた骨密度

年金の暮らしに見栄は通じない

神様に頼んで当てにしていない

岡山市 前 田 恵美子

広島市 岸 本 清

孫たちの夢に乗つかり未来翔ぶ
毎日を家事と烟に飛び回る

稻穂垂れ今年の米を予約する

読経するお坊様までマスクする

父母七回忌「やつとできた」と山に言う

笠岡市 藤 井 智史

竹原市 岩 本 笑 子

心身をリカバリーする酒を呑む

ワールドエンド タバコ一本吸うだらう

君と出逢つて真っ黒焦げのハート

心身をスベスベにする愛を食う

趣味特技川柳ですと胸を張る

岡山県 高 岡 茂子

三原市 鴨 田 昭 紀

小瓶に酔すすきを切りに行く軍手

ママの誕生日パパは料理と格闘中

車窓から富士山見えて今日いい日

三年越し紅葉歓迎する墓参

旅に出ても探し物ぐせ直らない

まだ水の深さを知らぬ無鉄砲
教え込むごめんなさいとありがとう
ひと色を足して気分を塗り替える
にんげんを育てた昭和の拳骨
懐メロを溶かしたコーヒーが旨い

夢覚めてふいに涙が頬つたう
青空のブローチとなる大銀杏
無位無冠武骨に生きて逝つた父
どぎまぎのセルフレジ増え昭和思慕
全没は飛躍のための力瘤

三原市 笹 重 耕 三

蕎麦が好き蕎麦の水割りだつて好き
思いきり串刺しにする今日の鬱

原発の嘆きを素直には聞けぬ
初恋を奏てるモノクロの日記

柱時計がポンと昭和がまだ動く

阿南市 小 畑 定 弘

老人は一人ぼっちが好きなのだ
意気地なし特効薬はないといふ
人生の第四コーナー回りきる
いつだつてレジはこの娘と決めている
逢いたしと何時もと違うポストまで

東かがわ市 川 崎 ひかり

空中戦カラスが鳶の餌奪う
華やかに舞う日待つてトウシューズ
華やぎをまだ身に纏い散る銀杏
凍雲に甘さ増しゆくつるし柿
引き際を流れる雲に聴いてみる

松山市 大 内 せつ子

冬になつたら冬に従うつもりです
ネジ山に迷い残した傷がある
笑いのツボが変わつたね 笑えない
表面張力ブチンと壊す人がいる
輪ゴムだかなんだか朽ちてゆく欠片

松山市 栗 田 忠 士

弁当箱の飯粒拾う昭和の手
膝当ても肘当てもした昭和の手

丁寧に落ち穂拾つた昭和の手
もつたいないもつたないと昭和の手

その昔研ぎ屋鋤掛け屋青竹屋

松山市 古手川 光

食欲の秋そんな元気が有ればいい
あれも忘れこれも忘れて黄昏れる
サイバー攻撃受けたみたいなこの頭
散薄いた付けが間もなく攻めてくる
健康は大事人間も地球も

松山市 宮 尾 みのり

タクシーはワンメーターの所ばかり
メンテナンスしながら生きる他はなし
頑張つた頃もあつたと日向ぼこ
字幕スーパー難聴のこと忘れさせ
道路工事済み不自由な町になり

松山市 柳 田 かおる

ときめいていました箱を開けるまで
おもいきり弾けたあの孤独感
ホオズキの朱ふるさとの忘れもの
木漏れ日のシャワーを浴びて生き返る
静電気ほどの熱量だつた恋

西予市 黒田茂代

唐津市 山口高明

六郎の絵が紡ぎ出すものがたり
六郎の感性想像力無限

六郎の絵は夢を呼ぶ詩を呼ぶ
ファンタジックなどの絵も六郎の世界

六郎の命宿つて いる画集

西予市 西田美恵子

熊本市 杉野羅天

貧しい糸で母は豊かに織り上げる
骨になるまでここであなたと暮らしたい
生きてゆく形で丸も三角も

あなたと同じご飯を食べてお茶飲んで
新しい年だ希望の舟が出る

北九州市 小松紀子

札幌市 小澤淳

生きづらい世の中ですネ アレやコレ
思えば山あり谷あり今至福

以心伝心 今夜のメニューが一致する
人生の実りこれからを楽しもう

無理するな言われる程にしていない

唐津市 坂本蜂朗

黒石市 石澤はる子

補聴器を外し首肯くだけでいい

瓶の蓋開ける亭主を待らせる

指示通り妻に薬を飲まされる

生きている証しのように恥ずかしい
痛たたたと言えば痛みが遠ざかる

西予市 黒田茂代

病には勝てぬ陛下も御用心
安保理も北のやんちゃに手子摺られ
私書箱の宛名なにかがきな臭い
魔法瓶わたしの夢が詰めてある
他人騙す快感知つた詐欺師どの

病には勝てぬ陛下も御用心
安保理も北のやんちゃに手子摺られ
私書箱の宛名なにかがきな臭い
魔法瓶わたしの夢が詰めてある
他人騙す快感知つた詐欺師どの

唐津市 山口高明

黒石市 北山 まみどり

思い出をすべて忘れたわけじゃない
逃げたのはそつち追いかけたりしない

坂道もデコボコ道もまだ行ける

空白の時間を作らないように

少しだけ楽しみ方を知ったから

弘前市 稲見則彦

弘前市

稻見則彦

上尾市 中村伸子

この先にボクの停留所はあるか
新雪を滑るわたしの弧を描く

最初からセピア色した二人です

ふる里は津軽弘前五能線
バカ塗りと呼ばれうれしい津軽塗り

弘前市 今愁女

弘前市

今愁女

朝霞市 前田洋子

空き地空き家「売りります」やたら目立つ土地
熊と喧嘩してきた男に遭うてきた
米余りがアメリカからも輸入する
仲良しになるには義理もあるうかと
りんごの木裸に雪が降り積もる

塩竈市 木田比呂朗

塩竈市

越谷市 久保田千代

だとしても畏まる年初の暦
解つてはいるがやっぱり年賀状

不用意に尺貫法を口にする

値上げにも意気軒昂なエコバッグ

長生きはしたいカードに馴染めない

男鹿市 伊藤のぶよし

すり鉢の絶品やはりとろろ汁
生きている生きてる二人日向ぼこ

凡人をようやく自覚やと喜寿

何処へいったか満タンだった筈の脳

紅葉もテレビ新聞みて終わる

マニユアル車好きだつたあの日の私
やつぱりねB型でしょと懐かれる

頭は一つなのにまた買う秋帽子

体重計あなたのことを忘れてた

良かつたねクーポン使うその笑顔

待合室となりのお腹グーとなる

木訥な昔へ笑い止まらない

仏壇へ話す事増えている

意外にも猫のおむつは勝れ物

ベランダは天体ショリーの指定席

末席へ温み届かぬ政

世も末と思えど今日も陽は昇る

頑張った過去年金で生かされる

一病が人の痛みを解らせる

とんがつた鉛筆に見る几帳面

東京都 川 本 真理子

名古屋市 山 本 三樹夫

冬來たる夏には不戦敗続
言葉数少なくなつて見る景色

スマートフォン使いこなしてわらべ歌
やる時にはやると一人で言つている

念のため第五案まで用意する

横浜市 川 島 良 子

犬山市 金 子 美千代

穏やかな秋の陽浴びてみかん剥く
五十歩百歩夫婦の話聴いている

無防備な休日に鳴るインターーホン
一週間日記を溜める記憶力

民意より派閥忖度する総理

横浜市 菊 地 政 勝

犬山市 関 本 かつ子

大変が当たり前なる世の流れ
三年も経つとマスクも市民権

散り際のスリル造花じや分からない
主流派へなびいてみても雑魚のまま

懐メロに老化の脳を目覚めさせ

可児市 板 山 まみ子

愛知県 早 川 那 行

食欲は年中無休光熱費

我が家だけ不幸になつたような事故
若ければ避けられたかもけつまづき

手術にはリスクあつても賭けてみる
不幸にも一息ついた保険金

泥臭さかもす上司に好感度
顔パスは許さぬ自動改札機

砲弾を打つても心壊せない
自転車は免許がなくて罰がある

ドローンと言う殺人兵器造りだす

大きく変化あつた三年振りの友
そうちかそうちかと聞いて欲しいなひとり酒
ペット代わりに買おうかお喋りロボット
ごきぶり体操百回目覚めよし

一万五千歩歩けた足を撫でてやる

最下位の中日だけ離れない
コマーシャルの度に消音にするテレビ
逝く時はコスマスがいい花浄土
屋根裏に突然侵入したイタチ
結局は業者が捕獲したイタチ

如何なろうと残り僅かな泣き笑い
週一の休肝日さえ守れない

深入りはせぬ友達でいたいから
何党かと聞かれボクはビール党

残された命を囲む酒の瓶

京都市 清水英旺

大阪市 磯島福貴子

澄みきつた空に命を吸われそう

気楽だなあその他大勢の中にも居る

振り上げた拳どうするブーチンさん

夕七時のニュースが我にかえらせる

不吉とも感じる月蝕の赤い月

長岡京市 山田葉子

昨日の笑顔今日の幸せ呼び寄せる

マイナスがいつかプラスになる不思議

待つことが出来て落ち着き取り戻す

木洩れ日の紅葉秋の贈り物

自宅入院窓から紅葉見るばかり

大阪市 東 敏郎

出雲から戻り居坐る貧乏神

目標は健診までのダイエット

千鳥足ピタツと止まる自宅前

オリパラで「君が代」確と覚えきる

電報の打ち方消えた電話帳

大阪市 石田孝純

両の手に遊び心と恋心

日に一度頭を空にして笑う

冬のケヤキ寡黙な父の化身かも

通販に無い転た寝というサブリ

十年後の自画像飾り前を向く

運動の出ない会議はまだ続き
調べるとメッキばかりの古コイン
真ん中にでんと座つてケチつける
物価高日々アラートが鳴りつづく
ミサイルの練習場か日本海

大阪市 岩崎玲子

運動も無理ない量が続くコツ
ばあちゃんは口の運動ばかりして
イライラを図る胃腸がバロメータ
仲直り素直になればすぐ出来る
老いふたり仕事は散歩ストレッチ

色づく街ちょっとセンチに秋暮色
年明けてすぐに歳とる一月生れ
天体ショード信長以来酔い痴れる
夫の手借りて今年も柿すだれ
あつあつの柏汁馳走凍てつく夜

大阪市 井丸昌紀

成り行きを見て見ぬ振りの立ち泳ぎ
抜け出せぬメビウスの輪の悪だくみ
廃線のレールが運ぶ冬の風
酔っ払いも分け隔てなく終電車
道譲る相手も同じ方へ避け

大阪市 岩崎公誠

結論の出ない会議はまだ続き

調べるとメッキばかりの古コイン

真ん中にでんと座つてケチつける

物価高日々アラートが鳴りつづく

ミサイルの練習場か日本海

大阪市 内田 志津子

大阪市 大沢 のり子

山小屋の朝は霧氷に包まれて
ちつぽけな事と槍ヶ岳が笑う
孫に継ぐアイゼン寝袋登山靴
山が好き何度語った風と空
物価高年金ぐらし立て直す

大阪市 江島谷 勝 弘

大阪市 奥 村 五 月

太陽光電力買わず不足いう
マイカーをピカピカにした豪雨
いつの日か切れなくなるよ足の爪
なんでもスムーズ阿吽の友が居る
数独がだんだん解けぬ自覚する

大阪市 榎 本 舞 夢

大阪市 小 野 雅 美

北朝鮮ミサイル発射何思う
骨折してのんびり秋を映像で
月食も映像で知り楽しめた
スマホテレビうまく使って日日たのし

町内会の人の名前がすぐ出ない

探しあぐねた眼鏡がなんとポケットに

思い立つて観音様に会いに行く
年のブランク長谷は遠かつた

廃屋のカンナ今年もちやんと咲き

大阪市 大 川 桃 花

大阪市 折 田 あきこ

老い支度せねばならぬがはかどらぬ
ドクターの優しい嘘に負けました
神の手がはずれて全治三カ月
一徹の夫に寄り添う五十年
運まかせ大きな雲に乗つてみる

注意事項文字がうすくて読めません
躊躇せず松茸さいてる夫
はぐれ鳥よ大阪の水おいしいか
歎声はフェンスのむこう秋の空

寒くなりました うどんはあんかけに

クラス会この世でできぬ皆あの世
いろいろと躊躇事が多くなる
酒止めて長生きしても楽しめぬ
戦争で弱る地球をまた痛め
苦しいと言わぬブーチン餓鬼大将

悩み事なんじやらほいと聞く大地
リカちゃんはいいな綺麗な部屋がある
豪邸をランク付けする散歩道
上を向きなさいと人は言うけれど
今年こそまた会おうねとまた電話

大阪市 大 川 桃 花

大阪市 小 野 雅 美

大阪市 笠嶋 惠美

大阪市 坂 裕之

感謝して生きることが最高ね
淀川の水をながめて出す勇気

あくびしてガスをぬいてる心地良さ
美しい落葉を拾う優雅な日

ケーキ代募金に化けた日曜日

大阪市 川端 一歩

日本語好きで川柳やめられぬ
泣き顔で鏡を見ると母が居た

出来ぬ子もやさしい言葉待つて
妻の美点ありがとうがすぐに出る

針の穴こじ開けて欲し拉致家族

大阪市 古今堂 蕉子

懲りずにまた札幌五輪に手を挙げた
八十路の一年は肅肅と過ぎる

酒量減る中ジョッキから小ジョッキ
せめてもと結婚式の写真立て

クラシックをレクチャーして逝きはった

大阪市 近藤 正

この春は孫の結婚式がある
要介護のり越えてきた去年今年

化石賞単独受賞した日本
ウクライナ難民想う寒い冬

第八派コロナと風邪が襲い来る

すつきりと目覚めた今日はいい事が
する事はきつちり決めて次へ行く

休みの日ちょっとと違った道走る

難しい事言わないで穏やかに
生句会出来るがちょっと緊張も

大阪市 高杉 千歩

行くも帰るもわたし次第よ車椅子

雲一つない青空を車椅子

見渡せば竹馬の友はみな冥府

同じどこで笑つてしまふ名人芸

いい老後三食昼寝風呂お八つ

大阪市 田中廣子

八十路越え計画だおれ多すぎて
年重ね祖母の教えが身にしみる

祖母語る昔話が好きだつた

寒い中皆既月食あおぎ見た

団十郎襲名公演見たいなあ

大阪市 津村 志華子

令和五年B団地にも春が来た
新年は家で仏と祝いたて

年末年始入院というお仕置きに
意に添わぬ事ばかりなり老いるとは

退院の其の後の不安あれやこれ

大阪市 寺 本 実

大阪市 宮 崎 シマ子

内宮は栄え外宮寂しいお伊勢さん
想い出を紡いで歩く裏通り
譲られて始末に困る里の家
偽りの神は金だけ吸い上げる
動員の声はかからぬ歳ですが

大阪市 原 田 すみ子

漁火を友と手を組み見つめてる
ホームではお餅も出ないお正月
こんなとこに夫のへそくり貰つとく
あの雲は友を待つての動かない
腰痛で丁度よかつた寝正月

キッチンはいつもわたしを光らせる
訳有りの人も野菜もそそられる
母の味わたしは何を残せるか
言い分けを探すわたしの背が曲がる
そのままがいい比べることはもう止める

大阪市 横 山 本 加おり

久々の上京友の一周年
碁盤囲み冥福祈る畠碁仲間
八十の壁越せない友が増えてきた
アラフォーの姪の結婚いい知らせ
戦などしている時か地球危機

大阪市 平 賀 国 和

カズノコはちょっと贅沢した気分
今までの人生書いて蘇る
プリンター故障で友にSOS
夫の声はつきり聞いた夜明け前
子の前で心配かけず空元気

大阪市 横 山 里 子

来客があると出来ちやうお片づけ
意外なモノ売れてビックリするフリマ
激太りしている妻のスケジュール
すっぴんは肌も何だか嬉しそう
パスワードつい声に出し入力す

大阪市 降 輜 弘 美

光熱費値上げラッショウが癪の種
Jアラート鳴つても逃げるところがない
介護資格使わぬままに介護され
息子より会話がはずむ口ボコちゃん
テレビ消すわたしの時間取り戻す

堺市 柿 花 和 夫

来客があると出来ちやうお片づけ
意外なモノ売れてビックリするフリマ
激太りしている妻のスケジュール
すっぴんは肌も何だか嬉しそう
パスワードつい声に出し入力す

雑学を武器に歳の差埋めている
仲直りできそう充電済みました
駅名にアイヌの歴史北の旅
コロナお手柄わが家にホームバーできた
耐えているピサの斜塔も難民も

堺市源田八千代

池田市太田省三

山頭火の境地晚秋何か鳴く
透き通つた秋空の下亡夫の忌

白菊を好んだ母の心意氣
芋掘りと柿挽ぎ曾孫大はしやぎ

ちょこんと座り僧のお経聞いている

堺市齋藤さくら

大地踏みしめて命の重さ知る
ふる里は土の匂いのしてゐる町
良い人になれぬ悪い人にもなれぬ
友に会う楽しみ元気湧いてくる
顔よりも頭の形誉められた

堺市坂上淳司

独裁者増え混沌とする地球
台湾有事有れば沖縄巻き込まれ
飢える民見ずにミサイル撃つ狂気
ミサイルが飛び越えてから出る警報
徐々に徐々に面舵を切る日本丸

堺市内藤憲彦

若き日の僕の匂いがする息子
夕紅葉いにしえ匂う法隆寺
裏切りは裏切りを呼ぶ戦国史
しつかりと百を越したい粗衣粗食
願わくは演歌流れる家族葬

何回もブレーキランプ九十九折
行動が地域支える婦人会

詐欺メール残金ゼロの鉄の壁
少子化の母校が消えて故郷死ス

鉄鍋とお玉がひびく町中華

貝塚市石田ひろ子

ベン豚脛を知らぬスマホに馴染む指
久びさの句会血液さらさらに
落葉燐燐ふとシャンソンを口ずさむ
昭和一桁どっこい令和華にする
てのひらに大きな恩があるのです

河内長野市梶原弘光

耳の痒み治り小指を持て余す
ストレッヂ負荷のかけ方にも慣れる
三千円以内と決めてますサプリ
墓仕舞い引っ越し先を決めてから
後出しのじやんけん既に読まれてる

河内長野市木見谷孝代

休耕田コスモス揺れて人の波
耕して土に元気をもらう日々
絵手紙で心耕し十五年
あれこれと刺激をくれる友がいる
この世の旅焦ることないあと少し

河内長野市 中島一彌

岸和田市 雪本珠子

静いも日課のひとつ自然体
戦場に散った命の軽さ問う
バスよりも山車を優先する風土

情緒捨て観光を取る町づくり
ドヤ顔の園児が見せる掘った秋

河内長野市 藤塚克三

吹田市 太田昭

年重ねいろんなことの謎が解け
酒浴びて湧いたプランはすぐ忘れ
ありがとうの妻の一言サプリかも
支えると笑った妻も医者通い

詰め放題不動明王主婦の顔

河内長野市 村上直樹

高槻市 片山かずお

九条で戦も知らず喜寿傘寿
ぎりぎりでも生きた誇りの戦後つ子
平気ですあの世でも酒飲めるなら
目論見通り運ばぬ老いを楽しみつ
校庭の歓声夢よ咲け実れ

岸和田市 岩佐ダン吉

高槻市 島田千鶴子

地球儀が泣いていますよ大統領
年金が減った医療費倍と言う
距離を置き暫く僕を見てやろう
眩きもやがては声になるだろう
忖度が続き私が軽くなる

生きてれば心が折れる事もある
迂回したお蔭で視野が広くなり
ありがとうの気持忘れず生きてゆく
日日感謝余生を妻と過ごす幸
八十路坂気持は若い頃のまま

充電です十分ほどの立ち話
ミステリー興味津津秋夜長
本棚の奥にひそり歓異抄
参道の落葉のアート消す風よ
坂道のバス停の椅子ひと休み

高槻市 初代正彦

豊中市 上出修

皆既月食惑星食に酔うた夜
澄みきつた青空日本の平和

買い物偶のお供もいい刺激
ふるさとの秋を包んである土産

気晴らしにボールをポンと蹴りあげる

高槻市 富田保子

糸通し出来て金寿の針仕事

毛筆を持つと背筋がピンと立つ

会う人に会えた笑顔が嬉しそう

新米の宅配便に涙する

当分は旅行するなど言う夫

高槻市 松岡篤

お年玉皮算用の内が良い

久しぶりの熱はコロナかインフルか

一枚で便利とリスク持つカード

音信が絶えた友から年賀状

川柳に溺れた沼が深すぎる

豊中市 池田純子

若者のどうぞの椅子にありがとう

歩ければアーチジョで良し二重丸

五センチのヒールで歩く夢を見る

飛び跳ねていたい今年は兎年

天体ショー孫とはしゃいだ赤い月

深い闇オリンピックも金まみれ
老い知らず古希にも米寿にも五欲
老いる脳鋸びてたまるか五七五
ノーベルから連絡ないとハルキスト
神々しい思わず拝む初日の出

豊中市 藤井則彦

久しづりの旅にときめくバスボート

きつちりと靴を揃えて恙無し

のんびりとしてた昭和という時代

蹴らないと心配されるお腹の子

お風呂場でわたしの美声響かせる

豊中市 松尾美智代

逆上がりできた夢見てふとやる気
お互に知らん顔して済むマスク

百歳の夢語り合う遠い耳

懸命に生きて合点の行く最期

いざ妻が外出すると寂しがる

豊中市 松尾美智代

足早に過ぎ去つてゆくいい季節

ひとつずつ仕事こなして日が暮れる

片付けがいっぱい待っている八十路

おいしいは大事な言葉生きる糧

皆出かけホッとひとりでモンブラン

豊中市 松 田 蟻日路

寝屋川市 川 本 信 子

時雨ゆく落ち葉と俺を湿らせて
色づく木々どのあたりだろ俺の秋

待合室ベンチの端に一人ずつ
樂勝のはずがエラーでこける虎

譲れない物も有ります僕だつて
讓れない物も有ります僕だつて

豊中市 水 野 黒 兎

寝屋川市 伊 達 郁 夫

ゴロゴロと小芋洗つて秋豊か
コスマスの迷路に秋の日を遊ぶ
三叉路の風にまかせる進む道
金曜はルンルンだつた若かつた
幾度目の卯年再び跳ねようか

富田林市 中 村 恵

寝屋川市 富 山 ルイ子

小さな翼を持つていましたむかし
断捨離を兼ねて尽きない衣更え
思い出の母のばらずしお赤飯
疑いの芽は早々に摘んでおく
優先席シルバーだけが譲り合う

富田林市 山 野 寿 之

寝屋川市 平 松 かすみ

幸せのバロメーターは笑い皺
メルヘンの世界へ誘う子守歌
一本の傘へどうぞが美しい
笛太鼓体が疼く血が騒ぐ
懸崖の菊庄巻に息を飲む

富田林市 山 野 寿 之

寝屋川市 平 松 かすみ

願い事一つ増やして初詣
カフエインの力を借りる老いの脳
水空氣あるから文句言えません
元気を過信ギックリ腰が襲う
見てほしい褒めてほしいと青いバラ

次ないと知っているけどまた今度
することがあるから今日もメガネ拭く
爺さんと呼ばれ返事をしてしまって
順番に逝くから覺悟出来てゐる
字足らずの秋がふんわりやつて来る

ねやがわ句会行きたければと言うけれど
ワクチンの五回目予約してくれる
ウクライナ冬に向かって頑張つて
生活の基盤なくなるウクライナ
ウクライナの事考えて痛む胸

祝米寿お鮓十貫平らげる
生きること忘れぬよう深呼吸
記憶には無いが写真に並んでる
あちゃんの今日の出立ちヘルメット
八波など来ぬよう祈る今朝の冷え

寝屋川市 廣田和織

羽曳野市 藤原大子

考える葦でありたい喜寿の坂
ストレスで甘さが増すという果実

医者の指摘に心当たりの私生活

寒風に晒して僕に味が出る

どんどんとサラサラになる夫婦仲

羽曳野市 磯本洋一

しかし待て議員定年そのままか

今時はスマホの釣書味気なく

まあまあまあ試飲コップで目が回り

元気かい煙草酒止め羊羹も

こんこんの雪が恐くて息子呼ぶ

羽曳野市 宇都宮 ちづる

チンブンカンブン理解不能の若者語

夜中のキツチングキブリに出会す

喜寿參寿あたりが町の溝掃除

部屋犬も行く寝る前のトイレット

巣ごもりに慣れて紅葉の誘い断つ

羽曳野市 徳山みつこ

まつ白な今年汚れませぬよう

小春日に笑う山茶花二つ三つ

亡母の齢越えて糠床なじみ出す

電子辞書よりよれよれのマイ辞典

苦労した人だ自然体になる私

コロナ禍のやる気しほんだまま三年
日記とや今じや私の記憶帳

何よりの天敵決めない私

一言がフラッシュバックして責める

新聞とにらめっこする至福どき

羽曳野市 三好専平

涯知れぬ砂漠に挑む棋士聰太

八階の病棟に入り決めこと

コルセット外したままの足の冷え

退院の人がバッグを肩にかけ

腰痛の霜月の朝となりにけり

羽曳野市 吉村久仁雄

のんびりと生きるとすぐに腹が減る

次の日のおでんに妻の愛を知る

ぎらぎらと睨みつけてた惚れていた

デジタルな暮らし生き様はアナログ派

喧嘩もう止めスンとお酒がそこにある

羽曳野市 北村賢子

コロナ禍へ充分すぎるほど一緒に

ありがたい參寿を過ぎたバースデー

月蝕へベランダ出たり入つたり

血眼で赤銅色の月を見る

天体シヨー何度大空仰いだか

東大阪市 佐々木 満作

枚方市 藤 田 武 人

物価高倹しく暮らすほかはない
真夜中も情報キヤッチするスマホ
混迷の世の中なるようになるさ

子も孫も入れて毎月誕生日
終活はまだしない百まで生きるから

東大阪市 西 村 哲 夫

干からびた芸へ声援という水
名言を焼き付けている耳小骨
搖るがない駆ける父の座標軸
鍵穴に潜む攻撃型メール
人生のマニュアルの数ひとの数

コスモスもわたしも秋を愛おしむ
チツチツチツ小鳥の声を真似てみる

亡母の味やとカレーライスを食べに来る
掃除機もわたしもフリーコードレス

私にない優しさ病夫あなたが持つてはる

慚愧無き心で過ごすお正月
呑むだけの正月おせちよく似合う
そうですか言えば終つてしまふから
川柳の薫じる先は路郎流

無位無冠私はわたし母の自負

枚方市 谷 英 也

藤井寺市 太 田 扶美代

ここ三年マスク美人に慣れました
賃金延びず物価指数は延びてます

コロナ禍も普通の風邪になりきれず
八十路きていたまだ夢見る追試験

便秘です自転車止めて歩きます

枚方市 丹後屋 肇

藤井寺市 鈴 木 いさお

マドンナも杖で参加のクラス会
ざんばら髪稽古の虫のでかい夢

老いの杖一票投じて帰るのみ
情けないコロナナープーチン寒暖差

振り込みを急かすメールがまた届く

頭から足の先までお爺さん
本気出せば若いもんにはまだ負けん
ボケないで九十までは生きたいね
老人と呼ばれたくない翁寿です
諦めが悪い僕です悪しからず

藤井寺市 吉田 喜代子

箕面市 広島 巴子

末妹の喪中ハガキを出す身とは
五体みな不満足です生きています

川柳を長く続けた御褒美に

中妹とは電話回数増えました

来春は明るい光が射すように

箕面市 大浦 初音

拾つた犬常に忠実恩にきる

老大にわが老い先を教えられ

まな板に鉗をかける亡父がいた

一番星見つけて帰る子供たち

キヤッショレスなれて無駄買ひ多くなる

箕面市 中山 春代

Iターンの友の工房皆遊庵

「ゆきの家」初体験の山羊チーズ

ハロウインの魔女へお菓子を渡す役

残り物にコロッケ足して晩ごはん

藁を焼く煙に透けている昭和

箕面市 出口 セツ子

言いたいこと顔色を見て言えず老い
忙しい方が元気になる私

子を産んで長生きしたい欲がある

優しい子居るから明日もがんばれる

子が元気ならば幸せ世界一

旅の無事まず大仏に祈願する

アルプスの峰に感動雪化粧

ゴンドラで空中散歩夢心地

滑りたい苗場リフトで青春に
八年振り車窓わくわく日本海
旅の無事まず大仏に祈願する
アルプスの峰に感動雪化粧
ゴンドラで空中散歩夢心地
滑りたい苗場リフトで青春に

八尾市 寺川 はじめ

好きも嫌いも三度の飯を喰みしめる

青春時代何と響きがいいんだろう

火傷せぬ距離で悩みを聴いている

恥を承知で言うたひと言座が和む

思い起こせばあのひと言で波に乗る

八尾市 村上 ミツ子

川柳にざつくばらんをちりばめる

ベランダのすみれぐちばかりきかされる

わたしの愚痴だまつてきいてくれる空

とりあえず起きるなんとかなるだろう

愚痴にみせかけた幸せじまんだな

大阪府 米澤 哲子

気の乗らぬ話は浅く腰かけて

足元のしあわせついぞ忘れ勝ち

母の教えに無駄というもの見つからず

ひと月の糧を宅配に頼る日も

秋の夕暮もの悲しくて嫌い

神戸市 上 田 和 宏

神戸市 敏 森 廣 光

イヤなところも許しておこう妻だから
ぼやくのは余裕があつて出来ること
子に勝てぬ歳を悟つてゐる至福
チャンネルはどれもおんなじことを言う
ガードマンスタイルで行く夜散歩

今日もまた馬鹿でないのかもの探し
一時間待てば必要のなかつた死
遺産相続昔のうらみ顔を出す
勘違ひする者がなつてゐる大臣
帰り道ビールの当てを買う余生

神戸市 奥 澤 洋次郎

この歳でまだ働ける場所がある
妻娘孫女性の絆強いなあ
久しぶりの飲み会友に癒される
今年こそ行つて騒ぐぞ忘年会
幾つになつても優しい人でいたいなあ

神戸市 富 永 恭 子

間の抜けたやり取りだけ和む老い
新年を空気のような夫と屠蘇
思い出に石を投げつけちょっと遊ぶ
スキンシップ膏薬張りがただ一つ
思いの蓄咲かすぞ今年そのつもり

忙しくも満たされぬ日日人を恋う
胸中を察して言葉しまい込む
信用を受けてやりぬく力涌く
朝露を浴びてかぶらも甘くなる
悪用はしないでドローンもA-Iも

神戸市 能 勢 利 子

Jアラート朝から響く文化の日
秋夜長読書もいいが酒もいい
坂のない道を歩けるやつと八十
一年を静かに終う銀杏の葉
寒い朝すべて許せる夏のこと

神戸市 近 藤 勝 正

神戸市 松 倉 正 美

両腕にワクチン打つて冬支度
友の悩み親身になつて聞く夜長
児も母も満艦飾の七五三
どしぶといコロナ野郎が憎らしい
坪庭に熟柿が落ちて真つ赤つか

神戸市 神戸市 神戸市 神戸市
近 藤 勝 正 美 富 永 恭 子
奥 澤 洋次郎 能 勢 利 子

神戸市 山 口 光 久

芦屋市 新 須 義 明

咄嗟に出たジョークにその場救われる
大声をあげるほどもあるまいに

揺れながら老々介護続いてる

団子虫に保身の術を学ばねば
やるだけのことは遺つたと風を待つ

神戸市 山 崎 武 彦

尼崎市 近 兼 敦 子

ふわりふわふわふわふわりご前様
偏差値で輪切りされてく子の未来

蛮行にJアラートが鳴り止まぬ
ロマン追う少女は花の匂い持つ

焼酎にカニ缶が付く誕生日

明石市 糀 谷 和 郎

尼崎市 永 田 紀 惠

ワクワクの欠片が底に古鞄
神はまだ見捨てておらぬいい目覚め

グラデーション元の私が薄れゆく
ひとりでは編めぬふたりで編む家族

君とならやれる気がする茜雲

芦屋市 荒 牧 孝 子

尼崎市 羽 奈 和 子

平凡に過ぎた一年感謝する
この年で生きがい見つけ句作りの

ワイワイと家でタコ焼き子にかかる
平和ですテレビ見ながら居眠りす

横の椅子貴方を待つて空けてます

値上増タンス預金の鍵も開け
グローランプつくり遅い更迭が

スーパーの無料袋をリサイクル

母超えるいなり寿司には未だ会わず
トイレ用ミニエアコンがあれば買う

恋をしてまるで別人二十歳の娘
さわやかにはようさんで仲直り
結び目をわざとふんわりさせたまま
車イスぎゅっとにぎった使命感
自信あることはたいていボツになる

なにやかや言うがまとまる飲み仲間
悪友が多く世渡りスマーズに
忘れましょ答え合せはしないまま
G7なぜか見劣りしたジャパン
老人医療値上げを聞いてスクワット

背は高い足も長いと限らない
混んでも空いてもイヤ病院は
勝ち負けにこだわらないと負ける側
することがあつて朝から元気です
イベントのよう楽しむ回る寿司

尼崎市 藤 井 宏 造

川西市 山 口 不 動

案山子にもごくろうさんと秋祭り
はぐれ雲氣樂でいいな一人旅
運動会孫を見つけるのが仕事
若いなあと言われて役をさせられる
淋しさがどんどんつのる秋の雨

尼崎市 藤 田 雪 菜

あつあげにだいここんにやく冬温し
初恋の人も老いたか落葉踏む
明け遅しベッドの中で五七五
毎日が聖なる日々や八十路坂
どんぐりのころがる道をそろそろと

ガムテープしつこく貼つてある荷物
あいさつで増えるつながり地域の目
水捨てて水の匂いのする花瓶
窓開ける部屋が寂しくないよう
一服にお茶も紅茶もマグカップ

三田市 足 立 つな子

まつくりに焼けたニンニクおいしいの
気のきいた生意氣盛り目立つころ
聞こえてるイエスもノーも言わないの
犒われ並み大抵のことではない
エイジングあつちこつちが痛みだす

三田市 稲 角 優 子

金持ちは古今東西ケチですわ
半世紀たつて変わらずサザエさん
盆・暮を催促して母元気
指揮棒振る孫の帽子の羽根が揺れ
里芋がゴロゴロ母の小言言う

加西市 山 端 なつみ

三田市 上 田 ひとみ

赤ん坊の笑顔ののようなパン焼ける
嬉しいと人に優しくなつてくる
あきらめない佳き日は今にやつて来る
外来の廊下で遅い秋を知る
萩のみち母に叛いた日を想う

今日は標準語での初朗読
鎌倉の話になぜか播州弁
アクセント辞典片手にチエックする
アクセント気にしすぎると読めぬ文
朗読会次はいつかと記入あり

本当にことをとてもつらいこと
大丈夫あなたのウフフ守ります
長年のボーカーフエイス疲れ氣味
陽の当たる小さな家で幸せで
友だちの作ったお芋の甘いこと

三田市 大 西 重 男

廃校の廊下に残る遠い夢

平均寿命越えてこれから付録です

思い出を缶詰にしてあの世まで

金がない知つてか詐欺の電話ない

三年越しマスクはずした素顔見る

三田市 尾 崎 一 子

衣替えコタツも出して猫になる

月食に御近所さんの顔そろう

何もないがゴミはたまるよ生きている

カニ解禁テレビ見ながら里を恋う

菊日和家族が揃う墓参り

三田市 九 村 義 德

逆風が養いました根性

プランなし人生気儘ひとり旅

指切りを信じ眠った孫の顔

羽ばたけと飛び立つ背なし郷の風

立つ位置を変えれば見えた打開策

三田市 住 吉 美 和 子

次々と値上げラッショで身も細る

老いの日々皆で知恵出し暮らして

風に揺れる洗濯物も秋の色

案山子祭り世相を映す晴れ舞台

四季折々田舎暮らしは魅力的

三田市 多 田 雅 尚

コロナ慣れ感染者数気に留めず

簡単な体操さえも続かない

日差し浴びパワーを貰う老い二人

血圧と体温測り今日も無事

スポーツの後はシップの世話になる

三田市 中 山 昭 美

自家野菜どっさり入れた自慢鍋

国宝と知つて野仏もありがたし

誤送信よりに選つてすぐ既読

ストレッチすればボキボキ老いの音

おにぎりをふわっと結ぶ優しい手

三田市 野 口 真 桜 子

人生を狂わすタイプ君に夢裡

気合だけで買ったスマホに躍らされ

遺言は安い柩と家族葬

ミサイルに平和背負わす罪な国

あの日から秘密を抱いてダイヤ婚

三田市 村 田 博

継続は力と知つた文化の日

ビッグマウスチーム鼓舞する大花火

間引き菜で一品おかげ出来ました

テニスコート忍者まがいのステルスで

年賀はがき減つてもゼロにせぬ積り

高砂市 松尾 柳右子

丹波篠山市 藤井 美智子

成り行きに任してありがたい師走
年末の墓参り遣う孫子達

恙無く亡夫を偲ぶ 6年目

それぞれの名前までつく孫曾孫

栗むきの苦勞が判る栗御飯

宝塚市 丸山孔一

自転車の前におばちゃん横一列
たてがみの立派なオスは動かない
ぼやけてる眼鏡拭いてもまだぼやけ
断捨離と言いつつ妻は家電買う
夜明けかと見れば時計は午前二時

丹波篠山市 北澤稠民

霧深い丹波に冬がやつてくる
しわしわの手で渡される妻のお茶
世界中心寄せ合う募金箱

今我老いやく備え食べること
幾とせも住んで都と知る我が家

丹波篠山市 酒井健二

爪だけは丸く研いて旅の人
善人の顔して渡る壱岐対馬
壱岐対馬記述通りの倭人伝
背伸びして釜山眺めている倭人

奮発の壱岐焼酎は値打ち物

怒らずに済んだ自分を褒めてやる
亡夫の分私がもらう生きる道

人氣者ひ孫家族を和ませる

のんびりと出来る我が家が愛おしい

新年へ卯七回目の年女

西宮市 緒方美津子

久しぶり元気をもらう「舞いあがれ」
今を舞うしなやかに舞う秋の蝶
マイペースすたこらさつさとはいかぬ
ソフトな声ではつとまらぬ鮮魚店
可愛がつても逃げていく籠の鳥

西宮市 亀岡哲子

少しづつ押してコトント開く音
ふくろうの住居無くしてビルの建つ
今更に分かつたことのあり 小春
会えないありがとさんと選る歳暮
お巡りさんに助けてもろた里の道

西宮市 福島弘子

悔やまぬよう会える時会つておかねば
百式歳形見の琥珀偲ぶ会
クラス会兼ねる恩師の墓参り
故里的香りも届く初りんご
物価高具材を減らす鍋料理

南あわじ市 萩原狸月

奈良市 高橋敬子

反論に半歩譲つて妥協案
歌映画美術に飢えて島ぐらし

一票をくれる人なら色を見ず

手間要らぬ夫で妻に忘れられ

いつか死ぬ今日でなかつたそのいつか

奈良市 東 定生

金曜日リタイヤしてもなんか好き

冗談もジョークも言える国が好き

バラエティー字幕が欲しいニッポン語

億もするミサイル飛ばす北の国

奈良市 東

奈良市 東

ひつまぶし食うためだけに名古屋行く

年賀状やめると言えぬ歳上に

スロー&ステディ我がリハビリの合言葉

ご近所散歩あごマスクだけつけていく

ゆつくりねと言われ留守番寝てるだけ

奈良市 山本昌代

締め切り日漢字調べているうちに

ブーチンはもう人間をやめたらし

厄介かけます団塊世代です

立ち話ラ抜きイ抜きは自然体

夢もいいけど人を巻き込まないでよね

奈良市 加藤江里子

奈良市 米田恭昌

トロ箱の鰐懐かしい浜育ち

一本締め祭り終了悲なく

良心の欠片を探す謝罪文

瞳に涙吾子は悔しさ堪えてる

異国の街ふつと暮らしてみたくなり

万博よ五輪の轍を踏むなかれ
観光地インバウンドに気もそぞろ

暑いねが寒いねになる母の声

失敗を笑いに変える旅の道

秋明菊風の行方追つた跡

奈良市 辻内 げんえい

秋景色ひとり散歩の靴の音

海岸を歩く波音耳にして

帰ろうかお腹もグウと鳴り出した

ひとりじやないながーくのびる夕日影

シャンプレーの香り明日へ夢つなぐ

ハロウイーン阿鼻叫喚の大惨事

ブーチンを取り巻く平和叫ぶ声

リベンジを誓う男に炎ほのらたつ

スマホ手に同行二人という遍路

諸物価高騰眠れぬ兎目が赤い

生駒市 飛 永 ふりこ

奈良県 谷 川 憲

掛け軸の七福神に祝う屠蘇
誉めたのに深読みされる情け無さ

山頭火飄飄生きる道標

大らかな笑い木靈す紅い森

真つ直ぐな銀杏仰いでさあジャンプ

香芝市 大 内 朝 子

奈良県 中 原 比呂志

踏み出せば心羽撃く青い空
日溜りで働き蜂の頃思う

御利益は決して金で買えません

重い荷をまだ下ろせないカタツムリ

前を向き希望の明日へひた歩く

香芝市 山 下 じゅん子

奈良県 中 堀 優

半世紀家族の会話を聞いた椅子
敬える父と気付いた七回忌

方言を使うと故郷近くなる

家族皆壁を作らずワンチーム

旅するチヨウ羽根を休めてわが庭で

奈良県 安 福 和 夫

奈良県 長 谷 川 崇 明

振り返り我也大和の謎探る

二上山指差す卑弥呼目に浮かぶ

日本の源流探る奥深し

高松塚飛鳥美人無事復帰

古都の謎発掘に目が離せない

夢を見ることはA.I.では出来ぬ
三年が残酷でした同期会

カタカナの波に溺れていく八十路

サンマ高値やはり秋だし食べました

戦よりドローン平和の使者になれ

コロナ禍の祭り元気を皆もらう
円安は日本の良さを売るチャンス
何をしたということもなく日が暮れる
独裁者相談できる人いない
海の幸いいっぱい母の散らし寿司

中原比呂志

初日の出高い所へ登りたし
叶わぬが賽銭投げて鈴振つて

一億を信者にさせて日は昇り

福耳といわれ細々暮らす日々

子や孫が働き返す給付金

老いた鯉まだ上ろうと川の堰

閻魔さまに問う極楽か地獄行き

頑張ろうと誓う二人のゲータッチ

喜寿を越え見かけは枯れど脳青葉

祝迦の説く「空」少し知り楽になる

奈良県 長 谷 川 崇 明

奈良県 渡辺富子

身の内の尖りが消えるまで歩く
お日様と折り合いつけてウォーキング
理想とは遠い男にある魅力

コロナ明け若さはつした惨事
まあいか自分に言つて甘くなる

リモコンで僕の一日制御され
天敵は私の中に棲む悪魔

秋なのに思考回路が錆びて
柿の種植えて八年待ち切れず

マスク顔慣れてしまつたノーメイク

和歌山市

柏 原 夕 胡

紅葉狩りせぬまま冬になりました

猫が居るので暖房は消せません

パンジー植えた球根も植えました
冬の日の風呂極楽の声が出る

冬の日は手抜きの出来る鍋がある

和歌山市

松 原 寿 子

土の香が好きで高層には住めぬ
文化財指定囲炉裏で集う里の秋

発想の乾き散歩に癒される
鈍くなる頭磨いて趣味生かす

優しさがじんわり浸みて頬伝う

和歌山市 藤原ほのか

リハビリはやればやるほどもどかしく
あせらない一歩ずつ歩く庭

このまま終れない歩み止まらない
一日を精いっぱい生きて過したい

坂道でも歩みを止める事はない

海南市 小 谷 小 雪

市民には良い戦争はありえない
残念にも喪中ハガキに致します

拉致の二字まだ悲しみに耐えている
合点のいかないうちに夕暮れる

ひょうひょうとアンソロジーを紡ぎゆく

橋本市 石 田 隆 彦

のんびりと生きるも老いは急ピッチ

里山も田んぼアートで村起し

妻がいるそれだけの幸つね日ごろ

国会の答弁聞くと出る阿修羅

打つ手と詭弁ブーチンにある焦り

川柳塔柳箋

3冊 送料共 1000円

事務所あてお申し込み下さい。

波蘿草の花 ①

野沢省悟

「川柳触光舎」主宰

新年おめでとうございます。当欄を担当することになりました野沢省悟と申します。

新年おめでとうございます。当欄を担当することになりました野沢省悟と申します。簡単に自己紹介します。昭和28年生まれ(ブーチンより半年程若い)、青

森市在住。看護師として国立病院に勤務(今は無職)。昭和51年(23歳)川柳入門。現在「川柳触光舎」主宰。みなさまの作品から力をいただき当欄と一緒に歩いてゆきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

タイトル「波蘿草の花」は、麻生路郎の次の句から考えました。

君見たまへ波蘿草が伸びてゐる

僕はこの句の波蘿草が野菜であること、誰かが種を蒔かないと芽を出さないところから、この波蘿草は川柳人のことではないかと思いました。路郎が川柳という種を蒔き、そして多くの芽を出し育つた。やがてその波蘿草は次々と花を咲かせた。その花とは川柳の一句一句という

花。「川柳塔」欄は、そのお花畠と思つたわけです。

美しい錯覚でした枯れ葉舞う

上田紀子

落葉ではなく舞うのは枯れ葉。茶色になり乾いてしまった葉が舞う中に、ひとりの女性が佇み空を見上げている。さつきさやかな別れがあつたのだ。あきらめるためには、何か言い訳を考えなければならなかつた。そうしなければあきらめきれないから。ふいに一陣の風が吹き、一枚の枯れ葉が舞い上がつた。そしてキラリと輝いた。やがて女性は一步を踏み出した。

秋日和ひがな一日ぬらりひよん

斎尾くにこ

「ぬらりひよん」は、漫画「ゲゲゲの鬼太郎」に出てくる妖怪。お爺さんをお地蔵様にしたような姿で、気配を消す能力があるという。みんな出かけて一人になつたある日、何となく人間で居ること

がめんどうくさくなつた。そうだ、ぬらりひようたんにならう。気配を消して、お日さまと一体となつた、ある秋のいちにち。

白鳥の白一色の多彩かな

葉原道夫

つぎつぎと青森に飛来している白鳥。気高く美しい白鳥ではあるが、近づいてよく見ると汚れたり傷のある白鳥もある。白ゆえに逆に目立つたりする。白は美しいが残酷な色でもある。

「アラート危機感煽りほくそ笑む」

近藤正

僕がB.S「心旅」をみていたら、画面が急に変わつた。Jアラートがあつた。北海道・青森にミサイルが来るという。その後もJアラートがあつたが、一度は飛び越えてしまつてから、二度目は飛んで来なかつたJアラート。何かおかしいと思う人は多いだろう。「ほくそ笑む」輩の仕業ではないのか。川柳の燐し銀の眼が光る。

味噌煮込みうどんに深々と潜る

石橋芳山

コロナ禍、ミサイル、ウクライナでの戦争。いろいろとありすぎる世界。一匹の男にはなすべもない。考えていても腹はすく。ちまちまと働き、「今日は味噌だな」と咳き煮込みうどんをつくりはじめ。食べようとする妻が帰つて来た。叱られることがあつたことを思い出た。一匹の男は煮込みうどんに潜るしかなかつた。

川柳句集『肉 眼』

橘 高 薫 風

滝の白 雨は斜めに降りかわり

春日大社万灯籠 三句

灯籠三千 祈願三千 尽くや神
静かな灯三千集つてしづかなり

大いなる硝子の如き寒氣あり

お水取り 二句

火の粉降る闇 豊頬の奈良乙女

走る火の行きつくところ屋根の反り

恋を待つ人座り椅子充実す

雪国の路にひ弱な都会の靴

真心をあげて淋しくなりました

待つ人が来て愛犬を放ちやる

税務署出て万の毛穴を推しひろげ

赤い釣 赤い糸もて人魚は釣られ
春愁の 無より淋しき無限大

笛吹き童子 恋ならなくにならなくに

仏像を恋うるがごとき恋となり

ホームバー 子なき夫婦が赤を着て

秋吉台 石の饒舌 雲の黙

朱の鳥居 愛恋道の入口か

寂まくと 伎芸天女に指紋なし

尾の道にて 五句

師はあらず 文学小径埒もなや

尾道や 今見下ろせし船に乗る

五月の雨 尾道生駒似たるあり

師を胸に置く 船と船すれ違い

盲目の亞鈍氏が笑む 師を話し

四十過ぎ 闇の深さが見え初めて

鯛網の威勢も劣る鯛の鱗

鯛網の冷めたき鯛と思われず

香水を変えぬ 女の糸に似て

自選集

小島蘭幸

トランボリン兎の脚力が欲しい
聞く力總理の耳と僕の耳
返納しますか認知検査を受けますか
カウントダウン生きねばならぬ日が続く
柳歴を誇る一途な僕がいた

平田実男

年輪と思えば皺も勲章だ
よいしょされまだ会長をしています
いい汗がビールをうまくうまくする
計報欄今日も僕より齡が上
生字引なんて言われている卒寿

福士慕情

師の句碑と会える中野の紅葉狩
年賀状今年も減った喪の知らせ
あの世へは行つて帰つた人いない
娑婆にこそ地獄極楽あると知る
不眠症ねむりの醒めぬ時がくる

恩師との別離

藤村亜成

看取られる方が見送る破目になる
生き切った微笑湛えている骸
涙溢れ言葉つまらせ読む弔辞
大切なひとが何故そうも先に逝く
現世の守護霊となる師の祖靈

松本文子

酸欠になりそう ふっと空を見る
我慢ガマンと生きて来た昭和
幸せをしみじみ結ぶ糸の先
蚊も生きているのに叩くくせが出る
米寿です 自転車止めました

三浦強一

家庭菜園収穫祭はバーベキュー
スマホより生で聴きたい孫の声
柳誌来て心が和む秋灯下
巣ごもりへ生きる鼓動の五七五
濡れタオル立てて見せます氷点下

三宅保州

坂道があつて人生鍛えられ
村長の音痴の歌で盛り上がる
祭りより露店目当ての孫はしゃぐ
テレビでは窮屈そうな立ち廻り
年の暮れだから解決できること

村上玄也

広大な大地持つ露の領土欲

人間と思えぬブーチンの仕業

頑張れと祈るしかないウクライナ

独裁者同士気脈が通じ合い

毎日が同じバターンで暮れていく

輪廻とや

八木千代

百年あまり生きて終わつた樅の樹よ

父の愛した松は庭師の定収入

もみじ
紅葉は私旅の終りの隠れ宿

枝垂れしだれて根もとの土に実を渡す

輪廻とや
かくていのちは周り来る

山本希久子

のほほんと生きて米寿の誕生日

未経験の米寿だわくわく迎えよう

米寿スタート転ばない風邪ひかぬ

血圧からメッセージくる冬ごもり

句の姿さえ年齢並みになつてきた

板尾岳人

白鳥のように浸りし妻と湯に

仲秋の月眺めてる乳房

おい妻よ風邪をひくなよ露天風呂

明日にも逝くかも知れぬ百度石

一枚の畳に砂漠落ちていた

居谷真理子

子を産んで鯨は魚になりきれず

人の世に生きて深海魚の孤独

スーパーのちりめんじやこにある格差

残酷な箸が兜煮食い散らす

本当の味は煮干しになつてから

川上大輪

へソ少し曲げればそれで済む話

タンスから昔話が二つ三つ

ポケットの小銭明日も生きられる

慌てるなうどん食べたら教えたる

先頭はまつすぐ歩くだけでいい

腕時計話の腰折る役もあり

元旦に会うのに書いた年賀状

実つたを見届けてから散る葉っぱ

街灯に影前になり後になり

婆さんにいつも句会で貰貰う

北野哲男

この橋は渡るべからず鬼が待つ

待ち伏せていたのは鬼か山姥か

花野経由樅山行きのバスが来る

満員のバス見送つてまだ此の世

赤い月の夜はまぼろしだつたのか

木本朱夏

コンビニで弁当買って独り酒
ペちゃんこにひしやげて眠る嵐の夜
閉じた目の奥まで届く稻光
トゲトゲは明日に回して目を瞑る
明日のハードル軽い軽いと眠りつく

高瀬霜石

ゼンマイを巻けば動くことは動く
心と技はまだしも体が追いつかず
絶滅危惧種靴べらを使う人
湿布薬ペタリと貼つて背すじ張る
遺言を書く巣籠りの徒然に

竹治ちかし

国民の心一つにさせた月
人の居る数だけ想い残る駅
新しい景色に溶けて消えた過去
コロナ禍の自粛の中で消えた夢
幸せはきっと貴女の色でしう

津守柳伸

健康で長寿お札の初詣で
天高く冬装束の紅葉狩り
むらさきを被せられ卒寿祝われる
底冷えに釣瓶落しの急ぎ足
晩秋へ喜怒哀楽の住所録

本とチヨコあれば孤独もまた楽し
木枯し吹き落葉舞つて胸の内
川柳にそのうち愛想つかされる
メレンゲを作つてみるか腹立つ日
令和四年いいことがなく幕降りる

仁部四郎

私は女性天皇賛成派
皇室で嫁いでならぬマスマディア
皇室のお荷物もちょっと減らせぬか
お言葉の品格それが国力だ
天皇がいて日本の民主主義

「川雜」語録 ⑩

自己の感懷

前田雀郎

人を捨てゝ人の恋しき影法師

右自信の句と申すよりも、や、自己の感懷を吐き得たりと存する句に御座候、これ今日も変らぬ小生の嘆かに有之、かく申せば作句の動機など、云ふ事殊更めかしく申上げずとも御推察願はるゝものと存じ居り候。

(「川柳雜誌」昭和3年8月)

句集の森



『秀句鑑賞と梅志句集』

後藤 梅志

こぼれでは咲き こぼれでは咲き 朝顔の
朝刊がはさまつたまま日が当り
叩き売りからも甲斐性なしにされ
非常口 こんなところへ吐き出され
図書館のスミで前途を語り合い
スイッチをひねるとはやい油虫
遊んでる目に鉄骨の早いこと
海亀の思えば母に似たしげさ
もう秋か 古い門標見上げて出
キヤラメルを出して淋しい一人旅
鶏とあひる 川原の上と下
ただ人が通る堤を見て飽かず
あじさいの花がゆれてる隠れんば
ゴミ捨場 トンボ安心した姿
夜汽車いま風に乗ってる音になり

(昭和45年2月発行、川柳塔社)

田中正坊川柳句文集『ベンシル』から
温故知新

乙女いま老いていくさを語り継ぐ
ニッポン過労死 豊かさとは何か
受けて立つ喧嘩もあつた靴すべり
ひたむきに生き残照が美しい
不器用に生きてため息ばかりつく
悲しみを重ね大きくなるのです
天と地を汚し豊かになれますか
母の日も母は主役になりきれず
碩学がまた一人逝く沈丁花
転落の詩集浮いてる泥の河
ベルリンの壁を崩したのは電波
善人の帽子に止まる赤トンボ
地平線むかし関東軍ありき
登つたら何もなかつた神の山
後始末せぬ父さんのフライパン
人はみな生きねばならぬ風の詩
さまざまな別れ見てきた風の駅

木 本 朱 夏 選

久 憂 効

門真市 坂 本 星 雨

風船を飛ばし愉快な風に乗る
これ以上これ以下もない橋の上
忘れ物いっぱい過去を手繰り寄せ

山口市 中 前 幸 子

晩学へ風の視線があたたかい
最後まで話を聞かぬ尾骶骨

重い空気を持ち上げる広辞苑
髪切って翔べない鳥になりました

夕焼け小焼け気のいい鬼と手をつなぐ

夢遊び素敵なちぎれ雲に乗る

尼崎市 八 木 幸 彦

二歩進み三歩後退する加齢

ある時は月光仮面になるマスク

起き上がりこぼしのように生きる母

今もなお枝雀が蕎麦をする音

踏み切りの警報いつも試される
冒險の終わり天王寺の夕陽

古里にもう母はなく柿熟れる
コスモスの丘しあわせは風の中
来る冬へ小春日和を身に溜める
濃い珈琲を一口秋が深くなる
裸木が覺悟の風を受け止める
人生の日暮れに一番星光る
欠けてゆく月は悔いなど残さない

貝塚市 吉 道 あかね

なぜなぜが空しいと知る今更に
東京へ向かう重たい足になる
頑張れと言えぬがんばり過ぎたから
緩和ケア余命宣告受けている
お守袋穏やかな日があるよう
に句読点のように三食作つてゐる

三木市 山 口 ヨシエ

大らかに私を生きる恥かいて
凛と立つ追い風向かい風の中
躓いて転んだ石を磨きつつ

尼崎市 清水 久美子

コンパスがゆるり円書く歳になり
よまい言またも眩く足の裏

黄昏に愛を奏でる烏瓜

交野市 山野 双葉

誰にでもおはようが出来る朝のジョグ
ワクチンをせず雑踏を行く出好き

渋柿を百個吊るして夕暮れる

生き下手の杉田久女の句に惚れる
残り福らしいが比べようが無い

景品で貰った辞書は頼りない

大阪市 中村峰子

三面鏡見慣れぬ顔に会釈する
譲りつつ愛はあるかと自問する
置き去りにしたはずの恋燻つて
深呼吸して悲しみを薄めてる
悩みごと首をかしげて聞く仔猫

アールグレイ ミルクを入れて春を待つ

豊中市 貝塚正子

図書館をマイ本棚と決めました
マイホーム隣コンビニ夢のよう
抜け道がいくつもあつて迷います
忘れてたホクロ煩く喋りだす
あの世とはこの世の人のためのもの
鈴の音に尖ったこころ円くなる

大阪市 岡田恵子

リハーサル無しの人生陽が昇る
幸せは短かつたが濃いかつた
五回ほど「さて」と掛け声して動く
痛いとこ突かれて「はて」と白を切る
夫婦げんか外から見るとオペレッタ
記憶消えゆく友抱きしめて「忘れんよ」

大阪市 阪本秀子

カーテンを開けておはよう街に言う
秋ですね栗にさんまにうろこ雲

父さんの茶目つ気こころ緩ませる
エコキヤップ閉めて迷いに栓をする

少しだけ背のび私のリニューアル
母心みょうに染み込む秋の空

河内長野市

坂野澄子

同意書にサイン覚悟の墨の色
病室の窓に見つけた昼の月
なるようにしかならんから笑つとこ

鉛筆が拗ねて弾まぬ誤字脱字
一葉が散つてわが身の老いを知る
振出しに戻り心を解きほぐす

阪本秀子

大阪府 大浦福子

お祭りが終つたように夏はゆく
秋の空青くりんごが食べたい日
お隣のピアノ調律済ましたな

美作市 岡本余光

生真面目で生き下手だった亡父が好き
早々に孝行できず父は逝き
愚痴言わず母はいつでも笑つてた
細腕で支えた母の肝つ玉
母さんごめんもつと優しくしたかった
父母よ命戴きありがとう

大阪府 奥野健一郎

終焉に想いを馳せる秋夜長
生きている苦楽絢い交ぜ日々未完
無観客ひとり芝居が続く老い
男飯やはり気にする物価高
自給率知らずそこそこ食べている
鞭打ち症手鏡で見る月蝕は

横浜市 巖田かず枝

出発点みんなチヨボチヨボだつたはず
矢印に見向きもしない自由人
吉報にあえて釘さす親ごころ
引立て役買つて苦にせぬカスミ草
好敵手いすれも去つた偉くなり
生かされて命しみじみ秋の虫

佐賀県 真島久美子

階段で上げたつもりの足だつた
行く当てはないがワクチン打つておく
採血の看護師泣かせ母ゆずり
若くなれまじない添えてマッサージ
節電のために重ね着家事炊事
ウクライナ助けてあげて寒い冬

和歌山市 定松宏枝

月光が届かぬ場所を見てほしい
わたくしの世界に蟠螭の骸
サヨナラの風は金木犀だつた
空っぽになれずに深夜ラジオ聞く
花言葉勝手に君を困らせる
石像とおんなじように濡れている

神戸市 米田利恵子

出歩くなど高齢者には厳しい目
背筋なら伸ばしコロナと伴走中
紅葉のニュースに窓を開けてみる

嫁姑平和の基は同じ趣味
おばちゃんは気さくに声を掛けてくる
よく転ぶ慌てて計る骨密度
隣家より不法侵入柿落葉

親切の押売りたまに買ってみる
があちやんの知恵を受け継ぐ文化の日

堺市古川光雄

弁当が家族への愛物語る

一人ぼち今日もテレビが友となる
いい年になつた我が子に意見され
飲めることそれが健康バロメーター

歩け歩け年寄りの仕事歩くこと
一病が五病になつて八十路越え
友五人逝つてスマホは鳴りもせず

小田原市 虎澤昭久

あしたへと声掛け合つてゆく絆
意思疎通出来ずに孤独囁み締める

倉吉市 宮田風露

八十路半ばまだ残つて好奇心
懐に夢が広がるまだ若い
線引きのすれすれになる骨密度

横文字に馴染めぬ老いのひとり言
初耳でした耳石と寿命の関係

暗算を旅の宿での脳トレに

鳥取県 橋谷静江

顔のシワ枯れ木に化けるじい忍者
お互いはただの風景散歩道
波しづか太平洋も休み取る
柿の実の隙間の空の大らかさ
肩口の落ち葉と白髪秋を着る
後悔の静止画像の居座りて

弘前市 小山内真由美

もう一度ペアーリングで歩きたい
あの星は私を見つめウインクだ
掃除して孫の来る日は落ちつかぬ
氣苦労は隠していても顔にでる
節電へ早寝早起き決めている

掃除して孫の来る日は落ちつかぬ
氣苦労は隠していても顔にでる
後の無い人生プラン立てている

府中市 岸田武

癖になるおやすみ前に天然水
慣れるとは居心地のよい空間だ
運命と向き合いながら老いてゆく
母でよかつた母の気持ちがわかるから
ラテアートこわさぬように夢の中
自由自由心の中の宇宙船

思い出を棄てにバイクを走らせる

忘れない空持ち帰る球児たち
思い出の明かりを点す祭りの夜

宮崎県 恵利菊江

もう来たか十二枚目のカレンダー
酔えないでいる後輩の喪のハガキ
六人の総代だけの秋祭り
マイナカードお上が頃に急いてきた
うつ伏せに事切れている秋の蜂
嘘らしい語尾の力が抜けている

思い出を棄てにバイクを走らせる

忘れない空持ち帰る球児たち

思い出の明かりを点す祭りの夜

津山市 高橋 由紀女

尾道市 小川道子

子の声を聞きたい柿は熟れてゆく
待ち時間四時間がまんするカルテ
転んだら変わる景色の情け知る
財産が増えた氣がする柿たわわ
草取りを待つ玉葱三百本

広島市 田桑恵子

尾道市 小畠宣之

躓いた小石にドジを笑われる
サプリはいかがとCM迫る老いの午後
スイーツが心の内を覗き込む
必着日指折り数えいざボスト
片づけた筈置いた筈だとまた探す

広島市 松尾信彦

尾道市 村上和子

美容室噂話も巻くロール
マスクでも美人は美人その鮮度
チューニング好みの音で聞く噂
高齢の鑄型も多様その格差
シルバーがカラダを張った通学路

広島市 森田博之

竹原市 土井輝恵

八十路だが恋の文字には脇見する
俺流の不始末妻が尻拭い
じいじギヤグ孫が種本見てにやり
受賞歴皆勤賞と参加賞
少しトーン下げる隣の子を叱る

此処にあり風のまにまに運不運
お浄土の無二の友からメツセージ
可能性信じて励むチャレンジヤー
曖昧な空気漂う群れの中
笑いたいところで啼いているカラス

しなくても良い弁解をする仲間
悔いは無しと言つてそ�だと納得し
悔い多い人生なれど面白し
じいさんの苦労のおかげ栄えてる
あれこれと弁解しても黒は黒

尾道市

想い出を捨て去る思いで断捨離
淋しさと気楽な風と住む独り
菩提寺で先祖の風と語り合う
我が道を極めたように流れ星
お迎えはある日突然それがいい

竹原市

コロナ禍が変えた生活なんとする
新生児寝顔飽きずに三十分
曾孫抱く背骨にあつた未来感
おむつ替え人形ごつこの如くする
なんとかなるそんな気持も年の所為

三次市 伊藤寿子

大洲市 花岡順子

親友の安否きかれぬ日のまどい
「これが最期よ」か細い声が残る耳

大手術二つも耐えた友なのに
気が付けば今日は結婚六十年

ケ・セラ・セラやつぱりわたし抜けてるわ

山口市 兼崎徳子

フルーツを越えてるトマトのインパクト

コスパ良しメイク時短のマスク頬

少子化でこぼれる愛を注がれる

見返りを求めたくなる家事育児

美人顔よりも長寿の恵比須頬

松山市 郷田みや

ダンスと歌インド映画の渦にいる

劇場の出口で愛を確かめる

晴れの日に根回しちゃんとしておこう

賛成もしないが反対もしない

天体ショー見てているだろなあの人も

今治市 安野かか志

愛情の欠片で唸る妻の鞭

少年の大志を碎く老婆心

マイペース崩して自分見失う

秋晴れを独りぼっちの浮浪雲

隠形のカラスの空は鳶が舞う

へらへらのクラゲになつて生き延びる
幸せは好きな仕事に命がけ
末席の気楽誰にも譲らない
昔なつかし蛍光灯のような人

くるくると巻いて初恋しまつとく

高知市 三谷松太郎

補聴器も消しゴムなども二個いるよ

毎朝の行事こなして微苦笑し

この句だと嫁さん怒ること必定

罪深い高価な造花僕の嘘

家族らに隠すほどでもない日記

沖縄県 あらさくら

好きな友似たり寄つたり友を呼ぶ

思いきり乱れてみたい夜の蝶

行く道は口笛吹いて成るがまま

好奇心思考回路がはじけ出る

ねばねばとねばり強さが勝ち誇る

人生の設計を日日立て直し

クイズ番組わたしも解けて脳活に

マスクからこぼれる笑顔笑み返す

川柳を添え赤い羽根募金箱

性格を変える薬があれば良い

沖縄県 福モモト

沖縄県 宮 すみれ

横浜市 加 藤 佳 子

すきな靴迷い迷いに修理中
両手には二個の焼き芋ほつこりと
秋さんま高値骨までしゃぶりつく
独り言重なる枯葉とりながら
秋風は失恋さえもぬぐい去り

富士見市 中 島 通 則

ばつさりと根元切られて醉芙蓉
また来夏素敵な姿見せてほし
暖冬か衣更えには早過ぎる
常連の顔が支えてきた句会
無情にもやつて来るらし第八波

岐阜県 喜多村 正 儀

百均がますます流行る物価高
波乗りはマスター出来たもう八波
半分も知らないけれど流行語
夫婦茶碗が昨夜見た夢語り合う
息継ぎが上手な人の句読点

東京都 宮 田 栄 子

八幡市 武 田 悅 寛

東博の国宝愛でる秋一日
等伯の松林へと迷い込む
大道芸パフォーマンスの空高く
沿線の秋薔薇を愛で都電乗る
アクティブに七〇代のスタートだ

神奈川県 小 田 幸 子

京都府 北 野 クニオ

久々に投句する気になりまして
十年の収穫ワザは笑うこと
鏡見た突然そこに亡父の目
なんでやろ家電いっせいに反乱す
おしめ替え添い寝の犬もあおむけに

人徳はその人逝つて現われる
一人身になつて女房のおかげ知る
給与日は一日限りの旦那様
秋盛り栗柿りんごマスカット
探し物ひよんな所で首を出す

大阪市 今 村 和 男

血圧の多少の上下無視をする

大阪市 松 田 聰

晩秋に月の欠片の揺れる池
切り札を出しているのに知らん振り
うかつにも腹の底まで見せられる
掛け違う釦と穴の仲直り

冬まぢか苔だけ残る植木鉢

大阪市 近 藤 風 羅

茜雲今日の疲れが癒される

大阪市 森 廣 子

ここだけの話みんなが知つてゐる
ほんくらと言われ得心するほんくら
謙虚だと想い込んで意氣地無し
折れぬまましなる強さの母がいて

亡き母と初めて口に出して言う

大阪市 白 谷 よ し み

勾玉に卑弥呼の汗が浸みてゐる
母から子へと編んで繋いだ毛糸玉
母との内緒覚えていますサクランボ
透かして見てる淨土はおぼろ擦りガラス
もうすぐ暮れる気負わなくともいいんだね

大阪市 吉 積 栄 次

雄孔雀やぶれた羽根でプロポーズ
生花展野に咲く花がドヤ顔で

時々に人の優しさ苦になつて
金がなく学が無くても幸せだ

花水木赤い実付けてワインクレ
今日もまた気休めだけの薬のむ
診察待ち淀む時間の思考ゼロ

美人の湯5時間浸かる母の意地
コロナ数欠伸しながら見るテレビ

4Bで遺書らしきもの書いてみた

大阪市 田 原 康 雄

池田市 倉 本 一 弥

月末は豆腐料理が主菜です
物価高霞を喰う人耳にする
庶民には割引旅行予算なし

今日カレー二日は続くカレーの日

秋の夜は月を眺めてスクワット

いい男だいつも笑顔でやつてくる
サプリ飲むでも余るんじや効かないか
猪木の言葉「元気ですか」に救われた
豹柄はファッションじゃない文化です
サプリ漬け医療費よりも高くつく

泉大津市 助川和美

河内長野市 穂口正子

優しい味の暮らしがしたいだいこ煮る
生きてる証しささやかな髪切りに行く
認知症の父が戦争語り出す

りんご剥く母に年齢また聞かれ
長き夜チラシの裏に一句書く

泉大津市 葛城隆雄

吹田市 西沢司郎

行く宛もなし晴天がうらめしい
王手かけ明日は決めるぞこの調子

句捻りのあれよこれやで夜が更ける
皆既月見たいぞ空よ晴れてくれ

知恵絞り絞り切つてのこの一句

泉佐野市 横葉良子

摂津市 野々村レイ子

写真しか知らない亡姉と夢で会う
無人駅日傘をさして電車待つ

内心は若さ競つて老人会
元気ですその頑固さがあるうちは

幸運ねちょっとぴり努力してますよ

柏原市 神崎江

高槻市 鳥居宏

一粒のパール身につけ逢いに行く
始まりも終わりもなかつた淡い恋

ひとり呑みできるお店の指定席

沈黙が居心地良くて君といいる
浮き雲と言われても私は私

家に付く猫か娘が居続けて
許せないことも有るがなこちらにも
喧嘩の後腹いせに蹴る夫の靴
これも縁背中合わせの五十年

粕汁の旨さしみじみ老いを知る
お赤飯母の面影浮かび来る

井戸端の話が苦手間がもてず
意にそわぬ事にもキット意味あるな
好きな事やつて笑顔が満ちている
絵心を持ち続けたら八十路晴れ
お赤飯母の面影浮かび来る

百歳を目指し数独 ヨガ サブリ
いよいよか何度もあつた早とちり
暖房をしてるか長女から電話
堂堂とすすき隣をのぞいとる
水守る主なきあともペシャワール

高槻市 三 谷 白 黒

東大阪市 青 木 ゆきみ

敬老も年齢上げて祝うべき
この歳でするめが好きなおじいです
お隣の野菜の出来が気にかかる
ごめんなさい入浴中の宅配に
似ています四コマ漫画と川柳が

似ています四コマ漫画と川柳が

豊中市 齋 藤 奈津子

東大阪市 青 木 隆 一

物価高徳利の底も上がつて
盗まれた自転車身受け二千円
高齢化ペット病院混んでいる
優先席譲つてほしい欲しくない
まとめ買いした日に故障冷蔵庫

寝屋川市 長 尾 千 賀

八尾市 田 邊 浩 三

街角ピアノ遠く聞えるティールーム
ハラスマント姦しいとか女らしいとか
セーターの編み上がる頃は他人かも
バカラグラス今もあの日が燃えています
眠らせた愛旅行カバンに詰め込んで

羽曳野市 黒 木 ひとみ

大阪府 高 木 道 子

伊勢神楽奉納舞に福もらう
八十を越えまた一年を積み重ね
旅終えて待つ人もない家に急ぐ
金銀の木犀咲いて香を競う

コスモスの優しさ受けて人は笑み

沿線の景色も捨てたもんじゃない
誕生日いくつになれどおめでとう
白髪染めやめても私良い感じ
いわし雲見ればTシャツもう着ない
立ち飲みも女性が集う良い時代
留置いている文すべて鬼が住む
セーターの色であの日を思い出す
飾らずに楷書で暮らす自然体
スース着た人を社長と呼ぶ飯屋
泣き上戸二合の酒で三度泣き
良薬も副作用見て飲む氣せず
人間は根から戦う動物か
新聞が続くのはあと何年か
耳遠く思わず互い怒鳴り合い
大抵のことなら歳と諦める

稜線の無傷の空を鳥帰る
モラルとは何ぞや巡查に聞いてみる

菩提寺の方へ方へと雲流る
命日に行けたら行くわてどつちやねん
無住寺の寂に堪え兼ね銀杏散る

神戸市 石川克美

神戸市 みぎわはな

この歳でポジティブ思考もつかしい

青い空短い秋が惜しまれる

人生の目的は何?と聞かれても:

老い方のレッスンあれば学びたい

化石賞なんてもらつてどうするの

神戸市 城戸誓子

神戸市 村松久江

待ち構え降りまちゅボタン孫は押す

女子会のおしゃべりは木琴になる

ひとことの棘が抜けずに笑えない

行間に想いにじませ君へ書く

散り紅葉森のかけらが降り積もる

神戸市 田本古鈴

神戸市 山根弘華

風が好き私の心揺さぶつて

恋がゆく私は年を取りました

圈外の人には甘んじる

悩みあり人それぞの過去未来

恋文はうす紫の便箋で

神戸市 横田次郎

明石市 瀬島流れ星

親ガチャと聞いてピクピク動く眉

いつからか本音の角を削る癖

爺ちゃんはへらへらするが卑怯じやない

身構えるお呼びかかつた無礼講

悪魔さえ明るいほうが選ばれる

癸卯日本の水を守らねば
水清き瑞穂の国で水を売る

物価高道の一円玉拾う

寿司折りは買えず土産は御座候

味薄い気がする生チューも酌ハイも

喪中でも御節御雑煮御年玉

楽しみが待つて いるよと朝が来る

側に居る唯それだけでは物足りぬ

手伝いの欲しい時には消えている

綻びを幾重にも継ぎ年を越す

喪中でも御節御雑煮御年玉

ガムシャラに生きてゆとりの女坂

しがらみを捨て卒寿の坂半ば

一言で積んだ努力も水の泡

じつくりと大樹育てる母の愛

好奇心まだまだ枯れぬ卒寿です

任せたと聞こえはいいが見放され

条件が揃い過ぎてる落とし穴

ハハハで許した酒の席悔いる

走り書き自分の文字を読む苦労

二番手が解いたどや顔鼻につく

尼崎市 宗 和夫

川柳に託け妻と沖縄へ
平和の礎に思いを馳せるウクライナ
観光客見ようとしない基地のこと
根拠なき自信はすぐに泡と消え
全ボツも旅行支援で元を取り

尼崎市 山本百合
伊丹市 延寿庵 野百合
伊丹市 岡村風鶴

澄んだ瞳には表も裏もない
口ほどに動けぬ老いを確と知り
いわなけりやよかつた世間狹くする
明日の風読めぬまなこを二つ持つ
遣る事がまだある眼鏡光らせる

三田市 幸田厚子
三田市 野口 龍
三田市 松下英秋
宝塚市 岸田万彩

窓開けて昨日の風と入れ替える
スーパーの袋へ今日の幸を詰め
誉め言葉蝶にもさせる人の性
好い目覚め今日の命が躍動し
鳥獣戯画兎楽しく戯れる

三田市 朝はミルクたっぷりカフェオーレ
名人と声かけられてゆるむ頬
この道は君と歩いた記憶ある
盛り付けで味をごまかす嫁と母
無人家に萩とナンテン麒麟草
ドングリのボトリと落ちて二回転
長寿国「歳のため」とふ病増え
そう言えどと書いて話題が変わりゆく
稽田にカカシ一本立ててある

三田市 朝はミルクたっぷりカフェオーレ
名人と声かけられてゆるむ頬
この道は君と歩いた記憶ある
盛り付けで味をごまかす嫁と母
無人家に萩とナンテン麒麟草
ドングリのボトリと落ちて二回転
長寿国「歳のため」とふ病増え
そう言えどと書いて話題が変わりゆく
稽田にカカシ一本立ててある

三田市 朝はミルクたっぷりカフェオーレ
名人と声かけられてゆるむ頬
この道は君と歩いた記憶ある
盛り付けで味をごまかす嫁と母
無人家に萩とナンテン麒麟草
ドングリのボトリと落ちて二回転
長寿国「歳のため」とふ病増え
そう言えどと書いて話題が変わりゆく
稽田にカカシ一本立ててある

たつの市 江 尻 房 子

ネクタイを外し落葉と日向ぼこ

姓変わる嬉しかったよ紅づばき

後継者不足の寺に夕陽落つ

一握り握った土に生かされる

秋の恋ダリア真っ赤に咲きほこり

丹波篠山市 河 南 すみ江

新春は五穀豊穣幸を盛る

リハビリは苦手だけれど愛がある

次の世に残しておこう義理人情

座右の銘ひと言だけど素晴らしい

おーい元気 古里の山にこだまする

丹波篠山市 澤 良 子

枝豆をあちこち送り宣伝す

働いた指先にサック痛み止め

日記帳毎年三ヶ月坊主です

携帯にインプットできぬわたしです

冬の案山子も店頭でご活躍

西宮市 高 橋 千賀子

スッピンでも平気になつたマスク顔

ロシアから越冬隊が来る季節

花が咲く日がきっと来るウクライナ

久々に匂会再開ネジ締める

読書より睡魔が襲う秋夜長

西宮市 藤 原 みよし

譽め言葉仲良しになるチャンスです

常識も世代で変わる非常識

何ともひと呼吸遅れ足もつれ

店先で決心つかずまた明日

何となく側にいる間に五十年

生駒市 饗 庭 風 鈴

酔いたくてビール一気にすきつ腹

君のこと忘れてしまおチョコロール

目が回る鳴門の海に捨てた過去

生まれたてマシュマロほどのわが子抱く

進歩とは何ぞや誰もわからない

生駒市 永 田 美美子

古里の空が恋しい千切れ雲

昭和史がつぎつぎ浮かぶ演歌聴く

聞き上手十人十色知恵貰う

初詣新の靴はき颯爽と

通販は今の私の遊園地

奈良県 室 田 行 久

静寂な秘境の宿にバイク音

負けて泣き勝つて奢らず伸びる人

星座群いにしえ人のロマン生む

山上で叫ぶ我慢の愚痴不満

にこにこに潜む冷酷夜叉の顔

和歌山市 北原昭枝

和歌山市 福島一雄

SLの旅人だった遠い日々
もうあのひとはいない昭和が遠くなる

裕さんも健さんもいた映画館

青い山脈うたつた頃の青春譜

浮き雲が流れてゆくよあの頃に

和歌山市 佐藤まさき

卒寿越え大事に生きる出発点

家事雑事悠悠自適とはいかぬ

今生に最初で最後天体ショー

古人は如何に仰いだ赤い月

月にありと卯年の亡夫月にみる

和歌山市 鍋嶋澄子

秋祭りあせ寿司貰い香も嬉し

こころ淨化『えんとつ町のブペル』読む

控えめに隅に咲いてる吾亦紅

秋日和苗をじやます草取りを

柿の実の枝つき飾りティータイム

和歌山市 西川千鶴

終活のノートは未だ白紙です

無垢な目で無慈悲な事を言う子供

古傷を暴きだして秋時雨

海のない郷に生まれて海が好き

夢なんか疾うに捨てたか冬の蝶

樂をして稼いだ金に羽根がある
ブーチンも笑顔みせれば憎めない

揉め事も笑顔見せれば解決す

旗色は経済力でカバーする

秋風とおせち前触れ賑やかに

和歌山市 まつもともとこ

守つてた子供に今は護られて

君の背にカイロ貼りたい片思い

腐葉土の中から新しい未来

直ぐそこに世界がみえるハツシユタグ

ジレンマをかかえて朝も夜もくる

海南省 山中閑

なつかしい酢のもの食用菊の黄

鮎香草蒸して香りのマリアージュ

秋老いて回顧の森をさ迷いぬ

運動靴念にはねんを二度結び

行く秋に懐中時計ちち想う

和歌山県 三枝眞智子

北国の原野に降りた迷い鶴

休日が多過ぎるのも幸不幸

似かよつた暮らし仲よくご挨拶

根回しの酒に迷いの下心

温厚な父が拳を上げる時

鳥取市 上山一平

米子市 川本美津子

歩けないしびれ切らした大茶会
ひじ鉄をくらわぬ距離は保ちたい
何時出すかレッドカードの助け舟
欠かせない自肃中でもストレッチ

お隣のサンマの煙我慢の子

鳥取市 大前安子

柱の傷が孫の成長物語る
諭吉さん美人好みかすぐに出る
亡母の歳越えて生きてる有り難さ
露天風呂星降る夜はファンタジー
喋らない猫に孝行煮干買う

半券がいっぱいになる宝箱
あそこそこ走馬灯ですカラー付き
秋夜長もつともつとに話そようよ
子と語るキヤツチボールがスムーズに
語る内うれし涙が浮いてくる

鳥取市 狹武紫陽

CO₂の乱かも知れぬ温暖化
氷山が解けて熱帶魚に微熱
ミサイルが飛んで来たようすと聞く
ガス締めた玄関締めた繰り返す
何回も座りたくなるウォーキング

松江市 中筋弘充

未来図になかった薔薇を一つ足す
うやむやを許さず生きて散った花
よしよしとなだめプライド抱いてやる
一番は同じ感性持つ男
薄情な風が一人にしてしまう

倉吉市 若松由紀子

安来市 原徳利

妖精の静かに眠るオネットー
美人女将と新酒新蕎麦奥出雲
亡くなつた人へ弔辞は美化される
ほろ苦の味はひと日を中和する
長生きの秘訣語らぬ鶴と亀

鳥取県 田中重忠

横道にそれで出口が解らない
背を伸ばし若い気分で行く八十路
娘が注意屋根も脚立ものらないで
同じ愚痴黙つて聞いてくれる友
柿落葉なぜか隣にとんで行く

九十六大聲も出る愚痴も出る
もの言わぬ猫もみている朝ドラを
仰ぎみるダイヤモンドの伯耆富士
真実は一つだ天がみてござる
どん底を生きた証しの顔の皺

三田市 生田 えい子

右左脳にしつかりせよと螺旋を巻く

リモートも三食昼寝太る彼

うつとりと記憶の中の音を聞く

若者について行けない頑固爺

三田市 辻 開子

外食の味の濃ゆさに胃が騒ぐ

目が覚めて術後なんだと二度寝癖

娘に甘え二人の親の介護させ

右往左往免許返納のびのびに

三田市 馬場 貴美江

秋刀魚です店頭価格高級魚

物忘れ転び始めた老いの坂

三日前メール交わした友の訃よ

変りなく過ぎゆく日々にただ感謝

三田市 森 玲子

孫とハグ幸せくれる宝物

耐えてきた苦労語らぬ亡母の手

口紅もボーチの中で出番なく

餌求め今朝も遠くできつねの子

丹波篠山市

横溝 安子

西宮市 高瀬 照枝

きれいな字書くため習うペン習字

平和に感謝してます生きてたい

毎食事作る手間掛けひとり食う

もう寝ます洗うかたづけ そして明日

島取市 山野 すみれ

朝の月連れて連れられ軽い足

お日様も風も溶け込む吊るし柿

膝の上絵本広げて子は眠る

雜踏を抜けてゆつくり見る世界

倉吉市 伊藤嘉昭

永病い実家に帰ると妻の乱

コロナ禍は家で飲んでて花愛である

ボランティア「いや仕事だよ」まだ叢寿

パソコン雀夜更しするが金要らず

松江市 相見柳歩

朗らかな君に出来るのが祭り

窓を開けもつと優しい風入れる

いいじやない時代の波に乗っていな

紙の辞書苦労の跡が残ります

福岡県 本田 さくら

わが庭にさした小菊が今盛り

今朝散歩今日もわが身にねじを巻く

ルビうつてはじめて読める子の名前

落ち葉たき庭でしたのは一つのこと

落ち葉あり子うさぎ走るけものみち

光つて一番星に願いこめ

ルビうつてはじめて読める子の名前

落ち葉たき庭でしたのは一つのこと

石川県 堀 本 のりひろ

大阪市 宮 本 千恵子

議員さんちらつと見える欲の皮
ハチャメチャの言い分通す金バツヂ

政界に善人面が揃い踏み

政治家は甘い言葉で票稼ぐ

豊橋市 小 松 くみ子

やわらかな御飯を食べて歯が欠けた
カマキリも揺れる葉っぱになりきつて
キツチンに3つの星が描いてある
頂きます鳥がかじつた甘い柿

東京都 高 岡 弥 生

日本だけ時代遅れのマスクかな

鳴き声で起こす老大ご飯くれ
コンビニに行くのはゴミの袋買い

Jリーグ最後の最後楽しんだ

大阪市 滝 井 えみこ

円満を装っている丸い顔
栗入りの方あげるか迷う間柄

手の甲が微妙にとしを暗示して
子の歳を数えた指で護摩木かく

大阪市 前 川 善 之

出不精がワクチンだけはすぐ予約
山中の栗無心に捨う古稀夫婦
孫三ヶ月ギャン泣きしてもいとおしい
寺社巡り大好き友はクリスチャン
値上りに頭の底値書き替える
やせ秋刀魚塩焼きにして食べ尽くす
ミサイルが流れ星より飛んで来る
天体ショ一今日見逃すと次は無い

吹田市 岩 口 のぞみ

「川雜」語録 (11)

私

奥 村 丹 路

片方の眼を塞いだ時私は樂天家である

そこで得意気に句が出来る

その時私は不幸だと思ふ

両眼をかつきり見ひらき凝視する時

白い句箋はいつまでも白い

その時私はもつとも幸福である

そのふたつながらの私を

今 限りなくいとほしむ

秋の空世界は平和未だなし
人生は百年生きる努力する
オリックス日頃努力で日本一
卯年には平和が来ると期待する

英語 de Senryu ⑬

麻生葭乃 『福寿草』 (1955)

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

福寿草松にしたがいそろかしこ

*New Year's flower, Adonis
planted just right
it follows the pine tree*

節約の床葉牡丹が活けられる

*saving life...
ornamental cabbage is arranged
at the alcove*

*New Year's flower 正月花 Adonis 福寿草 planted 植えられる follow 従う
pine tree 松 saving life 節約暮らし ornamental cabbage 葉牡丹 alcove 床の間*

～リバーウィローのため息～⑬ 2023年の子規ハイクカレンダー(愛媛大学校友会)発行

愛媛大学校友会は毎年、子規ハイクカレンダーを制作しています。子規の2万4千余の俳句から仁科弘重愛媛大学長の選句で、俳句を英訳し、さらに俳句に適う写真をつけた卓上カレンダーです。月が終わると葉書にも使用できる便利ものです。田村七重さん(シキプロジェクト)とバージンルース(愛媛大学)さんによる英訳です。いくつか川柳のカレンダーが出来ると楽しいなと、密かに待っています。

大船のへさきに浮かぶ初日哉

first sunrise/floating above the bow/of a ship (1月)

春の海鰯も金毘羅参り哉

spring ocean/sea bream also coming to pray/at Kompira Shrine (2月)

低き木に鳶の下り居る春日かな

a kite perches/low on the tree/spring day (3月)

両側の桜咲きけり登り口

trail entrance/blooming cherry trees/on both sides (4月)

木の末をたわめて藤の下がりけり

the branches weighted by/the hanging/wisteria clusters (5月)

見送らん夏野に君の見えぬ迄

seeing you off/until I can't see you/summer field (6月)

誹風柳多留——三篇研究 29

せめて一トこしはどちらよきへやばな事

高野「一腰」は、刀剣の数をいう。一振り。
一本（「角川古語大辞典」）。

吉原では武士といえども、中宿あるいは遊廓の二階の上がり口で大小を預けなければならぬ規則になっていた。せめて脇差しだけでもさして行きたいと、猪牙の船頭に野暮な事を言つてゐるのである。

刀を下げてちよきへのる見ともなさ

高野 範雄・山田昭夫
小栗清吾・細井龍夫
伊吹和男

清 博美

228 北の六郷は黒羽二重でこし

229 だまかすとむしんにおろかなかりけり

高野 「北の六郷」は、②浅草の金龍山浅草

寺の北側、浅草象潟町にあつた山形本庄六郷
家の屋敷の略称（川柳大辞典）。

鎌倉へ行く姫は、旅装あるいは着の身着の
ままの悲壮な覚悟で六郷を渡るが、吉原へ行
く息子は羽二重を着て六郷屋敷の側を通つて
遊びに行くのだ。

そう行クと六郷様の御門ンたよ

明七札1

小栗 贊。「鎌倉へ行く姫」は不要だと思うが。

単に旅装でよろしからん。要は「色気のある
方の六郷」がいたいだけ。

六郷ハ舟より駕がおもしろし

一三三3

山田 贊。でも遊女とかざらなくともよいで

安四仁2

しんぞうハ袖でぶち／＼むしんい、
安二亀1

句意は、最近の大雪で取れた薺が例年に比
べて少なかつたのである。「売りきれます
よ」「残りわずか」薺売りが大声を張り上げ
て客を呼び込んでいる光景。

清 贊。

清 贊。

入相にふちまけて行なつ菜壳

宝12札5

となつては大変。完売して早く帰りたいのである。

ある。

うぬかためはるの野に出るなづなうり

まだ霜かおりて居ますとなづなうり

安九梅1

山田 賛。ですが、どちらかといふと、雪のため苦労していることで同情を期待しているのではないか。

安九義4

小栗 たかが一文の齋を売るのに「雪で供給不足」などという口をきくのがおかしいのである。

なづなうりかけねをいつしかられる
しきみうりきつい船ナ間を言ヒ習ひ 二35

一五24

清賛。

232 じうやらこうやらどらものに母ハする

高野 「じうやらこうやら」は、どうにかこ
うにか。やつとのことで(角川古語大辞典)。
やつとの事で息子を放蕩者にしたというの
であるが、二通りの解が考えられる。

①劳咳を患い、陰氣で部屋に閉じこもつた息
子を、何処で聞いてきたのか母親は吉原行き
を勧めたのである。そしてやつとのことで道

樂息子が出来上がつたのである。
②息子の夜遊びを案じ、親父の防波堤になつ
た、母親の優しさが仇となり息子はどちらに
なつた。逆説的に詠んだ句。

らうかいの母ハむすこをそゝのかし
ちつとつ、母手伝てとらにする 安九桜2
山田 賛。②でしよう。
母の相イつちてなまくらものに成 一七35
小栗 同右。どうやらこうやら「一人前」に
育て上げた、のではなくて、「どら者」に育
て上げたのである。

伊吹 同右。そうでなくては面白くない。
清同。

天四松2

233 笑ひなんせとかりた子をあやす也

持て余す。
高野 遊女達にとつて閑散な昼見世は時間を
ている光景。苦界での一瞬のノスタルジー。

ちつとまたかせなんしと筆を置キ
ひる見世は能笑ふ子をかりに遣り

安八札6

小栗 賛。「笑いなんせ」がいい。

清賛。

清賛。

234 ちう三を生酔の時かいはじめ

高野 普段であれば揚げ代三分もする昼三を
買わないが、酒を飲んだ勢いで最高級の三分
女郎を買い始めたというのである。

明元札2

清賛。

花のくれ身について皆こうまいれ 一二14
もみじから市の間タうるものなし

天二松1

愛染帖

新家 完司 選

(投句260名)

土佐清水市 辻内 次根

見慣れない虫をスマホで追いかける

(評) 珍しい虫をスマホで撮つてアプリで

検索する。小さな事を見逃さないのは川柳の

基本。いつまでも少年のような好奇心を!

旅行カバン持つて行きたい入院日

(評) 着替えや読みたい本や化粧品などな

ど、あれこれ詰め込んで…。旅行も入院も非

日常。海外旅行のつもりで異空間を楽しもう。

電車空く時間に合わせ墓参り

(評) ご先祖さんは時間がたっぷりある

ので、いつお参りしても喜んで下さる。こち

らの都合の良いタイミングでゆっくりと…。

美しい宝石箱は持つてている

(評) 深いモノが入つているような美しく

豪華な宝石箱だが、残念ながら、中にはまだ

お見せするほどのものは入つていない。

娘が嫁ぎやつと書斎を持てました

(評) 子ども優先で我慢していた自分だけ

の部屋。娘が嫁ぐのはいさか寂しいが、待

望の書斎がそれを埋めてくれるだろう。

カレーでも酒の肴になるらしい

(評) 超俗の酒仙は肴にあれこれ注文をつ

けない。カレーであろうがバナナであろうが、

出されたものは總て有り難い肴である。

エレガントに怒る方法模索する

(評) 修行を積んでも「怒り」をコントロ-

ルするには至難。爆発直前に「エレガント」

と呟く習慣をつけると少しは効くかも…。

自分からやれば楽しい風呂そうじ

(評) 何事も、奥方からの依頼で動くのと

自主的にやるのは気分が違う。特に面倒な

風呂掃除や草抜き等は言われる前に動こう。

肩入れにシートを決める百歳

(評) 長寿も良いが気が弱つてくるのが心

配。肩入れにシートを決めるほどの元気と

ユーモアがあれば百歳を超すのも悪くない。

豊作の柿が次々舞い込んだ

(評) 幾つになつても心身共に若返らせて

これからも枯れないように恋の歌

富士見市 中島 通則

くれるのは恋心。恋の歌を口ずさむのも良し、好きな人への想いを五七五で表すのも良し。

島取市 山野すみれ

松葉ガニとつぐに匂を迎えてる

男鹿市 伊藤のぶよし

偉そうに蟹がタグ付けVサイン

大阪市 谷口 義

おばあさんになつても新米はうまい

弘前市 高瀬 霜石

金婚のお土産焼き鳥とお寿司

尼崎市 清水久美子

ケバいけど富山かまぼこ味が壳り

中味より百倍重いウニの瓶

大阪市 平井美智子

につこりと手招きをする冷蔵庫

豊中市 水野 黒兎

夏痩せを味覚の秋が取り戻す

柏原市 神崎 江

うな重は松竹梅の竹にする

高砂市 松尾柳右子

デイ仲間ボロボロ減つて柿熟れる

倉吉市 宮田 風露

メロドラマ台無しにする袋菓子

富田林市 中村 惠

三田市	北野	哲男	唐津市	仁部	四郎	東京都	宮田	栄子
月食を乱視で見るとややこしい	香芝市	大内	朝子	立候補なしとは過疎の証明か	佐賀県	真島久美子	定年へ残り五ヶ月どう生きる	石澤はる子
他人事と思えぬ友のまだらボケ	高槻市	初代	朝子	お別れの言葉上から言わないで	津市	高橋由紀女	ブツブツと小言が多くなった影	黒石市
五歳児の絵馬にへいわと書いてある	枚方市	初代	正彦	虹を追う周回遡れだとしても	岡山市	丹下	凱夫	年金の枠で暮らして回る寿司
北極星の位置確かめてから眠る	倉吉市	牧野	芳光	情念を拭い切れない葛の花	今治市	永井	松柏	インフレに僕の年金泣き出した
合わせ柿ノンキヤリが持つ真の美味	奈良県	安福	和夫	会議室亀の甲羅が欲しくなる	権原市	居谷真理子	堺市	内藤 憲彦
オバチャンと呼ばれ老妻上機嫌	岡山県	高岡	茂子	熱々のうどんの後の風邪薬	西宮市	河内長野市	藤塚	克三
カラスよりお先に採った柿固い	高岡	竹信	照彦	ドル・ユーロどう変わらうと食べてます	桜井市	安土	福島	弘子
女捨て婆さん役を熱演中	鳥取県	茂子		暗算のできぬ買ひ物やめておく	松江市	中筋	弘充	物価高値下げシールが見当たらぬ
耕運機動かすだけの畑仕事	立派だな妻に任せた秋野菜	立派だな妻に任せた秋野菜	立派だな妻に任せた秋野菜	真新しいパンツを穿いて泌尿器科	大阪市	千歩	河内長野市	定年へ残り五ヶ月どう生きる
とつさに手ナイスキヤッチの生卵	大阪市	古今堂蕉子	頑張れを口癖にして車椅子	新らしい下着でなくといい歯医者	高松市	岸本	福井市	石澤はる子
醍醐味はホールインワン投げたゴミ	池田市	太田	省三	再放送の水戸黄門は亡母と見た	大阪市	千歩	西宮市	唐津市
大穴を狙つた後の無力感	青木ゆきみ	省三	千歩	底冷えに体喜ぶ今日は鍋	高松市	千歩	高橋由紀女	丹下
予報士のスパコンまさかせほほ当たる	東大阪市	太田	省三	白菜が鍋にしようとやつて来る	河内長野市	大島ともこ	丹下	凱夫
五重塔見たくて通う月句会	青木ゆきみ	省三	千歩	南瓜真つ二つさよなら決めました	松山市	郷田	堺市	内藤 憲彦
すれ違う人の数だけ句が浮かぶ	奈良県	安福	和夫	おでん鍋仕込んで二日樂をする	大阪市	みや	藤塚	克三
現役の気概を笑う税の嵩	高岡	竹信	照彦	模様替え秋をとばして冬支度	鳥取市	田賀八千代	河内長野市	唐津市
現役の気概を笑う税の嵩	鳥取県	茂子		別れましょハサミで葱をチヨンと切る	神戸市	白谷よしみ	丹下	凱夫
現役の気概を笑う税の嵩	西宮市	福島	良一	身は焼かれ物は捨てられそんなんもの	大阪市	伊藤	堺市	内藤 憲彦
現役の気概を笑う税の嵩	福井市	伊藤	良一	私を知る人ひとり居なくなる	米子市	伊藤	藤塚	克三
現役の気概を笑う税の嵩	米子市	池田	美穂	卒業はできぬこんなにおもろい世	池田市	美穂	河内長野市	唐津市

十七音に收まりきらぬ句に嘆く	吹田市	西沢 司郎	三田市 上田ひとみ	外出はスマホ持たされ繋がれて	大阪市 平賀 国和
コロナ禍の句会垣根を低くする	横浜市	加藤 佳子	豊中市 松田蟻日路	年齢はたったひとつの勲章だ	弘前市 小山内真由美
伸びしろをほめて選者はまた没句	鳥取市	山下 凱柳	宮崎県 恵利 菊江	どちらもが若いつもりの譲り合い	河内長野市 村上 直樹
披講した後で没句に懺悔する	鳥取市	谷口回春子	羽曳野市 吉村久仁雄	過ぎ去った思い出語る壁の染み	西宮市 高橋千賀子
主語のない言葉が脳にてんこ盛り	大阪市	折田あきこ	寝屋川市 川本 信子	自分の名忘れた老母がよく笑う	大阪市 相見 柳歩
むつかしい本より今はマンガ道	大阪府	高木 道子	藤井寺市 鈴木いさお	昭和の子ヤングケアラー当たり前	大阪市 島田 明美
無住寺の寂に耐え兼ね銀杏散る	米子市	後藤 宏之	鳥取市 前田 楓花	下心あるからお賽錢弾む	富田林市 山野 寿之
正論が正論過ぎて鼻白む	大阪市	近藤 風羅	枚方市 藤田 武人	友達が「実は」「実は」とよく喋る	大阪市 岡田 恵子
雑談がヒントになつて生かされる	黒石市	北山まみどり	箕面市 大浦 初音	五十まで数えて嬉し風呂の中	数独が解けた明日は晴れマーケ
ズぶ濡れの骨まで濡れて仕事中	奈良県	大久保真澄	郡山市 安藤 敏彦	時により猫を二匹もかぶります	鳥取県 門村 幸子
ステテコのゴムがくらげになつて	松江市	石橋 芳山	石川県 堀本のりひろ	迷うことが多いが自由席がいい	大阪市 石田 隆彦
免許返納不便は不便だが気楽	栗田 忠士	天国行きのマジナイ笑顔絶やさない	受信料要らぬ今夜も深夜便	シンプルに気ままがよろし老いの幸	橋本市 大羽 雄大
罪ですか毎日してた片思い	川西市	大坪 一徳	親子三代いびきを競う旅の宿	雨漏りに虫喰い家も老体化	寝屋川市 富山ルイ子
松江市	栗田 忠士	みぎわはな	小春日和友の文読む日向ぼこ	シニアなど言うな嫁と同じことして	倉吉市 大羽 雄大
家事忘れ両手独占するスマホ	大坪 一徳	河開けて言い足りないか棺の中	脳ちぢみ財布もちぢみ背もちぢむ	江島谷勝弘	大阪市 宮崎シマ子

河内長野市 梶原 弘光

育毛剤今更感は否めぬが

万歩計ノルマ果たせと急かされる

沖縄県

禱 モモト

完歩して生爪抜けた二十キロ

奈良市

加藤江里子

ペットホテル一泊六千五百円

札幌市

三浦 強一

リモートの忘年会は猫抱いて

安来市

原 徳利

人間を休みたいとき昼寝する

鳥取市

小谷 小雪

気のせいかサブリ飲んだら身が軽い

河内長野市

岸本 宏章

ポトポトとトトトと雨見るひとり

神戸市

鷹木 弘

持病四つクスリ仕分けが生業に

森田 旅人

あらざくら

手には本風に揺られて夢ごこち

香南市

桑名 孝雄

新暦孫の佳き日へ二重丸

三田市

辻 開子

暇だからなかなか切れぬ長電話

横浜市

菊池 政勝

やり直しきかぬ育児に悔い残る

大阪市

岩崎 玲子

プライドをちょっと横置きゴマをする

内田志津子

三浦 梢

三年振り旅行で五年若返る

岩崎 玲子

澤井 敏治

三田市 多田 雅尚

路地裏はちょい悪オヤジの秘密基地

神戸市 斎藤 隆浩

さとふるで毎年変わる我が故郷

鳥取市 吉田孔美子

米子市 竹村紀の治

先ず酒だツマミはあとで考える

西宮市 緒方美津子

どうしたら飽きるのだろう酒ビール

尼崎市 永田 紀惠

ひと汗を流す転ばない体操

大阪市 滝井えみこ

素うどんに似た人生と言ひし母

弘前市 稲見 則彦

BBQトング奉行としゃしゃり出る

弘前市 福士 慕情

ビル解体ガレキに想うウクライナ

名古屋市 山本三樹夫

ウクライナ人の情けで国守る

鳥取市 永原 昌鼓

黒帯が泣いてるブーチンの仕業

大洲市 花岡 順子

コロナから微熱が怖くなりました

宇都宮市 岸田 万彩

オイお前マスクをしろという視線

豊橋市 八甲田さゆり

皺かくし慣れて外せぬ顔パンツ

岩国市 上村 夢香

コロナ超えて女子会続くエンドレス

箕面市 広島 巴子

今も聴く胸キュンキュンのふたり酒

寝屋川市 長尾 千賀

その後をもつと聞きたい酒を注ぐ

奈良県 室田 行久

二日酔い日が沈む頃同じ轍

共選欄

檸
檬

抄

(薰風書、カットとも)

(投句329名)

「ためらう」

江島谷

勝 弘 選

年賀状ためらいながら止められず

ためわらずワクチン五度目打つもり

にんげんであるなら押せぬ核ボタン

ためらわづブーチンには氏を付けぬ

ミサイル発射ためらいもない北のドン

ためらいの瞬時に株価急降下

更迭をためらい総理大ビンチ

中国製はためらう癖がついている

医療費の値上げためらう医者通い

ためらいが正解だった詐欺電話

ためらつて旬の果実を食べそこね

物価高眺めるだけの菓子売場

第八波の影が気になるカニツアード

どうしよう鼻毛出ると教えたい

吊り橋のまん中辺で立ちすくむ

吊り橋のまん中辺で立ちすくむ

米子市	中原 章子
鳥取市	岸本 宏章
郡山市	安藤 敏彦
高槻市	松岡 篤
豊中市	きとうこみつ
松山市	宮尾みのり
富士見市	坂上 淳司
堺市	中島 通則
奈良市	東 定生
大洲市	花岡 順子
鳥取県	竹信 照彦
鳥取市	太田 瞳子
尼崎市	清水久美子
宮崎市	押川 胡坐
奈良県	渡辺 富子

ためらつたあとはアクセル吹かすだけ	岩国市 上村 夢香
お見舞いに行こうか手紙にしようか	大阪市 島田 明美
里帰りしたいが賞与少ないし	尼崎市 清水久美子
水平線ためらうように入る夕陽	宝塚市 丸山 孔一
片足でのつてみました体重計	河内長野市 坂野 澄子
裁判所のまえを行つたり来たりする	岡山市 大石 洋子
本当に俺でいいかとふと思つ	宝塚市 辻内 次根
ためらつて書いた草書に角がある	河内長野市 岸田 万彩
女性車両ためらいもなく乗るおばちゃん	神戸市 斎藤 隆浩
ためらいが家の周りを回らせる	倉吉市 大羽 雄大
ためらわづ夫の物は捨てられる	奈良市 加藤江里子
面接日阪神ファンか尋ねられ	神戸市 米田利恵子
ためらつた指先まち針が叱る	枚方市 柄尾 奏子
オンラインやつてみようか知らんけど	箕面市 広島 巴子
医師黙り問い合わせを躊躇のレントゲン	照代

パンジー一帯まだ決心がつかぬまま
断捨離に日日ためらつて捲らず
ためらわざ相続権は放棄した
ためらつてやはり大きい方にする
別腹と言つてためらう事もなく
もう入らないM寸をまた仕舞う
五万円ちよとためらうクラス会
削除キー君のアドレスまだ消せぬ
リフォームをためらう内に床抜ける
ためらいながら血管探るインターナン
三食昼寝ためらいのない姉の内
新車買う買わずに今ままいくか
ゼロの数数えグッチの店を出る
散髪屋ためらい勝ちに髪洗う
片足でのつみました体重計
ためらつている長蛇の駅トイレ
ためらわざ落ちてる金は拾います
憎い奴死んでもバンザイは出来ぬ
ためらつたばかりに恋の負け戦
ためらつて会えずに逝つた友へ悔い
恥じらいを知つてためらう観覧車
妻の腹見て思うことあるけれど

藤井寺市	鈴木いさお
豊中市	水野 黒兎
鳥取市	岸本 孝子
尼崎市	藤田 雪菜
弘前市	稻見 則彦
尾道市	村上 和子
米子市	池田 美穂
大阪府	大浦 福子
倉吉市	宮田 風露
神戸市	松倉 正美
鳥取市	上山 一平
大阪市	坂 裕之
三田市	村田 博
米子市	竹村紀の治
河内長野市	坂野 澄子
広島市	羽城 裕子
明石市	糸谷 和郎
大阪市	川端 一歩
鳥取市	加藤 茶人
西宮市	森田 弘子
河内長野市	旅人 風羅
大阪市	近藤

ためらいを専人曰が丸め込む
どうしよう鼻毛出でると教えたい
ためらわづ進めばきっと虹がたつ
ためらわづ別れなはれと言う他人
中国製はためらう癖がついている
ためらいの沼に嵌つて抜け出せぬ
指切りをするのに躊躇する小指
散り時は今日か明日かと銀杏の葉
ばあさんと呼ぶをためらう若作り
入学金家業を継げと言えぬまま
廃屋の土足ためらう畳の間
ためらいを先に失敬するカラス
そのうちに治るだろと日延べする
ためらいの一言誤解されたのか
捨てられた子猫にごめん「飼えないの
鉛筆書きで何度も消した跡がある
百均に入つた妻が出てこない
腹黒い自覺CT躊躇する
秋日和ためらつた旅悔やまれる
ドルの価値わかっているが今買えぬ
リフオームをためらう内に床抜ける
一人居に同居促す申し出で

広島市	宮崎市	森田	博之
三田市	押川	胡坐	
神戸市	稻角	優子	
富士見市	中島	通則	
米子市	後藤	宏之	
貝塚市	石田	ひろ子	
大阪市	石田	孝純	
米子市	妹能令	位子	
櫃原市	居谷	真理子	
大阪市	今村	和男	
今治市	安野	かか志	
丹波篠山市	澤	良子	
大阪市	古今堂	蕉子	
和歌山市	柏原	宏枝	
倉吉市	牧野	芳光	
唐津市	坂本	峰朗	
鳥取市	吉田	弘子	
豊中市	きとう	こみつ	
倉吉市	宮田	風露	
可兒市	板山	まみ子	

まだ全部聞けないことが夫でも
直接日阪神ファンか尋ねられ
ためらわず辞表受け取る想定外
半顔をのぞかせ猫の好奇心
逡巡の視線に焼酎のロック
飲み会の誘いためらいなどしない
誘われて即答できぬもどかしさ
成功は五分五分迷う膝手術
ためらった嫁に介護を任して
赤を着て少しためらうおばあちゃん
ためらいの気配伝わる電話口
ためらった指先まち針が叱る
損や得思案決まらぬ腕を組む
ためらいの波決断を鈍らせる
ためらいを先に失敬するカラス
挫けそうためらい捨てたはずなのに
ためらった愛想笑いが板につく
ためらいの後に後悔やつて来た
ためらつて斜めに座る窓の椅子
ためらつた愛想笑いが板につく
ためらつた言葉の流れつくベッド
本題にまだ入れずに雑談中
ここという時にためらうあかんたれ
ためらつた言葉の流れつくベッド

奈良市	神戸市	三田市	松下	英秋
	米田利恵子	川本	信子	
	寝屋川市	中村	金祥	
	鳥取市	尾道市	道子	
	羽曳野市	小川	大子	
	鳥取市	藤原	寿之	
	枚方市	北野	哲男	
	三田市	柄尾	奏子	
	富田林市	後藤	宏之	
	今治市	山野		
	三木市	安野かか志		
	米子市	山口ヨシエ		
	神戸市	後藤		
	神戸市	上田	和宏	
鳥取県	芦屋市	上野多恵子		
	齊尾くにこ			

ラストワンためらいもなく伸びた箸
ためらわざグレーへアに赤を着る
円安の儲け話はちと怖い
ためらえば嫌いなのかと聞いてくる
軸吟はどつちがいいか訊かれても
ためらうと化粧の乗りも悪くなる
武士道を汚すためらい傷の跡
ためらっている長蛇の駄トイレ
年の差を気にはしないが踏みきれぬ
もう入らないM寸をまた仕舞う
ためらいのポンと背押す肝つ玉
迷い箸マナー違反と叱られる
子といえど貸すをためらう老の金
お氣の毒値上げためらう蕎麦店主
病人へためらう言葉がんばつて
ためらつて良かつたこともあります
おずおずと蓋開けてみる玉手箱
ちょっととキツイ空いた座席を横睨み
ためらつてみても心は決めてある
ゴキブリをためらいもなく叩く妻
ためらいの跡は見せまい熨斗袋

ためらつたあとはアクセル吹かすだけ
ためらわす信じる道をひた歩く
八十路坂いまやためらうこともなく
いのちさえあればためらうことはない
とんとん拍子ためらいを捨ててから
本当に俺でいいかとふと思う
後はもう左クリックするばかり
初めてのキス 彼の手もふるえてた
百均に入つた妻が出てこない
ためらわす夫の物は捨てられる
ジエンダーと言えずためらい傷がある
おきれいですねもセクハラかも知れぬ
親戚がここに判子を押せと言う
バツイチを平気で言えるいい時代
抱き寄せた肩がこんなに揺れている
ためらつた一秒で買えぬ奉仕品
ためらつたようだ何度も消した跡
分娩はひといきにためらわすする

秀句

お見舞いに行こうか手紙にしようか
羊羹にためらい傷が残つて
一瞬のためらい三振で終る

岩国市 上村 夢香
香芝市 大内 朝子
尾道市 小畠 宣之
貝塚市 吉道あかね
藤井寺市 太田扶美代
土佐清水市 辻内 次根
佐賀県 真島久美子
大阪市 古今堂蕉子
箕面市 倉吉市 牧野 芳光
奈良市 加藤江里子
枚方市 真島久美子
尼崎市 大久保眞澄
三田市 上田ひとみ
尼崎市 藤田 武人
神戸市 藤井 宏造
岡山市 尼崎市
神戸市 枚方市
大石 洋子

和歌山市 尼崎市
大阪市 三田市
高槻市 松江市
香芝市 北村
大内 朝子
藤井寺市 鳥取市
佐賀県 越谷市
佐藤 まさ

人混みに分厚い財布落ちている
胃カメラのあとはノンアルそとと飲む
ためらわすブーチンには氏を付けぬ
躊躇した返事へ本心が透ける
あきらめてしまえばみんな美しい
逆縁にかける言葉が見当たらぬ
シナリオにない終章がもう近い
ゴムズボンためらいがある女です
手を擧げるためらい捨てた少数派
その先が見えているから近づけぬ
咳すると隣に誰も座らない
決心がつかず崩れた膝小僧
ヘアピースずれてるなんて言いづらい
ゼロの数 数えグッチの店を出る
逡巡の視線に焼酎のロック
親戚がここに判子を押せと言う
ボタン押す指を何度も引っ込む
四捨五入の四を切れない今まで雨

秀句

再会へあの日の鈴は響かない
ためらえればホラね刃こぼれしてしまつ
後はもう左クリックするばかり

大阪市 井丸 昌紀
米子市 竹村紀の治
高槻市 松岡 篤
香芝市 大内 朝子
鳥取市 門村 幸子
生駒市 饗庭 風鈴
鳥取市 大前 安子
大阪市 近藤 正
黒石市 北山まみどり
神戸市 能勢 利子
和歌山市 松原 寿子
東大阪市 北村 賢子
三田市 村田 博
松江市 石橋 芳山
枚方市 藤田 武人
神戸市 みぎわはな
大阪市 平井美智子
松山市 柳田かおる
弘前市 高瀬 霜石
佐賀県 真島久美子

「伝える」

(投句 221名)

村上直樹選



見逃していらないだろうか子のサイン
こそこそ話一番風にのりやすい
言の葉は足りなかつたり余つたり
マズクてもマズイと言えぬりポーター
被爆者が愚直に語る生きた声
子や孫へ語り部となる大津波
でかい文字躍る歓喜のスポーツ紙
好きですと伝えてみたい好きな人
本心を伝える為に呑むお酒
一子相伝これぞ老舗の極意技
胎教にいい音楽を聴いている
グループメール既読のつかぬ人が居る
メールでは君の吐息が伝わらぬ
冷蔵庫残業しますが貼つてある
見習いがスキルに挑む町工場
新聞受け異常伝える三日分
アイドルは歌でダンスでルックスで
正直に伝えるという刃あり
片想い以心伝心なんて嘘
田畠を譲り伝える血の絆

明石市 糀谷 和郎
西宮市 緒方美津子
寝屋川市 廣田 和織
浜松市 中田 尚
鳥取県 門村 幸子
弘前市 福士 慕情
河内長野市 中島 一彌
豊中市 藤井 則彦
東大阪市 青木 隆一
男鹿市 伊藤のぶよし
貝塚市 吉道あかね
大阪市 古今堂蕉子
三田市 稲角 優子
岡山市 工藤千代子
対馬市 山野 寿之
和歌山市 信子
神戸市 恭子
香南市 桑名 孝雄
宮崎県 恵利 菊江

河内長野市 森田 旅人
神戸市 北野 哲男
三田市 小松くみ子
豊橋市 大阪市 岡田 恵子
奈良県 室田 行久
三田市 多田 雅尚
札幌市 三浦 強一
三田市 多田 雅尚
松本市 石田 孝純
藤井寺市 太田扶美代
札幌市 三浦 強一
三田市 多田 雅尚
大阪市 岡田 恵子
奈良県 室田 行久
三田市 多田 雅尚
豊橋市 小松くみ子
河内長野市 森田 旅人
神戸市 みぎわはな
三田市 北野 哲男
犬山市 金子美千代
明石市 瀬島流れ星
岐阜県 喜多村正儀
岡山県 藤澤 照代
羽曳野市 藤原 大子
河内長野市 坂野 澄子
三田市 尾崎 一子
樺原市 居谷真理子
三田市 尾崎 一子
高瀬 霜石

平常心のうちに書き置く遺言書
移ろいを千年杉の伝道師
捨てられず伝えられず抱く未練
食べ頃を伝える無花果の媚態
補聴器が要らぬ事までキヤッチする
寂しさを伝える術のない夜ふけ
又聞きの又聞き尾鰭てんこ盛り
植物も秘かにしてる意思疎通
糸電話乳の匂いも伝いくる
耳打ちの誤作動針が棒になる
伝統の蔵と技継ぐ女杜氏
ありがとうだけは最期に言うつもり
不機嫌なママを子供が目で合図
気遣いの四季を運んだ花切手
「大好き」を伝えきつぱり別れた日
獅子舞の過疎の伝統継ぐ茶髪
言葉より確と伝える目の力
ひと言に添えたワサビのほどの良さ
ママ聞いて夢は無限のランドセル
天 地
遺跡だと思うわたしの蒙古斑
未熟者！ 目は笑つての師の遺影
軸

ネトウ教室

題一 雲

水野黒兎

謹賀新年。皆様のご健康とご多幸とそしてご健吟を祈ります。

先ず、目がくもるとか、気分がくもりがちなどといった場合の漢字は雲ではなく曇ですね。「目が曇る」です。

今回の雲の題は難しかったとの意見が寄せられましたが私も同感です。しかし多くの佳句が寄せられ感心しました。

以下、☆は皆様の句、★は参考句です。

☆ 海外の雲の写真で行つた気分 弥生

名を入れた方がインパクトがあると感じます。例えば

★ ウユニ湖の雲の写真で旅気分

★ エッフェル塔の雲の写真にパリ気分

☆ 月の夜の瀧手伝う粹な雲 通則

うまくまとめてあります。しかし、やや古めかしい内容ですので、少し現代風に

★ 雲散つて月が見守る初デート

日暮れと夕日がダブります。また句に雲

の姿が見当たりません。ああきれいという

気持ちは、句を読む人に感じていただければいいですね。

★ 夕焼けに雲のうさぎを子らと見る

☆ 大の字になつて雲と独り言 尚
中6を解消します。青春時代の一人旅の感傷と解釈しました。そして雲に語りかけ

てみてはいかがでしょうか。

★ 旅の野に大の字になりなあ雲よ

☆ 入道雲ちぎつてみたい待ちぼうけ

待ちぼうけの苛立しさを強調して

★ 入道雲をちぎつて噛んで待ちぼうけ
☆ 言い出しがいつの間にやら雲隠れ

えみこ

作者の年齢はわかりませんが、句の内容からして人生のベテラン。そこで例えば

何を言い出したのかが少しでも分かると

いいですね

★ 言い出しつべが雲隠れしたプロジェクト

☆ 雲壙の僧侶と並ぶ父の墓 えい子

雲壙は難しい言葉ですね。天と地、違いがはなはだしい事などと辞書の説明。何が天で何が地か、そしてなぜ雲壙なのかの疑問がのります。作者の意図とは全く異なるかもしれません

★ 夏雲や僧服の黒墓碑の白

☆ 青雲に映える故郷の彼岸花 栄子

青雲は晴れた高い空、また地位・学徳などが高い事と辞書にあります。青雲の志と

いう表現があります。この句の場合は柔らかな言葉の方が良さそうなので

★ いわし雲に映える故郷の彼岸花

☆ 遠い日にふる里で見たいわし雲 静恵

このままでもいい句だと思いますが望郷の念を強めてみます

★ 師よ友よふる里で見たいわし雲

☆ 雲行きを見ることばかり上手くなり

双葉

作者の年齢はわかりませんが、句の内容からして人生のベテラン。そこで例えば

★ ストレッヂ雲龍型の妻の所作 誓子

雲の題で雲龍型を発想したのには拍手。

★ストレッチ雲龍型でのつしのし

☆飛行機雲ゆつくり生きる知らないか

下5の意味がつかみ取れませんでした。

作者の意図とは違うかもしませんが

★飛行機雲にまつすぐ生きる道学ぶ

☆剣岳際立たせるや鰐雲

のりひろ

剣岳が雲を際立たせているようにとれますが、剣岳自体が際立つており、その上に

鰐雲が浮かんでいるという風景と解釈し

★剣岳際立つ空にいわし雲

☆ちぎれ雲世界一周つなぎたい さくら

ちぎれ雲のようにバラバラになつていざ

こざの絶えぬ世界を嘆いている句と考え

★ちぎれ雲のような世界をつなぎたい

☆茜雲心の苦楽薄れゆく 玲奈

「樂」まで薄れでは困りますので

★茜雲こころの憂さが薄れゆく

☆青空が雲間に見えて気が晴れる

★青空を雲が隠して出る吐息

☆雲に乗りたい 背中の羽根がはえるまで

龍

空想豊かな句なので空想をさらに広げて

みます

★天使に羽根借りて乗りたいあかね雲

☆近未来空のタクシー金斗雲 和夫

西遊記では筋斗雲、鳥山明の漫画ドラマ

ンボールでは筋斗雲。発想が面白い句。

一字訂正しこのままいいと思います。

☆夕暮れにいわし雲の大舞台 一平

中6を解消して

★夕暮れはいわし雲には晴れ舞台

☆大好きなシャボン吸い込む雲を追う

幸子 中7の意味がよくわかりませんが

★シャボン玉吸つて染まつたあかね雲

☆刻々とファンタジックに変貌を マユミ

多分、推敲をされているうちに課題の雲

が消えてしまいましたね。

★刻々と変貌雲のファンタジー

☆初恋は才色兼備 雲の上 行久

★初恋の君はまぶしく雲の上

☆雲掴む酒飲み交わす縄のれん 芙美子

★雲掴む話題も肴縄のれん

☆夏の雲母の姿に似てました

★夏の雲ふくら丸く母に似る 風露

☆雲海が月の合間に描き出す 良子

この表現では何を描くのか不明です。ま

た雲海は山などの高い位置から見下ろした

雲を海にたとえた景観なので

★月光に雲海ゆらり波を打つ

☆子等妻へ怪しくなつた雲行きが博之

事情がよく呑み込めません。勝手に解釈

して改定案を創つてみました。

★妻や子の雲行き怪し午前様

今月の佳句を紹介します。

○雲隠れいいえ体調不良です

○コントの切れ味のする句。

○仲秋の月光環にノクターン 閑

きれいな言葉が並んで詩的。

○東雲の空に浮かんだ地平線 良子

○東雲という大和言葉が似合います。

○雲に乗り悟空の如く旅したい ひとみ

○変わりゆく雲の形で季節知る ひとみ

○それぞれ下5を、したい旅、知る季節と

名詞止めにするのもありますね。

○暖かい夕焼け雲は母の色 ほんのりとした味わい。

○鉛色の雲と一緒に冬が来る

○鉛色と冬がドンピシャリ。

風露

博之

同人特集 私の一句

(順不同)

竹原が大好き 普明閣に立つ
 爺ちゃんと囁く背戸のヤモリ君
 リセットをしよう瞬き二三回
 炭鉱の跡地のような落選者
 嫁ぐ娘に黙つて渡す母子手帳
 一陽来春を念じて精進す
 大字小字ヤモリも共に棲むところ
 程ほどの進化を尊ぶ世を望む
 初恋は沸点知らぬまま終わる
 廃線を歩くレールの先に母
 森よりも林の呑気さが好きだ
 終息を待つ身も辛い後期なり
 大あくびして浮かんでる朝の月
 手と足の一句が今も生きている
 物価高買わない知恵も一手なり
 平均寿命越えて妻には逆らわぬり

竹原市	鳥取県	和歌山市	奈良市	大阪市	三田市	桜井市	豊中市	奈良県	大阪市	東足	東安	安	足	島上	小島
神戸市	岸和田市	大阪市	弘前市	檜原市	大阪市	豊中市	奈良県	大阪市	東安	安	安	安	足	島上	小島
上田	岩井	岩井	稻居	居石	池石	安田	田安	田福	福土	立	立	立	立	島上	小島
崎	丸	昌	則	孝	純	和	理	和	敏	完	定	大	幸	島上	小島
佐	見	ダン	真理	純	和	理	理	和	定	蘭	つ	な	幸	島上	小島
井	谷	ン		子	子	子	子	子	子					島上	小島
田	田			夫	夫	夫	夫	夫	夫					島上	小島
島	島			恵	恵	恵	恵	恵	恵					島上	小島

なんとなくそんな気がしていたのです
ロシアへの帰郷ためらう渡り鳥 晩学の坂はだんだん急角度
母が逝く瘡蓋ポロリとれた朝 ひんやりと沈黙ほっこりと寡默
顔じゃない人は心とお金だよ ひんやりと沈黙ほっこりと寡默
此の至福敬うことを知つてから 取り零す目から口から掌から
切狂言心残さぬよう生きる 金婚式すぎ戦友になる夫婦
要るいらぬ要るいる要ると片付かず 風と歩く話しながら抱かれながら
生きるのに希望が一つあればいい カレンダーに丸あり明日がやつてくる
地で生きていくう二度とはない余生 やめようと思うがやめて何をする
記憶から君が消えない罰ゲーム ヒトラーとダブルス組んだ独裁者
子等が来てにぎやかうれし家笑う

三田市	豊中市	岩国市	大阪市	大阪市	大阪市	大阪市	内宇島	上内島	上田	ひとみ
堺市	大阪市	三田市	河内長野市	奈良市	箕面市	香芝市	大浦島	大久保島	都谷	志津子
笠柿	小尾	奥太	藤井寺市	吹田市	大島	大島	大島	大島	田村	満知弘子
鳴花	野崎	澤田	神戸市	大久保	大浦	大浦	大浦	大浦	田出	夢香子
恵和	雅一	洋扶	初眞	朝舞	洋舞	洋舞	洋舞	洋舞	田出	志津子
美夫	美子	郎代	次扶	昭澄	音子	音子	音子	音子	田出	満弘子

正直に書くと凶器になる手紙
少しもたもた歳のせいです悪しからず
第九完成失聴を乗り越えて
お口直しにいかが私のドジ話
残り火でまだ大抵のことはできる
どの枝の花も一途に凜と咲く
空高くふくらむ福をつかむ年
砲弾も白球も飛ぶ広い空
家計簿が乱れたままの物価高
ウクライナ想えば胸が張り裂ける
吉報に字まで踊つて いるようだ
それぞれの暮らしを生きた同期会
無駄積んでやがて輝く時が来る
ウクライナブルーの空へ鳩よ舞え
序破急があつてこの世の旅の中
残照へわたしの画布はまだ未完
僕の芯作つてくれたのはお米
忘れ得ぬひとを心のアルバムに
橋の名を想う八つ橋食べながら

今が匂ふたたびのない今を生き
イエスマント集め阿吽の壺に入れ
尖がり生きて悔いの手毬を転がして
夢は夢物価値上り暮らさねば
憲法は時代をこえて生き続け
公平に人生終わる慌てない
お若いと言われ思わず背伸びする
好きな事出来るんだから幸せだ
なんとかなるさ魔法の言葉もつて
伸びしろがあるねと肩を叩かれる
急ぎ足動く歩道でひとやすみ
喜怒哀楽乗り越えてきた喜寿傘寿
春帽子ふわりと夢をつかまえる
この暑さ越えてやさしい秋を待つ
ウイズコロナ如何に暮らそう鬼灯よ
天孫降臨やまとの大和
お爺さんと呼んでくれるなお婆さん
日の丸を立てて平和なお正月
生きていくレスピ笑顔と忍の文字

終章へ向かう砂時計をくるり
生まれ変われるならば今度は強い人
やんやの声に草木も揺れる村芝居
締め直す歳相応の帶の位置
NOと言う返事も出来ず悔やむ日日
ご長寿を祝う陰には泣く介護
ブーチンの歯車どこかで狂つて
分かりやすく言えば分かりにくい人
朝焼けが見たくて岬まで歩く
8度2分迎える医師の重装備
うなづいて不安を消してくれた母
青天も雨天も得をした気分
ウエストのくびれ小麦粉止めてから
性善説信じて馬鹿を見る私
アサガオを数える朝だ平和です
巣の中に鎮座の蜘蛛はアーティスト
土壇場が人の器量を炙り出す
芽してみようあなたに会うために
朝の風新たな今日が開きます

生駒市	枚方市	羽曳野市	大坂市	箕面市	土佐清水市	尼崎市	枚方市	岡山市	大阪市	寝屋川市	三田市	奈良市	大坂市	高
飛	柄	敏	徳	寺	出	辻	近	丹	谷	田	伊	多	竹	高
永	尾	森	山	本	口	守	内	兼	下	中	達	田	山	橋
ふ	奏	廣	み	セ	柳	次	敦	凱	廣	郁	雅	千	杉	杉
り		み	つ	ツ								賀		
こ	子	光	こ	実	子	伸	根	子	肇	夫	義	子	夫	尚
												子	子	歩
														力

青空に洗濯物がある平和
守られていると知つたら應えたい
嬉しさは近況を知る友の文
ほんとうの痛みを知らぬ司令官
晩成を信じる亀のボテンシャル
夕間暮れ動き始める酒の虫
お隣を知らず世界のニュース知る
なんだつたか思い出せない出てこない
どしゃぶりへ出るワクチンの四回目
秋を呼んでくれそうモジリアニの首
昭七で賛成戦後民主主義
釈迦仏もマスクしたかる東大寺
ありがとうで疲れが消えた介護の日
人思う心育てるボランティア
砂漠にオアシスわが家に妻がいる
褒め言葉杖に柱にして卒寿
ご長寿と言われる歳になりました
女子会の花見仕上げはスイーツで
コロナ禍を雪ぐが如く白い朝

寝屋川市	寝屋川市	高槻市	神戸市	富士市	富士市	富士市	富士市
箕面市	箕面市	寝屋川市	堺市	今治市	永源町	内山町	高槻市
廣島市	広島市	平野町	中西町	中永町	中永町	中永町	高槻市
松本市	松本市	平野町	中西町	中永町	中永町	中永町	神戸市
田舎町	田舎町	賀川町	勢部町	出山町	山堀町	原田町	藤井町
和田町	和田町	勢利町	春楓町	春章町	紀松町	憲松町	保ルイ子
巴川町	巴川町	国実町	利崇町	利真町	松紀町	松紀町	保彦子
かみ織子	かみ織子	国実町	利崇町	利真町	松紀町	松紀町	保彦子
すみ	み	利崇町	利真町	利桜町	松紀町	松紀町	保彦子
男和明子	和明子	利真町	利桜町	春代子	春代子	春代子	保彦子
子郎	子郎	利桜町	春代子	優子	恵子	柏子	保彦子
樂子	樂子	春代子	優子	子	子	子	保彦子

逆風を竹のしなりで切り抜け
る

ボクの尻尾 愛に踏まれる為にある

一仕事終えた安堵の長い影

虫の目で気付かず鳥の目で気付く

電話には一番若い声を出す

思い切り吐いて腹いっぱいに吸う大氣

ごたごたの過去ひつさげて現在地

紙コップ軽い約束させられる

数独が解けるまだまだ頑張れる

コロナには負けぬカラオケ健康新法

年だからと逃げたら余計年を取る

ミサイルに費やす無駄なエネルギー

立ち飲みのつもりか脚に蚊が二匹

家族の輪手料理という武器がある

兄が来たあれは何年前だろう

せめてもの年末年始ウニいくら

締切りがあるから作句止められず

柳友からの小包抱いて涙ボロボロ

尼崎市

笠岡市

豊中市

枚方市

尼崎市

寝屋川市

羽曳野市

和歌山市

豊中市

高槻市

神戸市

高砂市

和歌山市

豊中市

高槻市

和歌山市

和歌山市

大阪市

尼崎市

笠岡市

豊中市

枚方市

尼崎市

寝屋川市

羽曳野市

和歌山市

豊中市

高槻市

神戸市

高砂市

和歌山市

豊中市

高槻市

和歌山市

和歌山市

尼崎市

笠岡市

豊中市

枚方市

尼崎市

寝屋川市

羽曳野市

和歌山市

豊中市

高槻市

神戸市

高砂市

和歌山市

豊中市

高槻市

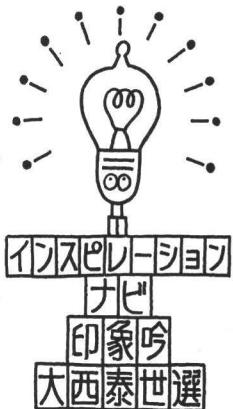
和歌山市

和歌山市

崎 宅 尾 浦 本 原 田 倉 岡 尾 尾 原 村 田 田 井 井
シ 保 み 強 文 寿 蟻 正 柳 美 和 大 亜 雪 武 則 智 宏
マ の の 一 子 子 路 美 篤 子 代 子 子 成 菜 人 彦 史 造
子 州 り 一 子 子 路 美 篤 子 代 子 子 成 菜 人 彦 史 造

自画像のバックは淡い色にする
追い風にすつかり油断してしまる
アドリブで生きたまゆらの陽の光
未生流師範ですのと口ボが言う
拝まれて出て拝まれて沈む月
独り居の気まま放題今が旬
凡夫婦シテとワキとで馬が合い
裏方に徹して光るいぶし銀
山頂で天空からの風を抱く
ランチ定食大盛りたのむ僕の嫁
無口ですみんな「どうも」で済ましてる
人生の汗も涙も知る峠
たなごころに載せる夫もウイルスも
コロナ禍も花は季節と共にある
一番の鬼は自分の中に住む
摸だつて好き嫌いある夢の跡
虹色の夢をポツケにウオーキング

堺市 河内長野市 八尾市 村村
奈良市 奈良市 大阪府 名古屋市 奈良市 吹田市 富田林市 尼崎市 香芝市 神戸市 高槻市 米子市 松原市 森森
渡米米山山山山山山山山山山山山
辺田澤本本本野田田田下崎口田木松田上上
富恭倣三樹昌希寿耕江厚忠光彦久子代
子昌子夫代子之治江彦久子代



(投句 184名)

ハッピーニュイヤーのはず
ですが、どう考へてもハッピー
ではない事が多すぎます。

爆弾が飛び交う嚴寒の地もあ
れば、昨年のFIFAワールド
カップのよう国を挙げての大
騒ぎまで、スポーツの祭典も
莫大な資金が動き、穏やかならぬことも
多々。

今年はほんの少しでも平和な方へ軸が
傾いてくれればと願わざにはおれません。

では、ナビを。

米子市 妹能令位子

山門を潜つてからは善人です

(評)山門を一步潜ればあら不思議、心までが洗われたような気になります。きっと、もともといい人でしたのね。

遠慮なく大きいダイヤ所望する

(評)人から欲が深いとか厚かましいと

黒石市 石澤はる子

弘前市

河内長野市 大島ともこ

稻見

則彦

か、何と言われようと欲しい物は欲しい
と言えなくつちやあ不。

一つ嘘ついたらあとは嘘だらけ

(評)これ、ホントにそうです。但し、つ
いた嘘はちゃんと覚えておかなくては次
の嘘はつけません。結構キツイ。

河内長野市 中島 一彌

羽曳野市 吉村久仁雄

賑わいの戻つた街は多国籍

(評)最近は以前のように街に外国人の人の
姿を見かけるようになつたけど、コロナ
はまたぶり返し、いーかげんにして!

奈良市 山本 昌代

札幌市 三浦 強一

怒りなやふわつと丸くなりなされ

(評)ふわつと丸い人を見れば、何て素晴らしい人でしようと思うのですけど、自分がなれる自信はありません。

米子市 池田 美穂

高槻市 富田 保子

河内長野市 山田 厚江

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

シャボン玉一等星になる決意

(評)どんなに力の無さそうなものだつて、やる気になれば大丈夫、きっと輝く一番星になれることが間違いなし。

大阪市 東 敏郎

宝塚市 丸山 孔一

河内長野市 木見谷孝代

鳥取県 本庄ひろし

Jアラート鳴つて飛び立つガンの群れ

(評)Jアラートでテレビの画面は真っ黒になるし、場所によつては地下に潜れと言われるし、そりや鳥たちも大変。

富田林市 山野 寿之

弘前市

河内長野市 山田 厚江

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

沖縄県 宮 すみれ

大阪府 高木 道子

羽曳野市 吉村久仁雄

河内長野市 中島 一彌

丹波篠山市 澤 良子

関節が太く指輪がはされない

米子市 八木 千代

てん手鞠地球の外に飛びたいの

弘前市 高瀬 霜石

悪党にまで行き渡る給付金

生駒市 飛永 ふりこ

頬張った綿菓子ふとふと昭和

枚方市 藤田 武人

ソーダ水ぶくぶく母に怒られた

大阪市 平井美智子

潮時と思う ゆっくり手を離す

香芝市 山下じゅん子

女王蟻の住む巣はどこかあとをつけ

黒石市 北山まみどり

今はまだおたまじやくしの卵です

佐賀県 真島久美子

その星は時給何百円ですか

大阪市 今村 和男

数時間も待つていたなあボーリング

高槻市 初代 正彦

生きてさえいれば思わぬツキもある

大阪市 笠嶋 恵美

虫めがね使つて見るがわからない

豊中市 上出 修

カルガモにブレーキ踏んで通りやんせ

可見市 板山まみ子

ちっぽけな地球で揉めてどうします

三田市 多田 雅尚

家建てる前にシエルルター用意する

大阪市 小野 雅美

この星を選び生まれてきたのです

三原市 笹重 耕三

アフリカへ届ける食もワクチンも

鳥取市 谷口回春子

囁きが波紋広げて大嵐

豊中市 水野 黒兎

太陽の雪で地球丸洗い

尼崎市 八木 幸彦

ビードロを吹いた美人が見当たらぬ

東大阪市 青木 隆一

吐き出したああすつとした気分です

犬山市 金子美千代

ツアーハ卒業のんびり草津の湯

弘前市 福士 慕情

古時計父の形見を持ち歩く

郡山市 安藤 敏彦

温暖化地球は使い捨てですか

東大阪市 青木ゆきみ

私だつて生まれた頃に戻りたい

奈良県 長谷川崇明

二十年に一度の神のお引つ越し

辻内 次根

ポタポタと続く蛇口のひとり言

明石市 糊谷 和郎

本当はガラスで出来てている地球

土佐清水市 きとうこみつ

時計回りにいつも回っているルンバ

大阪市 岡田 恵子

後もどりできない旅のギフト券

西宮市 高橋千賀子

舞い落ちる枯れ葉の中はファンタジー

浜松市 中田 尚

地球には効かなくなつた解毒薬

大阪府 大浦 福子

海越えて打ち上げられたハングル語

広島市 羽城 裕子

地球儀に吹きかけているシャボン玉

若屋市 新阜 義明

太りたいサンマの気持ちよく分かる

大阪市 磯島福貴子

外貨預金あてがはされた円安で

大阪市 高杉 力

ため息のシャボン玉には虹がない

豊中市 松田蟻日路

大ジョッキ ストローで飲み目が回る

男鹿市 伊藤のぶよし

つぎつぎと嘘が尽きない青い星

広島市 松尾 信彦

終焉に悪くはない宇宙葬

(平本 霧石人 画)

柳箋に2句



3月号発表 (1月15日締切)

(平本 霧石人 画)
柳箋に2句

川柳塔鑑賞

同人吟 高瀬 霜石

—12月号から

認知症の心配は毎日して

谷口 義

萩原 猪月

クッキーの一つ氣にする血糖値

内田 志津子

後期高齢肉も魚も糖もどる

明けましておめでとうございます。

昨年の10月号の目次下に「悲しき青森

県」と題した駄文を書かせてもらつた青

森県は弘前市に住む高瀬霜石です。

あそこに書いた通り、青森県の（特に男性の）平均寿命は、長い間ぶつちぎりの日本ワーストワン県なのだ。

長生きと健康寿命とは違う

川島 良子

そう、問題は、平均寿命より健康寿命。

僕たち団塊の世代は、その健康寿命年齢（73歳）に到達したのであった。

団塊の夫は隠れサユリスト

奥田 由美

サユリストの夫はわたしを妻にした

大沢 のり子

のろけもここに極まれり。幸せ者よ。

弘前市では、弘前大学とコラボして、「いきいき健診」と称して、長い時間をかけて中高年のデータを集めている。

検査する前日だけは休肝日
多田 雅尚

水野 黒兎

幸せな迷いワインの白か赤

近頃は逆に、年寄りは、先に野菜を食

2年ごとの定期健診を行つた。前日、飲み過ぎて、ちょっと頭がボーッとしていた。検査した若い（大学生くらいの）男性が、いきなり僕にこう質問した。

「何でもいいので、ナンか言って下さい」

突然のこと、面食らつて、つい、

「酒を飲む人 花なら蕾 今日もサケサ

ケ 明日もサケ」と、呟いた。

「な、な、何ですかそれ？」と、彼。

「そうか、ゴメン。君は若いから知らんか。

これは、都都逸といつて、ホラ、映画でさ、車寅次郎なんかもさ……」

暫くして、封書が届いた。開けると、

「あなたは、ボケ老人予備軍と認定されたので、追加の検査を受けて下さい。ついては、ウンヌン……」とあった。

木田 比呂朗

ついこの前まで、肉よりは魚。とにかく先に野菜を食えと聞かされていたのに。近頃は逆に、年寄りは、先に野菜を食べるとなかがいいっぱいになるので、まずは肉を食えだとさ、なんだバカヤロー。

川柳を作り老脳活性化

竹信 照彦

七福神の名前を五人までは言え

長谷川 崇明

「ごめんやで忘れとつた」で済む歳に

ボケ防止には、人と話すことが大事だ

そうで、キヤバクラ（残念ながら行つたことない）や、テレビによく出てくる美

人女将のいる粹な小料理屋（ありそうでないでしょ）も、いいんだつてよお。そりやいいだろ。僕も行きたいなあ。

まだボケは時間があると言うカルテ

秋ですね読書しますか食べますか

川端一歩

探しでいます昨日おどしてきました記憶

磯島福貴子

そして、勿論、ボケ防止には読書。

秋夜長清張読破寝不足に

柳田かおる

松本清張は、多作な作家。そのぶん、

寡作な作家——例えば、芥川龍之介など

の才能を認めなかつたという。

確かに、アイディアが泉の如く沸き上

がる平賀源内や、手塚治虫などは、天才

の名に相応しいものなあ。

本棚に少年になる森がある

伊達郁夫

去年の秋、カンヌ国際映画祭で「P.L.

A N 75」(監督・早川千絵、主演・倍賞千

恵子)が、特別表彰を受けた。設定が衝

撃的。75歳以上の高齢者に生死を選ばせ

舞台に、翻弄されていく人々……

姥捨山の国にかわつてゆく日本

山口美穂

おけたなあ仲間の老いはよくわかる

岸本清

長老が長老として住める世に

杉野羅天

同じ年頃張つてはるがんばろう

大内朝子

青森県でもないのに、どうして、こん

なにJアラートの句が多いのか。そうか、

そうだ、日本海に近ければ、みな「Jアラ

トキょうだい県」なのだった。

Jアラート響いてタコ壺へ籠る

石橋芳山

Jアラート出ても隠れる場所がない

岸本宏章

むきになりミサイル撃つて来るお国

川名洋子

僕の大伯父は、川上三太郎の弟子の長

谷川霜鳥(そう・う)という川柳人。

上京し、葛飾柴又の小学校の先生にな

る。赴任して間もなく、長谷川先生を校

長にしようという運動が、PTAで持ち

上がつたという。彼に人望があつたので

はなく、彼が、授業を担当していると、

いづれ生徒が全員津軽弁になつてしまつ

と、親が危惧したからだろいう。

よかつたなあお国説りの先生で

柿花和夫

〈地球は先祖から受け継いだものではない。子供たちから借りたものだ〉は、「星の王子さま」の作者の言葉だったか。いつの世も裸の王は居るのです

ゴルビーが残したあの火消さないで

藤井文代

プーチンも習近平も笑わない

永井松柏

この星の吐息でしようかゲリラ雨

上田紀子

〔之〕を知る者は之を好む者に如かず。之

「塔」には、この孔子さまの言葉を実践

してゐる人生の達人のなんと多いこと。

虫たちのオーケストラは無料です

中村伸子

まだ僕は無敵の笑顔持つてゐる

石澤はる子

とんぼトンボ今日は日曜日なんだよ

岩本笑子

冬になつたら冬に従つつもりです

大内せつ子

ライバルはかつ井僕はカツカレー

内藤憲彦

水煙抄鑑賞

—12月号から

川本真理子

無音のまま行く救急車秋の雨

江尻房子

秋の雨の日、おそらく深夜。心配しな

がらも静かに見守っている人がいる。救

急車が去った後、さらに深まつたであろ

う静けさが心にしみる一句。

折り折りに花咲く國のありがたさ

青木隆一

一年を通じて順番に咲いては散つてい

く花々。改めて日本の四季に感謝したい

思いです。そして、いつまでも平和な國

でありますように。

故郷へ青つきぬけて鳥渡る

山百合

「青つきぬけて」に決然と渡つていく鳥

達の力強さを感じます。同時に秋の清々

しさと作者の望郷の思いも感じられるよ

うです。

下山する足裏地球確と踏み

大前安子

武田悦寛

坂道も階段も怖いのは下り。全体重を預けられる健脚ぶりが感じとれると共に句自体にもみごとな安定感を感じました。

旧道を見つめたままの石地蔵

鈴木たけし

滝井えみこ

新道ができた今も、往々交う人々の安全を祈り続いているお地蔵様は、昔を懐かしんでいるよう。時の流れを感じます。

老妻へメモになかつた王ジブラン

松尾信彦

ケーリキを、前にした奥様の表情と、そ

れをやさしく見ている作者の姿が目に浮かぶようです。ほつこりといたしました。

日本晴れ綺麗な○が描けました

小川道子

ブルーインパルスでしょうか。それと

も大空に作者が手で描いたのでしょうか。

心にも大きな○が描けました。

秋空にふわり老軀を浮かばせる

岸田武

浮き世の何もかもを忘れさせるような

さわやかな秋の空。こうありたいものと

願う老いの心境です。

立ち話 一人は欲しい聞き上手

おあいこだつたということでしょうか。

情報を発信する側に立ちたい人が多いこの頃です。どんな状況でも、良い聞き手がいてくれることが鍵のようです。

さみしさと同じ濃度のココア飲む

吉道あかね

お酒ではなくココアでと、この頃から、さみしさをしつかり受けとめ、嘔みしめている様子が伝わってきます。

迷つたら歩く歩いてよく眠る

松下英秋

誰にでもできる簡単な解決法のようですが、そこからは日頃、何事にも前向きに取り組む作者の姿が見えてきます。

晴れの日もありますからと慰める

吉道あかね

「ああ、そうだね」と顔を上げ、ゆっくりとでも立ち直つていってもらえれば嬉しいですね。

閉じたグー開いたバーを見てるチヨキ

山野すみれ

おあいこだつたということでしょうか。チヨキをキーパーソンに見立てたところが絶妙だなと思いました。



ほつこりあたたまる

厳しい寒さに体が縮んでいるときの炬燵や日向ぼこ等のホッコリした温かさは有り難く「あ～しあわせ…」とまで思えます。それは「寒さのおかげ」で寒暖差のない地域では味わえない感覚でしょう。厳しい季節にも楽しみは多々あります。食べ物で温まる「鍋もの」は前号で取り上げましたので、

今回は飲食以外で温まっている句を拝見しました。

伊塚 美枝子

水野 黒兎

上村 夢香

矢倉 五月

土屋起世子

斎尾くにこ

寒風に犬もマフラーして散歩

今日からは電気毛布で夢の中

昔々の懐炉は石を加熱していましたが、だんだん進化して

今では使い捨ての「貼るカイロ」が主流です。無機質な物体

を「ひとときの愛」と受け止めるのも川柳作家ならでは。

カイロは体の一部分しか温めてくれませんが、お風呂は全

身を包み込んでくれます。どっぷり浸かって手足を撫でて自

分を労わってやると尖ったこころも丸くなってしまいます。

初冠雪とか初雪のニュースが届きますと、いよいよ冬の到来で炬燵の出番です。「畳部屋に炬燵」は日本の冬の代表的な風景で、ミカンなど頂きながら読書や作句、そしてまた風雪の音を聞きながらトロトロと液状化もいいものです。

しかし、生活様式が洋風になりつつある現代、畳の部屋や炬燵が減りつつあるのは少し寂しい気もします。

老いふたり明日にはふれず日向ぼこ

久保田千代

丹下 凱夫

牧野 芳光

稻角 優子

さざざざな心温める仕舞い風呂

柚子風呂につかり心は里へ飛ぶ

湯に浸かり手足を撫でてご苦労さん

湯加減は初恋ほどの温度です

日向ぼこ素敵な夢を編みながら

神さまのおまけ貰つて日向ぼこ

日向ぼこ昔むかしを食べ尽くす

老いふたり明日にはふれず日向ぼこ

柿すだれ勢揃いして日向ぼこ
老化との折り合いつけて日向ぼこ
地球温暖化対策としてクリーンエネルギーの導入が奨励されていますが、その代表の一つが太陽光発電です。そのような時代の流れから考えますと、お日さまの光を浴びるだけの「日向ぼこ」は脱炭素社会における模範的な暖の取り方でしょう。そして、温まると同時に疲れも溶けて活力が湧いてきます。いわば太陽の光による充電でもあります。

高橋 敬子
谷川 恵

膝に毛布 足元行火 背に懐炉
コンサート カイロ三枚貼つて聴く
ひとときの愛です使い捨てカイロ
ネコちゃんは暖房わたしは綿入れ
黒田 茂代
福西 茶子
藤井 智史
柏原 夕胡
山本 昌代
藤原千恵子
加藤江里子
富永 恵子
住吉美和子
池田 純子
松本 文子

兼題「謎」

謎欠けているのに夫知らぬ
誰がいつこんなところに置いた石
鉄壁のディフェンスなぞは謎のまま
なんだなんだいつの間にやら八路坂
艶めいて妻が綺麗になってきた
買い物に手ぶらで帰る謎の妻
いつまでも老いを知らない友がいる
不似合いのベアへ二度見と首かしげ
謎々へすぐ丸くなる団子虫
謎一つ秘めてスターであり続け
謎めいた笑顔にハート溢まれる
記念日は何故か予定が合いません
モナリザも妻も微笑み謎だらけ
さよならに笑顔の訳が解らない
爺ちゃんは謎謎あそび疲れます
謎すべて解ければこの世つまらない
三度目も偶然ですねと言うてはる
謎々がいっぱい公園の砂場
人の気配がない豪華な門構え
「一等賞」謎の寝言に励まされ
前向きに生きてる蟹の横歩き
「スマボ」パソコン謎の世界よ私には

川端 一歩	片岡 加代
堀本のりひろ	富永 恭子
大内 朝子	今村 和男
大内 朝子	大内 朝子
瀬島流れ星	瀬島流れ星
来原 道夫	来原 道夫
柿花 和夫	中岡千代美
加藤江里子	山下じゅん子
中村 惠	中岡千代美
江島谷勝弘	中岡千代美
西出 楓葉	中岡千代美
来原 道夫	中岡千代美
青木ゆきみ	中岡千代美
石田 孝純	中岡千代美

謎解きはしないと決めている二人
それからを誰も知らないかぐや姫
恨まずに生きたい謎のままで良い
不確かな答あたりがしめっぽい
宇宙ってなに私って何だろう
解けるまで楽しかったね恋の謎
酒飲めばアホになるのはなぜだろう
謎掛けて女は距離を置くつもり
長く生き色んな謎が解けました
昨日から貧乏神が見当たらぬ
なぜだろうことん泣けば笑えるさ
謎解けるなーんだそんなことかいな
佳

同じ事言つても今日は怒られる
小遣いも持たず毎晩呑んで来る
花買つた夫の気持ちがちよつと謎
母はなぜ父を許してしまつのか
詮索はするまい過去は謎でいい
人

謎めいた過去はどうあれ今の君
勝つたのは謎だが負けたのは確か

古今堂蕉子 山崎 武彦
片岡 加代 柴本ばつは 居谷真理子 小野 雅美
川端 六占 柿花 和夫 新家 完司
原田すみ子 饗庭 風鈴 盛隆 木嶋 平賀 国和
柄尾 奏子 内藤 憲彦 藤井 宏造 榎尾 奏子
高杉 鈴木 かこ 力

三回忌夫に謎がなくなった	席題「動く」	富永	恭子	選
隅の席もの言いたげに動く眉	松浦	英夫		
ボスの目が動き付度走り出す	萩原	狸月		
家の中杖を突いても動きたい	藤井	則彦		
どうしても別嬪さんへ目が動く	新家	完司		
スイッチオン生産ライン始動する	佐々木満作			
停戦へ動きが見えぬウクライナ	出口セツ子			
妻の笑顔今日も空気が動き出す	今井万紗子			
ママファイト君がお腹を蹴りました	柄尾	奏子		
七回忌父の時計は止まらない	小島	蘭幸		
身に着けて欲しいと編み棒が動く	小野	雅美		
ウイルスも人の動きに比例する	斎藤	隆浩		
バラバラに動く頭と口こころ	居谷	真理子		
へそくりを挟んだ本がずれている	ア ク ム			
動いたらお金いるので動かない	江島	谷勝弘		
水面下で動く五輪の黒い金	森	松まつお		
動かしたやろと掃除を叱られる	山田	耕治		
選手交代 名監督の牙える勘	内藤			
奥歯グラグラ今日はおしゃべりやめておく	島田	憲彦		
明美				

西上遊二

隅の席にボスの家の中村家はどうしてもスイッチ停戦へ向妻の笑顔ママファ七回忌身に着け威尔フバラバラへそくり動いた水面下で動かし選手交代奥歯グラグ

に謎がなくなつた
「動く」　富永　恭子　選
の言いたげに動く眉
が動き付度走り出す
を笑いても動きたい
も別嬪さんへ目が動く
オン生産ライン始動する
きが見えぬウクライナ
今日も空気が動き出す
イト君がお腹を蹴りました
の時計は止まらない
て欲しいと編み棒が動く
人の動きに比例する
に動く頭と「こころ
を挙んだ本がずれている
お金いるので動かない
動く五輪の黒い金
やろと掃除を叱られる
名監督の冴える勘
今日はおしゃべりやめておく
島田　明美
山田　耕治
内藤　憲彦
森松まつお
江島谷勝弘
居谷真理子
ア・ク・ム
ア・ク・ム
萩原　狸月
藤井　則彦
新家　完司
佐々木満作
出口セツ子
今井万紗子
柄尾　奏子
小島　蘭幸
小野　雅美
斎藤　隆浩
ア・ク・ム
ア・ク・ム
軸

佳

ひやりして育てた子らが母介護
何故かしら家の前には救急車

午前様三つ指ついた妻が待つ

政治家を震撼させる裏帳簿

スマホが無い私まること見られちやう

人

検査結果見ながら医者が首を振る

地

上書きをせぬうち画面急に消え

天

お風呂場が静かになつた出来ない

人

逆走に爺さんやつと気が付いて

人

藤井 则彦

おじさんも買い出しレジに並んでる

立藏 信子

鹿せんべい自販機新たな風物詩

クリスマス三角帽子懐かしい

助け合う心の豊かなる募金

顔見世の切符が届く娘の歳暮

故郷の軒に連なる柿すだれ

墨痕鮮か管首が描く今年の字

坂上

淳司

木嶋

盛隆

大内

朝子

藤井

則彦

立藏

信子

安福

和夫

坂

裕之

木本

朱夏

原田

すみ子

原田

すみ子

森田

旅人

森田

博

村田

崇明

木嶋

盛隆

山野

寿之

木嶋

盛隆

高杉

力

西村

哲夫

日本はいいなあ四季という恵み

佐々木満作

年末に寄つて餅つく音が無い
風化する記憶の底でルミナリ工

木嶋 盛隆 年の瀬に今年の哀と墓洗う

長谷川崇明 木枯らし一番街が背中を丸め出す

吉村久仁雄 納涼床川床古都の夏涼し

吉村久仁雄 寒いから爺は炬燵で籠つてゐる

江島谷勝弘 仏教徒も無神論者もクリスマス

原田すみ子 安っぽいサンタが街にあふれてゐる

小野 雅美 売れ残りのケーキひとりのクリスマス

片岡 加代 うちはうちサンタが街にあふれてゐる

小野 雅美 さあコタツ出した蜜柑も買って来た

片岡 加代 棒グラも數の子ももう冷蔵庫

小野 雅美 どの靴も忙しそうな十二月

片岡 加代 おばあちゃんの甘さになつた吊し柿

小野 雅美 繋がれタスキせめて正座で観る箱根

片岡 加代 どうら着た亭主静かに餅を焼き

片岡 加代 お祝いは家族揃つてすみよつさん

片岡 加代 コンビニのおでんが招く昼の酒

片岡 加代 まねき揚がるもうそれだけで京は冬

片岡 加代 貯金箱壊して孫が募金箱

片岡 加代 シャツタ一通り風は自由に吹き抜ける

片岡 加代 焼き芋を買ったつもりで社会鍋

片岡 加代 まあまあの妻と年越しそば啜る

片岡 加代 風紋の移り変わりに四季を見る

片岡 加代 消去法わが票託す人がない

片岡 加代 萩原 稲月

坂上 淳司 大地震忘れぬようルミナリ工

坂上 淳司 お節屠蘇春をほろ酔い観る駄伝

坂上 淳司 吉村久仁雄 我が町はだんじり祭りこれがなきや

坂上 淳司 読みふける畠の下の新聞紙

坂上 淳司 佐々木満作

坂上 淳司 良く当たるジャンボ売り場に長い列

坂上 淳司 坂上 淳司 大臣の更迭いまや風物詩

坂上 淳司 藤井 宏造 大の男が今年も泣いた赤穂義士

坂上 淳司 木本 朱夏 大そうじ先ずは夫に活を入れ

坂上 淳司 加藤江里子 年一度ベートーベンに会う師走

坂上 淳司 鈴木いさお 人

坂上 淳司 小野 雅美 成人の日毎年アホをやらかして

坂上 淳司 松岡 篤 地

坂上 淳司 通天閣千支の引き継ぎ縁起物

坂上 淳司 青木 ゆきみ 天

坂上 淳司 科学の進歩一つずつ消す風物詩

坂上 淳司 西出 楓楽 軸

坂上 淳司 十二月十四日赤穂の街が騒がしい

坂上 淳司 小島 蘭幸 兼題「自由吟」

坂上 淳司 川本 信子 身内の死時が解決なんてウソ

坂上 淳司 老化なんかピンクの服で追い返す

坂上 淳司 きとうこみつ

坂上 淳司 消去法わが票託す人がない

坂上 淳司 萩原 稲月

卷之三

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。

編集部

川柳塔みちのく（青森）稻見則彦報
そろそろ仕舞い支度をしようかね
そろそろと忍び足です午前様
待つていたそろそろ俺の番が来た
そろそろと思うばかりの老い仕度
コロナとのうれしい別れそろそろか
そろそろね年寄りらしくしてみよう
いよいよ冬白い絵の具が余り出す
雲間からそろそろ十三夜
これきりにしましようという年賀状
浄土へはそろそろ歩くことにする
花嫁の歩く姿は純和風
半袖をそろそろしまう季が移る
おい息子そろそろいいべ嫁便り
逆走の前に更新やめにする
龍馬 澄子 ふざゑ
洋子 義明
孝子 初枝
美鈴 重虎
吹 喜
柳子
重虎
真由美
風來坊 隆樹

髪のある写真そろそろ撮つておく 同窓会病氣自慢が始まると	十八時ぐい飲み選ぶ目が笑う ブーチンが核のボタンへ手を延ばす 長靴の泥を落して秋仕舞	手植えの団子作りに手を挙げる スピードを少しゆるめて風を待つ 白萩のように五七五を散らす	赤い糸何故か時々切れかかる 聞き分けのいいばあちゃんになる老後	花峯 ひとし 英子 ひよし 畠 ひとし
日本郵便本業を忘れましたか	岸和田川柳会(大阪)	石田ひろ子報	一 吞 和香子 規子	砂時計帰らぬ今を落ちていく 終末時計確かに時を刻んでる 定年後妻の時計に歩を合わせ 昭和史の戦禍忘れぬ古時計
台湾に友達がいて気がもめる 必勝の九回裏でみたよもや 37度切るまで計る検温器	逆境を抜け出た物腰のソフト ウクライナソフトの風はいつになる 頑固な父ソフトな母に負けている イケメンのソフトな語り口注意	航太郎 楓 楽 蕉子 裕之 ダン吉 憲彦	母してた頃に時計を戻したい 犯人逮捕刑事かならず見る時計 ハルカスの影がきたから昼休み 妻入院よもやよもやとうるたえる 再検査させて欲しいと電話する 肉球のモミモミうたた寝の腰 ブーチンのまだ飽き足りぬ血染戦 頑張れとネジを巻いてる古時計	玉音に時が止まつた終戦日 砂時計帰らぬ今を落ちていく 終末時計確かに時を刻んでる 定年後妻の時計に歩を合わせ 昭和史の戦禍忘れぬ古時計
眞澄 穏夫 いさお	はこべ 常男 隆雄 朝子 和美 義泰 扶美代	はこべ 常男 隆雄 朝子 和美 義泰 扶美代	はこべ 常男 隆雄 朝子 和美 義泰 扶美代	はこべ 常男 隆雄 朝子 和美 義泰 扶美代
宮田輝ソフトな語りなつかしい	再訪の里のせせらぎ柔らかい ブーチンもよもや原爆手にすまい	敏治 万彩 恵子 カズ子 ふさゑ 嘉代志 世紀子 ふさゑ 侑子 勝久 康信	再訪の里のせせらぎ柔らかい ブーチンもよもや原爆手にすまい	敏治 万彩 恵子 カズ子 ふさゑ 嘉代志 世紀子 ふさゑ 侑子 勝久 康信

髪と爪染めて老春闌歩する

ひろ子

川柳塔打吹(鳥取)

齊尾くにこ報

だれも居ぬ振子時計が家守る
振るい立つ心はあれど動かぬ身
振けば昭和の時計振り子振る
ライバルも振られたらしいホットする
振り上げた手を下すのに勇気入る
突然の告白野生棒に振る
十五人振られた後で福つかむ
秋桜とメトロノームの子守唄
さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た
正直な鏡さめざめ見る自分
さめざめと泣き妻のいまわの脈をとる
スクリーン主役の演技さめざめと
さめざめとおろおろ揺れる命の灯
横着の付けは必ず倍返し
横着と思われぬよう遅刻せぬ
横着な性格先祖から繼がれ
主に似て大まで横着吠えません
おつくうになる階段の上り下り
横着の尻を叩いて歩かせる
虹を見たカモメに会つた百点だ
弱点は私が好きになつたこと
欠点を探せば十指では足りぬ

妥協点水と油をかきませる

憎しみの出発点はどこだらう

人間を点取り虫が笑つとる

汚水タンクにされたビール樽

だれも居ぬ振子時計が家守る

紀美恵

岳人

ネジ巻けば昭和の時計振り子振る

久芽代

貴恵

ライバルも振られたらしいホットする

紀の治

重利

振り上げた手を下すのに勇気入る

紀子

節子

突然の告白野生棒に振る

秋枝

忠

十五人振られた後で福つかむ

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

正直な鏡さめざめ見る自分

さめざめと泣き妻のいまわの脈をとる

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

秋枝

清

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

美千

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

滋

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

玲

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

江

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

芳

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

江

宣子

裕子

高田

博

泉

選

輪を抜けてやつと人間とり戻す

常男

柳子

はるみ

由紀子

洋次郎

扶美代

志

柳子

千鶴子

高志

志

柳子

千鶴子

扶美代

志

佳句地十選

(12月号から)

岸本孝子選

人を恋つ形でやれる秋桜

桂子子子子

愚痴などは決して言わぬ母の汗

桂子子子子

手の届く高さに夢を置いておく

桂子子子子

百才の祝いに開ける玉手箱

桂子子子子

逝く前に覗いてみたい黄泉の国

桂子子子子

生真面目に生きて泣いたり笑つたり

桂子子子子

先達も集うあの世の塔まつり

桂子子子子

交差点どうとう走れなくなつた

桂子子子子

逆転の口火は眼鏡拭いてから

桂子子子子

若いねより変わらないねありがたい

桂子子子子

眞澄岩利恵子

桂子子子子

良岩利恵子

桂子子子子

井戸端にニュースキャスター勢揃い あき子

スローライフ描くポンと一軒家 ゆっくりと毎日散歩腰伸ばす

走馬灯過去のニュースも織り交ぜて 娘の家に来てもゆっくりしない母

食パンと牛乳あれば今日も晴れ

曲げられたマスクミニニュース裏を読む 恋なく暮らることがニュースです

熊が出たトツブニュースで平和です 女房の今日のニュースを聞く夕餉

トーストの日替わりジャムで曜日知る 一日の平和ゆっくり陽が包む

議員さんいればニュースに事欠かぬ 里のニュース送つてもらう地方版

たかがパンされどパンだが奥深し 誤字脱字見落とす事が増してきた

城北川柳会(大阪) 近藤

五体良く動いた僕は今いざこ

恋の謎方程式じや解けません

無愛想でも筋の通った父だった

楊貴妃が隣りに来ても知らぬ顔

何事もない一日のありがたさ

夕焼けの太陽の下どこの国

朴念仁な父にもあつた優しい目

偉せな晩年友に囲まれて 一步 俊雄

プライドという厄介をまだ背負い

世渡りへ本音を包むオブラーート

数学に疎くもやりくり上手い妻

鶴亀算分かった顔で腕を組む

数学は九九の辺りで頭打ち

鶴亀算分かった顔で腕を組む

鶴亀算分かった顔で腕を組む

万紗子

章

隆一

賢子

ゆきみ

篤

博

正報

賢

康

介

俊

文

彦

昂

市

明

宏

和

美

眞智子

明子

一步

俊雄

宏造

福貴子

克己

捷二

福貴子

克己

捷二

福貴子

捷二

ぶらぶらと散歩のはずが繩のれん ため生きをえて喜び岡田さん まだ残る遺る氣に趣味の彩を足す

竹原川柳会(広島) 古田比呂子報

一步 俊雄

二度聞きをしてしまったスマホなり

スマホ無し別に不自由ない二人

スマホ忘れてとても愉快な日になつた

幸子

貞子

初音

美香

香恵

恵香

香恵

恵香

秋の蝶小さな幸を連れて来る

厚子

干し柿もアケビも令和の子は知らぬ
はりねずみみたいなたわしでくつあらう

史子

にっぽんのみんなちかのパワーを育みます

小一 沙弥

小一 央

わかやま吟社

小谷 小雪報

這い上がる術を持つての雨蛙

精子

もがいてた頃が底辺だつたのか

佳子

底辺より高さばかりが競われる

タカ子

ヒキ蛙夏の暑さに拍車かけ

淑子

大都会の片隅に住むソクラテス

夕胡

どん底を知つてゐるわたしの強み

節子

懐かしいロバのパン屋はどこ行った

明

ワゴン押す買ひもの一つ増えてゐる

敦巳

底辺の底上げ願う庶民です

光

子の釣書ワゴンセールに並べとく

八茶

車内販売コーヒーの香と擦れ違う

あかね

人溢れワゴンも悲鳴特賣

信勝

素通りをさせぬワゴンの売り出しだ

徑子

保護色の蛙に隙が見えている

保州

外を知り井の中良いと蛙言い

和宏

ワゴンセール執念の手が離さない

富美子

ワゴン車にベットがちゃんと乗つてゐる

小雪

やつと来たワゴン販売遅い昼

紀子

節約へワゴンセールを利用する

史子

底辺はいいねみんなが温かい

寿子

浮き浮きと暮らして います定年後

峰子

困つたら浮輪出し合つて夫婦愛

篤子

半日もいて浮きピクリともしない

東風

大あくびして浮かんでる朝の月

昌紀

屍が浮いて戦の愚を悟る

克己

樂をしてやせるスポーツないですか

常男

笑つていると樂しそうだと誘う風

よしみ

お蔭様おいしく食べて歯が二〇

加おり

樂園と思えば樂しケアハウス

実江

ひとり呑みできるお店の指定席

蕉子

楽しい今日送る工夫をする朝餉

力

人生はゲーム氣楽に行きましよう

人間が樂を求めて温暖化

国和

喜怒哀樂越えて人間出来上がる

楓楽

神無月離婚するなら今の内

迷子札つけてボツンと友は杖

柳伸

コスモスの迷路で泣いてる私

いさお

片隅にボツンと座る子気にかかる

ひさ乃

太平洋老人ひとり大航海

三智

こんな溝飛べたはすだが恐ろしい

風羅

お試しのサプリで治る筈がない

宗鉄

操

神様へ妻との出合い感謝する

一步

譲られた座席ほんのり暖かい

柳右子

車椅子に道譲つてランドセル

通江

譲りあって支えあっての五十年

大子

どちらもが若いつもりの譲り合い

直子

お下がりがいい羨ましがる一人つ子

俊治

譲れないお茶は急須で淹れるもの

葉

譲り合う気はないだからじんけんで

志華子

譲られて意地で座らぬまだ翁寿

千鶴子

下手の横好きなれど楽しみ五七五

ルイ子

二人で一人老いの暮らしの合言葉

シマ子

ウクライナ平和賞受けおめでとう

志華子

マスク無いこわい小父さんバスの中

まゆみ

急ぐことないのに早く目が覚める

千鶴子

爺ちゃんの昔話がこそばゆい

俊雄

出来心微塵切りして飲み込んだ

葉

川柳さんだ(兵庫)

酒井

ブーチンがボツンと一人空見てる

敏夫

迷子札つけてボツンと友は杖

ひとみ

喜久子

喜久子

操

操

我が人生語ればほんの五分間

簡単な着付けが天女つくり上げ

道なりはいいな考えずに行ける

遺産なし一行で済む遺言書

濃い霧につつまれ夢の竹田城

いやな日は夜の水割り濃くなる

濃口に馴れて今ではべらんめー

情の濃い浪速が俺は好きやねん

OB会話は弾むが名が出ない

グループライン開けば友が元気よく

目配せで直ぐに集まる飲み仲間

わくわくと逢える予感に血が騒ぐ

散りそうな同期の枯葉姦しい

騒ぐのは止そうあなたはもう大人

ときどきはお疲れですと不整脈

新聞で今日の曜日を確かめる

やんちやでも親を育てた自慢の子

そろそろと鍋が恋しい秋の風

砂時計逆さにしたい老いの坂

ありがとう言葉一つの思いやり

柿落葉朝日を浴びて掃き寄せる

月一度ナースの顔を見る用事

前歩く妻の姿に老いを見る

信者二世苦惱を知つて胸痛む

兜太には負けぬ平和を詠む心

爺ちゃんの句にはロマンがないと孫

よく笑う仲間といふとよく笑う

はびきの市民川柳会(大阪)藤原

一呼吸おけばと月が笑つて

人生の第一声はオギャーから

深呼吸何度もして舞台袖

思いきり大きく吐いて胸ひろげ

独り居の呼吸ひとつが気にかかる

一呼吸おいて叱るのやめにする

一呼吸おいて私はマリア様

溜息をひとつわたしの返事です

もうしばらく呼吸をさせてください

過呼吸は君に出会つたその日から

退院の朝青空へ深呼吸

ホームランキングの夢よ佐藤輝

よく働いたあとは輝く汗流す

どの顔も輝いている秋祭り

汗まみれ顔が輝く一等賞

安材料妻のレシピで輝いて

子の未来輝く明日を願います

輝いた記録のかげにある苦節

災害に汗が輝くボランティア

おさむ

利子

川柳茶ばしら(愛知)

大子報

宏造

庸郷

千鶴子

大子

千鶴子

ドラフトに甲子園での君がいる

篝火が爆ぜたけなわの薪能

いつの日か女性輝く国とやら

育てたい輝く笑顔の子ども達

人はみな輝く星を持つている

ありました輝く僕の一ページ

利子

川柳茶ばしら(愛知)

金子美千代報

お正月待つた頃の寒い家

年金は減るだけのもの増えません

ブーチンの蛮行止める手立て待つ

価値上がりはしても減らせぬ酒の量

溜息をひとつわたしの返事です

もうしばらく呼吸をさせてください

過呼吸は君に出会つたその日から

退院の朝青空へ深呼吸

ホームランキングの夢よ佐藤輝

よく働いたあとは輝く汗流す

どの顔も輝いている秋祭り

汗まみれ顔が輝く一等賞

安材料妻のレシピで輝いて

子の未来輝く明日を願います

ちづる

楓 楽

勝 久

ひとみ

一 歩

ダン吉

おさむ

利子

川柳茶ばしら(愛知)

金子美千代報

お正月待つた頃の寒い家

年金は減るだけのもの増えません

ブーチンの蛮行止める手立て待つ

価値上がりはしても減らせぬ酒の量

溜息をひとつわたしの返事です

もうしばらく呼吸をさせてください

過呼吸は君に出会つたその日から

退院の朝青空へ深呼吸

ホームランキングの夢よ佐藤輝

よく働いたあとは輝く汗流す

どの顔も輝いている秋祭り

汗まみれ顔が輝く一等賞

安材料妻のレシピで輝いて

ジャムセッション絡めて次の港まで

建売りの港巣立つて軽くなる

降るよう愛の言葉が一冊に

雨降つて地固まるつて嘘だらう

降る雨も知らないとい死生観

降りそぞ月光ついに翔べそ

重い腰掛け声かけて軽くする

約束の重みを小指だけが知る

秒針は迷わぬいつも一直線

迷うのはやめた合成皮財布

見合い話来れば一瞬迷います

トビウオよ迷わぬ鳥になりなさい

読めるけど理解に迷うカタカナ語

迷走の少年翼描いてやる

生き抜けば迷つてもいい魔女の森

川柳塔さかい(大阪) 内藤 憲彦報

松茸の値上げ一番困ります

安酒場客足気がねで値上げせず

娘から手ほどき受ける台所

目標のライバル越えたのは粘り

窓際で逆転チャンス待つ蜻蛉

強くても絶対勝てる訳じやない

停年後夕食作り妻を待つ

逆転の一歩に重い意地がある

芳山 男は愛嬌女は度胸それもよし

援助した他国に抜かれゆく日本

逆転の野心捨てると旨い飯

逆転で勝つよろこびはひとしおだ

柳歩 とも子 トビなどんで暮らしに逆比例

玲峰 德利 逆転はしたが空しい口喧嘩

邦代 女にも叶わぬ仕草ニユーハーフ

桂子 風呂場まで逆転勝ちを言いに来る

青帆 逆転のチャンスにチョンボしてしま

桂子 子に孫に逆転されたアノログ派

吹喜 なだめる方がだんだんエキサイト

モナカ 我がまま見方かえればマイペース

豊仙 ハロウインもパレードも嫌興味なし

美智子 老い二人趣味を活かしてマイペース

寡婦になり寂しいけれどマイペース

裏めたつて腐されたつて動じない

ストレスを溜めないためにマイペース

江勝 ひょうひょうと風にまかせている余生

弘 朝子 兎には勝てると亀のマイペース

じゅん子 ばあちゃんがずっと続けた粗衣粗食

志津子 満知子 知らぬ間に山川越えて子は育つ

芭 菊子 しまつたと安請け合いを子に愚痴る

憲彦 素頬馬 叱るよりやさしく抱いて子を諭す

淑子 幸せだ優しい妻と子沢山

芭 萌子 さくら

憲彦 いさお

美津子

川柳塔なら

大久保眞澄報

和夫

清

廣子

佳子

玲子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

心配事山ほどあるが肥えている 楓 樂

川柳塔なら

大久保眞澄報

和夫

清

廣子

佳子

玲子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

美津子

川柳塔なら

大久保眞澄報

和夫

清

廣子

佳子

玲子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

美津子

川柳塔なら

大久保眞澄報

和夫

清

廣子

佳子

玲子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

美津子

川柳塔なら

大久保眞澄報

和夫

清

廣子

佳子

玲子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

美津子

川柳塔なら

大久保眞澄報

和夫

清

廣子

佳子

玲子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

美津子

川柳塔なら

大久保眞澄報

和夫

清

廣子

佳子

玲子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

美津子

川柳塔なら

大久保眞澄報

和夫

清

廣子

佳子

玲子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

美津子

川柳塔なら

大久保眞澄報

和夫

清

廣子

佳子

玲子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

美津子

川柳塔なら

大久保眞澄報

和夫

清

廣子

佳子

玲子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

美津子

川柳塔なら

大久保眞澄報

和夫

清

廣子

佳子

玲子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

美津子

川柳塔なら

大久保眞澄報

和夫

清

廣子

佳子

玲子

桂子

青帆

吹喜

モナカ

趣味なので今はゆっくり二兎を追う
ゆっくりと爪研ぎながら策を練る

アナログの時計で日々を紡いでいる
結論が見えて急須を温める

生と死のテーマに傾斜したムンク
キャラとギヤーお化け見たのはギャーの方

ブーチンに民の叫びが届かない
バカヤロー叫び一気にソーダ水

泣き叫ぶ吾子よ許せとむせぶ父
拉致の子の返してと母の血の叫び

SOS叫ぶ地球の崖っぷち
死の間際泣くか笑うか叫ばうか

川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子

枯渴する資源を守る省エネで
語り部の友の岸壁の母泣けて

叩かれてもエネルギッシュな岸田さん
爺ちゃんの活動源は酒と孫

ボケットの中の追憶しゃべり出す
風評はどうあれ一途な君が好き

フクシマを忘れてならぬ日本人
底知れぬ大谷君のエネルギー

初恋を語る婆ちゃん頬染めて

すみ子
すみれ
江里子
良 岩
志津子
ゆきみ
和 郎
武 人
百合子
ひろ子
成 子
敬 介
志津子
里 子
満 作
福貴子
廣 子
真 桜子
久仁雄
勝 弘
いさお
篤

枯渴する資源を守る省エネで
語り部の友の岸壁の母泣けて

叩かれてもエネルギッシュな岸田さん
爺ちゃんの活動源は酒と孫

ボケットの中の追憶しゃべり出す
風評はどうあれ一途な君が好き

フクシマを忘れてならぬ日本人
底知れぬ大谷君のエネルギー

初恋を語る婆ちゃん頬染めて

何もかも値上げ値上げの向かい風
錦秋の風が運んでくるロマン

百葉の長だと孫に言い聞かす
帰郷して風のざれ言聞いている

聞き上手相槌だけで語らない
父ちゃんも再生可能エネルギー

千年杉その風格に息を呑む
今風の若者にみる思いやり

秋風の誘いに乗った旅鞄
毀譽褒貶どこ吹く風やマイウエイ

沖遙か大漁旗がひるがえる
心開き語ると消えるわだかまり

金星を語る力士の息づかい
強弱を知つて風が押す背中

眞美を語っています赤木メモ
沖へ沖へ何があるのか行つてみる

北風に負け元気は残ってる
無になれば強風さえも越えられる

エネルギー核が爆発する怖さ
逆風に打ち勝つ技を鍛え上げ

百歳のドア開け笑うおばあちゃん
晩酌は唯一僕のエネルギー

发掘のハニワが語り出す歴史
エネルギー持て余してやんちや達

甲子園の砂冲縄語る負の記憶
金送れだけで納得した親父

西宮北口川柳会(兵庫) 緒方美津子報

アホやなあ言つて手を貸すお爺さん
16億馬耳東風で粟爾と

墓参り揚羽が舞ってくれました
母さんと同じ味するちらし寿し

新人が早くも散つた五月病
鏽ついた鍵と鍵穴でも夫婦

会話にも乗つて一つの和が出来る
大切に使う私のこの時間

肩車父より高い未来見よ
満天の星に聴かせるハーモニカ

人生のヒント短いみつの詩
過疎の町枯れ葉一枚バスに乗り

兄の吹く父の残したハーモニカ
兄の吹く父の残したハーモニカ

繩電車わたしも乗せてくれますか
子育ての鍵はやっぱりハゲですか

ハーモニカ長屋の頃がなつかしい
歎異抄何度読んでも身につかず

三年振り祭囃子が風に乗り
久し振り祭り太鼓の遠い音

鍵落し合鍵失くしれない
空気だけ運んでいます赤字線

快速逃がす喝采やまぬ駅ピアノ
金送れだけで納得した親父

(福)弘子
宗 鉄
真 桜子
光 久

恭 子
みよし
勝 弘
盛 夫

野 霽
そのみ
みよし
勝 弘

和 夫
和 香

正 香
宗 鉄

和 香
正 香

和 香
正 香

単語並べ短い文で英会話

電話にて御礼言いつつ目は野球
紙くずは投げて捨てる百一歳
万歩計毎朝吾れを叱咤して
何歳まで生きるつもりか柿植える
ハーモニカ吹くと少年とり戻す
秋天へ透けるハーモニカの音色
妻運転横に乗つたら眠氣飛ぶ
乗つたげる好きなあなたの軽い嘘
ハーモニカ吹けば月さん笑つて
内緒ないしょ内緒話が風に乗る
故郷は鍵のいらない暮らしぶり

邦男 利子 豊子 洋次郎 野薰 和宏

和宏 利子 豊子 洋次郎 野薰 邦男

ちびっこがジャンプしてます自動ドア 満知子 ピンク色の方位磁石が福を差す
かぐやには見せたらあかん月の裏 はよ帰り追い立てながら笑う月
秋ナスを食べる淋しい過去がある (阪)恵子
風の子を孕んだ夜の赤い月 のり子
切り札の飴ボケットで溶けていた 雅美

新録 喜明 喜明 俊雄 喜明 雅美

喜明 俊雄 喜明 俊雄 喜明 雅美

廣光 修 雅美報

廣光 修 雅美報

川柳 de 遊ぼう会(大阪) 小野 雅美報

エレベータ浪速の豹が乗つてくる よしみ
表だけ見せてるのは月と妻 晋一
飲み干した水筒語る幼児の死 敏郎
言おうかなあそこ開いてる悩みます はるみ
じいちゃんが口を開けばメシまだか 喜美子
老いの坂祭り囃子に背を押され てるひこ
新築の屋根に輝く月あかり 爽也
せつない日月を眺めてスクワット 康雄
感染で大手をふつて引きこもる 幸徳
「見てるわよ」月がささやく隠し事 次郎
遺言に書こうか悩む月の土地 えみこ

和宏 利子 豊子 洋次郎 野薰 邦男

和宏 利子 豊子 洋次郎 野薰 邦男

ちびっこがジャンプしてます自動ドア 満知子 ピンク色の方位磁石が福を差す
かぐやには見せたらあかん月の裏 はよ帰り追い立てながら笑う月
秋ナスを食べる淋しい過去がある (阪)恵子
風の子を孕んだ夜の赤い月 のり子
切り札の飴ボケットで溶けていた 雅美

新録 喜明 喜明 俊雄 喜明 雅美

喜明 俊雄 喜明 俊雄 喜明 雅美

廣光 修 雅美報

廣光 修 雅美報

あの時の誓いの言葉空回り

(園)恵子

たびたびのお詫び会見茶番劇

佑 佑

凱

柳

鯰

子

ちびっこがジャンプしてます自動ドア 満知子
ピンク色の方位磁石が福を差す
かぐやには見せたらあかん月の裏 はよ帰り追い立てながら笑う月
秋ナスを食べる淋しい過去がある (阪)恵子
風の子を孕んだ夜の赤い月 のり子
切り札の飴ボケットで溶けていた 雅美

和男 和男 和男 和男 和男 和男

和男 和男 和男 和男 和男 和男

初デート二重三重赤い丸

豊中もくせい川柳会(大阪)初代

正彦報

雄

大

青

子

何時までも惰眠するかと窓明かり
スポットライト浴びて主役を自覺する
うるさくてゴメンよ命守るため
猫敏夫婦喧嘩は妻に付き
かなり前の事や忘れたふりしとく
隠しごと妻の鼻には勝目なし
老いてなお枯れ木に花が咲くたとえ
あの言葉かなりひびいた私には
気配りがまわりの空気なごませる
政ごと端切れ悪さの臚月
猫じゃなく虎を見せてね来季こそ
子守唄歌う木枯し山眠る
残された命わたしの色を塗る
へだてなく恋配りますキューピット (永玲子)
虚も実も越えたわたしのテリトリー ヨシエ
ワクチンを棄てるのならば配れぬか
腰に手を高いメロンを見て思案
責任をやつと配り終えました

敏

昭

憲

央

倉吉川柳会(鳥取) 大羽 雄大報

いい場面電車の音がうるさかつた
パチンコにどっぷり嵌り妻家出
焼酎にどっぷり浸かり平和ボケ
政治家が統一教会どっぷりと
重ね重ね申し訳ない土下座する
一筋の明かりが欲しいウクライナ
どっぷりと夫の優しい愛もらう
受験生かなし深夜の窓明かり
どっぷりと人情に浸り老い生きる
月明かり頼りに浸る河原風呂
明かりが見えぬコロナ円安統一教
妻不貞寝重々承知俺のせい
話し声家の前からうるさいな
物価高明かり見つける老いの知恵
話し声家の前からうるさいな
物価高明かり見つける老いの知恵
汽笛一声百五十年ひた走る

由紀子 道春 由紀子 道春 真理子 武彦

由紀子 道春 由紀子 道春 健二 武彦

照彦 龍枝 紀美恵 節子 駒子 晴子

照彦 龍枝 紀美恵 節子 駒子 晴子

時子 時子 晴子 晴子 多美子 健二

時子 時子 晴子 晴子 多美子 健二

英三 北舟 北舟 北舟 真理子 武彦

英三 北舟 北舟 真理子 武彦

さちこ 風露 重忠 敏昭 公輔 佑

さちこ 風露 重忠 敏昭 公輔 佑

抱いて寝て洗わぬクマのぬいぐるみ 武人

ちよつとした気配りのあり日豊か 好きだからかなり厳しく意見する

いずれ世話娘の断捨離に逆らえず 背筋伸ばすと後ろに転げるおばあさん

貧乏です真っ白な道あゆんでる 忍耐と寛容を混ぜ五十年

赤札を貼つたとたんに蟻の列 紅葉舞う何も未練はないように

わたし色グラデーションも愛おしい ニッポンの誇りなども平和賞

技術者の指先が知るミクロン差 お日様のみんなに配るばつかばか

硝煙が絶えぬ地球儀よく軋む

分の悪い時は夫が姿消す 食べきを確かに示す体重計

雜踏の甘い確認大惨事 政治家の確かな公約期待せず

計算も記憶も確かとはいかぬ 薄いた種確かに花咲かす準備

女房からイエローカード手渡され 若者のカード地獄を垣間見る

ポインツが付けば嬉しい診察券 瓢あけて里の土産を次々と

子どもらを籠に入れては育たない いつの世も駕籠に乗る人担ぐ人

買い物籠今はおしゃれなエコバッグ 麺のメニユーラキツネ「たぬき」はお好み

食べ初めに姿造りと焼き鯛を いい物めぐらしの中に幸がある

籠あけて里の土産を次々と 子どもらを籠に入れては育たない

買ひ物籠今はおしゃれなエコバッグ いつの世も駕籠に乗る人担ぐ人

麵のメニユーラキツネ「たぬき」はお好み

食べ初めに姿造りと焼き鯛を いい物めぐらしの中に幸がある

走つたら転げる歩いたら遅れる 声待つも納屋の白杵忘れられ

反抗期何かにつけて理屈こね 理屈なし孫は可愛い老夫婦

師走でも教師走らずオンライン 千手觀音千の手にあるメッセージ

使う人の癖に馴染んで行く道具 核廢絶助走もしない被爆国

懸命に駆けた青春書き綴る 料理人家では何もしてくれぬ

弘美 ぶりこ ベットの中テレビのんびり紅葉狩り

楓葉 舞夢 人生は彼岸着くまで持久走

蕉子 ひらめく ひたすらにただただ走る稻妻に

理由などないがむしゃくして十五歳 消えていくオアシスだった本屋さん

蕉子 ひらめく ひたすらにただただ走る稻妻に

蕉子 ひらめく ひたすらにただただ走る稻妻に

蕉子 ひらめく ひたすらにただただ走る稻妻に

満作

弘美

楓葉

舞夢

蕉子

ひらめく

蕉子

ひらめく

蕉子

ひらめく

蕉子

ひらめく

蕉子

ひらめく

蕉子

ひらめく

句会名	日時と題	会場と投句先
ほたる 川柳 同好会	15日(日) 13時30分締切 点・焼く・うっかり	豊中市立螢池公民館 阪急・モノレール螢池 螢池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川柳 藤井寺	15日(日) 14時締切 盃・共選(3名)	パープルホール 4F 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南大阪 川柳会	16日(月) 18時40分締切 作品・誓う・サービス・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊中 もくせい 川柳会	16日(月) 14時締切 本気・輝く・こつこつ・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳 ねやがわ	17日(火) 13時締切 生き甲斐・めでたい・白星	産業振興センター 投句先: 〒573-1104 枚方市楠葉丘1-9-13 藤村亜成
川柳 さんだ	17日(火) 13時30分締切 理由・優しい・イメージ 叶える・自由吟	キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1324 三田市ゆりのき台3-14-9 上田ひとみ
岸和田 川柳会	21日(土) 14時 世界・祈る・華やか・フレッシュ	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-18-27 雪本珠子
川柳 たちばな	21日(土) 13時45分締切 席題・名・来る・自由吟	尼崎市女性センター・トレピエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳塔 みちのく	21日(土) 17時締切 ふんわり・想像・香る	会場未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稻見則彦 宛 TEL0172-36-8605
はびきの 市民 川柳会	29日(日) 14時締切 白・開ける・イヤホーン・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鶴」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 吟社	22日(日) 13時~ 29日(日) 13時から 自由吟・みえみえ・脳	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町2-1 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
川柳塔 すみよし	28日(土) 14時締切 夢・当たる・ヒロイン	住吉区民ホール集会室4 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和歌山 三幸 川柳会	28日(土) 13時15分締切 餅・正月・買う	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所(06-6779-3490)へご連絡ください。

★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

1月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 なら	5日(木) 14時締切 期待・そろり・進む	奈良県文化会館 近鉄奈良①番出口東へ5分北側 投句先 〒636-0202 奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
城北 川柳会	7日(土) 14時締切 開場13時 穏やか・ラッキー・一番 自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳 とんだばやし 富柳会	7日(土)14時締切 平和・祝う・自由吟・席題	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉吉 川柳会	7日(土) 14時締切 朝・塵、芥・カード・席題	倉吉市明倫公民館 〒682-0722 東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1028-1 天野道春
川柳塔 まつえ 吟社	7日(土) 13時40分締切 山・面倒・貰う・速い	雑貨公民館 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充
おりひめ☆ ひこぼし 川柳会	7日(月)消印有効 そわそわ・初恋・稽古	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこぼし川柳会』 藤田武人 TEL・FAX 072-395-5453
川柳塔 わかやま 吟社	8日(日) 14時10分締切 兼 題=昆布・のびのび・ランチ 課題吟=笑	会場 和歌山県JRビル11階 兼 題 〒642-0024 海南市阪井652-14 小谷小雪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町2-208-5 齊原道夫
西宮北口 川柳会	9日(月) 13時30分 席題・兎・願う・さらり・自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにしのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
川柳塔 さかい	6日(金)締切 こつん・計画・絆 折句:お・も・と	投句会 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 斎藤さくら
あかつき 川柳会	13日(金) 14時締切 馬・大吉・庶民の幸せ 時事吟	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
六甲 川柳会	14日(土) 14時締切 席題・カット・さすが 始める・自由吟	六甲道勤労市民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町2-12-5 敏森廣光
川柳塔 打吹	14日(土) 13時30分締切 門・掴む・ざわざわ・席題	倉吉市上灘町9 上灘コミュニティーセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 川柳塔打吹 事務局
川柳 あまがさき	15日(日) 14時締切 添える・神(連記)・きっと 自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造

柳界展望

秀吟 永見 心咲

安息の森を求めて風媒

花

川柳家としては二人目。
▽訂正とお詫び△

江。P.71下段後ろから3行目、齊尾くに子→齊尾くに。P.73上段後ろから2行目、子や孫の事

光にする自縛癖→子や孫の事先にする自縛癖。

柳塔社)がアップされた。

秀吟 木本 朱夏

命がけで生きた彬の百

P.25上段14行目、マイ灰

から2行目、就業時間です

お先に失礼。P.92中段

出席20名。(1)

秀吟 日紅

命がけで生きた彬の百

P.25上段14行目、マイ灰

から2行目、就業時間です

お先に失礼。P.92中段

秀吟 澤井 敏治

命がけでデタント叫ぶ

ときは今

14行目、お隣りは幸せそ

うなゴミ袋→お隣は幸せ

秀吟 木本 朱夏

命がけで生きた彬の百

P.25上段14行目、マイ灰

から2行目、就業時間です

お先に失礼。P.92中段

柳界展望募集

各地句会・同人・誌友の活動・動

向などをお寄せください。

採否は編集部に一任願います。

「各地句会だより」
原稿募集

川柳塔社グループの川柳会で、紹介・アピールをご希望の会は、川柳塔社事務所まで原稿をお送りください。

第43回	ときせん賞作品募集
応募締切	令和5年1月31日(火)
選 者	当日消印有効 小島 蘭幸 森中恵美子 零石 隆子 梅崎 流青 徳永 政二 矢沢 和女
作 品 賞	雑詠 2句(未発表作品) ときせん賞1名。 準ときせん賞2名・佳作7名 5月 時の川柳交歓川柳大会 で表彰(予定)
応募方法	・応募用紙又は便箋に作品2句 ・郵便番号、住所、氏名、電話番号及び所属柳社、時の川柳社の誌友、誌友外の区別を記入
応 募 料	1000円(1口) 定額小為替等 (切手不可)
応 募 先	〒675-0019 加古川市野口町水足 1160 岡田 篤 宛
主 催	時の川柳社(兵庫県神戸市)

令和5年度 業務分担表

令和4年12月現在

		常 任 理 事			
総務部	江島谷勝弘	上田ひとみ	平井美智子		
企画事業部	松岡 篤 藤村 亜成	藤井 宏造	藤田 武人		
編集部	棄原 道夫 内藤 憲彦	江島谷勝弘 平賀 国和	大久保眞澄 山下じゅん子		
句会部	居谷真理子	内田志津子	藤田 武人		
同人誌友部	糀谷 和郎	吉村久仁雄			
会計部	内藤 憲彦	宇都満知子			
発送部	吉村久仁雄 藤井 宏造	江島谷勝弘 松岡 篤	平賀 国和		
事務部	森松まつお	内田志津子	宇都満知子		

◎ 太字は部長（部長以外は 50 音順）

◎ アンダーラインは新任者

あけましておめでとうございます

鳥取県川柳作家協会

会員一同

連絡先 〒682-0034 倉吉市大原 637-3

牧野芳光

TEL・FAX 0858-23-0140

明けましておめでとうございます

川柳ふうもん吟社

会員一同

事務局：〒689-0202 鳥取市美萩野2丁目171-3

中村金祥方

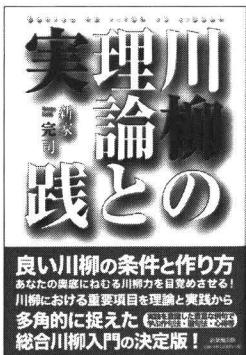
TEL 0857-59-1056

月例会：毎月第4日曜日 13:00～

会場：県民ふれあい会館（鳥取市扇町21）
(県立生涯学習センター4F)

ご注文は下記へ、ハガキかFAXにて。お支払いは
到着後で結構です。

新家完司・著



実理川論 柳諺との 践との

実践を意識した豊富な例句で学ぶ作句法・選句法・心得
初心者はもちろん、中級者やベテランにも役立つ

〒689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万597 新家完司
326頁。送料+消費税=2,000円 FAX 0858-52-2449

おりひめ☆ひこぼし川柳会

☆ 本年もどうぞよろしくお願ひいたします ☆



☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ 木
藤 栃 真 真 松 永 新 山
田 尾 島 島 田 井 野 本
武 奏 久 美 夕 良 井 義 朱
人 子 子 子 美 智 夕 介 寿 夏
之

☆ ☆ ☆ 2023年度誌上大会の案内状を今月号に
同封しております。みなさまのご参加
心よりお待ちしております。 ☆ ☆ ☆

川 柳 蕉 群

■ 主な内容

同人作品「羣抄」

近詠作品「葦の原」

作品鑑賞 新家完司・大西泰世

柳論 エッセイ 句会報 ほか

■ A5版 45頁 季刊(年4回)

年間 4000円（税込）

発行人・編集人 梅崎流青

〒832-0087 福岡県柳川市七ツ家426 TEL.0944-72-6046

振替口座 01760-2-120254

E-mail house7@cello.ocn.ne.jp

あけましておめでとうございます

南大阪川柳会

會員一同

会計監査	顧問	世話人	編集	会計	副会長	会長	明けまして おめでとうござ います
江島谷	渡辺	高橋	安土	中堀	長谷川	大久保	眞澄
勝弘	富子	敬子	理恵	福和	崇明	長	明
		江里子	史郎	宇賀	中堀	大	け
		加藤	和夫	安福	堀	久	ま
		高橋	史郎	福和	優	保	し
		敬子	宇賀	和夫	優	眞	め
			史郎	宇賀	優	澄	ま

事務局 〒631-0078 奈良市富雄元町1-1-7-114 大久保眞澄

あけましておめでとうございます

川柳塔みちのく

主幹 福士 慕情・ほか同人一同

事務局 ☎036-8275 弘前市城西1-3-10 稲見則彦方

あけましておめでとうございます

川柳さんだ

会員一同

明けましておめでとうございます

豊中もくせい川柳会

会員一同

あけまして

おめでとうございます

ほたる川柳同好会

句	水	野	黒	兎
会	池	田	中	螢
場	田	岡	藤	柳
所	藤	藤	井	守
句会	井	齋	則	啓
豊中市螢池公民館	蟻	奈	津	子
第二火曜日 午後一時より	日	島	江	倉
	路	谷	勝	本
			弘	村
				直
				子
				一
				弥
				子

明けましておめでとうございます。



六甲川柳会

会員一同

会長 糸谷和郎

新年明けましておめでとうございます

川柳あまがさき

会員一同

あけまして

おめでとうございます

川柳藤井寺

会長 鈴木 いさお
世話人 鴨谷 瑞美子

津吉田園田扶美代
田喜代子

あけましておめでとうございます

きやらぼく川柳会

会員一同

事務局 〒683-0804 米子市米原5-1-3-304
TEL 0859-21-7656
竹村紀の治

川柳茶ばしら

年板山 遷行
新金子 美千代
謹山本 三樹夫
関山本
本かつ子

明けましておめでとうございます
本年もよろしくお願ひ申し上げます

川柳塔わかやま吟社

同人一同

事務局 〒640-8482 和歌山市六十谷1188-14
川上大輪方
電話・FAX 073-462-7229

迎 春

川柳ささやま一同

代表 北澤稠民

賀 正

川柳ねやがわ

会員一同

明けましておめでとうございます

西宮北口川柳会

例 会 每月第2月曜日 午後1時 西宮市立中央公民館

(阪急電鉄神戸線西宮北口下車 南出口徒歩3分)

プレラにしのみや6F

投句先 〒663-8112 甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫

明けましておめでとうございます

川柳塔鹿野みか月

会員一同

会長 森山盛桜

あけましておめでとうございます

いづも川柳会

会長 竹治ちかし
会員一同

事務局 〒693-0026 出雲市塩冶原町3-1-5 竹治ちかし方

TEL 0853-22-4309

迎 春

はびきの市民川柳会

会長 吉村久仁雄

会員一同

明けましておめでとうございます

城 北 川 柳 会

会員一同

明けましておめでとうございます

柄尾	都筑	鈴木	沢田	久世	坂本	井澤	穂山	秋田	川柳
奏子	文重	関 よしみ	和子	高鶴	晴美	壽峰	常男	あかり	とんだばやし
他一同	欣之	土田 かこ	高鶴	堀内きみ子	藤田	肥山	林 澄子	中村 恵	
	山野	松谷	由夏	武人					

富 柳 会

あけましておめでとうございます
年賀状にかえさせていただきます

番 奉川柳本社

森 中 恵 美 子

〒566
-0022
摂津市三島二丁目五一一一五一四

謹賀新年

新 家 完 司

〒689
-2303
鳥取県東伯郡琴浦町徳万五九七

あけまして
おめでとうございます

西 出 楓 樂

〒543
-0012
大阪市天王寺区空堀町八一五

謹賀新年

謹賀新年

謹賀新年

小 島 蘭 幸

川 上 大 輪

仁 部 四 郎

〒725
-0022
竹原市本町一丁目一四一三

〒640
-8482
和歌山市六十谷一八八一四

〒847
-0082
唐津市和多田天満町一丁目一一一三

謹賀新年

あけまして
おめでとうございます

村上玄也

〒590-0016
堺市堺区中田出井町三一四一三一

山本希久子

〒564-0012
吹田市南正雀一九一二二

岸本宏章

〒689-0202
鳥取市美萩野一一一三四

賀春

謹賀新年

新年おめでとうございます

木本朱夏

〒640-8392
和歌山市中之島八七一

柿花和夫

〒592-8349
堺市西区浜寺諏訪森町東二丁一八五

鴨谷瑠美子

〒583-0026
藤井寺市春日丘二一八一二二二

明けまして
おめでとうございます

謹賀新年

あけまして
おめでとうございます

謹賀新年

片山かずお

平井美智子

初代正彦

〒569
-1022
高槻市日吉台六番町一二一一五

〒550
-0006
大阪市西区江之子島
一一七一二二一一三〇一

〒569
-0073
高槻市上本町五一二六

謹賀新年

おめでとうございます

あけまして
おめでとうございます

坂裕之

松岡篤

飛永ふりこ

〒569
-0054
大阪市住吉区帝塚山東三一九一四

〒569
-1116
高槻市白梅町五一五一一〇〇八

〒630
-0122
生駒市真弓四一一三一一三

あけまして
おめでとうございます

謹賀新年

矢 倉 五 月

〒599
-8103
堺市東区菩提町五一一七一

藤 井 宏 造

〒661
-093
尼崎市東園田町三一四九一五

藤 井 則 彦

〒560
-0026
豊中市玉井町二一三一二四

謹賀新年

あけまして
おめでとうございます

あけまして
おめでとうございます

謹賀新年

古 今 堂 蕉 子

〒558
-0043
大阪市住吉区帝塚山東一四一九

宇 都 満 知 子

〒558
-0043
大阪市住吉区墨江四一一一

三 宅 保 州

〒642
-0011
和歌山県海南市黒江一三四二

あけまして
おめでとうございます

おめでとうございます

新年おめでとうございます
難聴により句会の欠席を
ご容赦願います。

小 松 紀 子

松 原 寿 子

太 田 昭

〒807
北九州市八幡西区大平台二三一—一

〒649
和歌山市楠本三八六—一四

〒565
吹田市千里山西
四一三七一—一四〇

あけまして
おめでとうございます

謹賀新年

「川柳塔まつり」に四年振りの帰阪にて
参加が叶い懐かしい方々にお逢いでき
幸せでした。

緒 方 美 津 子

山 口 光 久

久 保 田 千 代

〒663
-8123
西宮市小松東町三一六一三

〒651
-1123
神戸市北区ひよどり台二二二三一五

〒343
-0023
越谷市東越谷三一六一七
カーネリアン東越谷一〇五号

初夢はやつぱり富士の山がいい

あけまして
おめでとうございます

謹賀新年

平 田 実 男

〒755
宇都宮市東岐波五三九五

山 下 ジ ゆ ん 子

〒639
香芝市関屋北六一五一一〇

内 藤 憲 彦

〒592
堺市堺区東雲西町二一一一五

平 田 実 男

〒755
宇都宮市東岐波五三九五

山 下 ジ ゆ ん 子

〒639
香芝市関屋北六一五一一〇

内 藤 憲 彦

〒592
堺市堺区東雲西町二一一一五

謹賀新年

明けまして
おめでとうございます

明けまして
おめでとうございます

平 賀 国 和

〒536
大阪市城東区鴨野西
三一四一二一三〇五

大 久 保 真 澄

〒631
奈良市富雄元町
一一一七一一四

稟 ク わ 原 ば ら 道 夫

〒592
堺市西区浜寺諏訪森町
東二一二〇八一五

おめでとうございます

あけまして
おめでとうございます

あけまして
おめでとうございます

山 田 耕 治

永 見 心 咲

小 川 道 子

〒661-0953 尼崎市東園田町二一四五一八

〒704-8194 岡山市東区金岡東町三一一七一六

〒722-0022 尾道市栗原町三二〇〇一八

あけまして
おめでとうございます

あけまして
おめでとうございます

新年おめでとうございます

富 永 恭 子

惠 利 菊 江

宮 尾 み の り

〒651-1514 神戸市北区鹿の子台南町四一四六一五

〒889-1201 宮崎県児湯郡都農町大字川北二〇七三四

〒790-0045 松山市余戸中二一五一四

頌 春

あけまして
おめでとうございます

あけまして
おめでとうございます

辻 内 次 根

内 田 志 津 子

渡 辺 富 子

〒787-0558 土佐清水市宗呂丙二二六七一三

〒558-0013 大阪市住吉区我孫子東三一八一二一〇六

〒636-0311 奈良県磯城郡田原本町八尾六二一六

新たなる土を踏みしめいや行かん

坂 本 加 代

〒747-1232 防府市台道二二〇〇

あけまして
おめでとうございます

小 野 雅 美

〒545-0037 大阪市阿倍野区帝塚山
一一六一三一〇七

本年もよろしくお願い致します

上 田 ひ と み

〒669-1324 三田市ゆりのき台三一四一九

謹賀新年

津 守 柳 伸

〒545-0001 大阪市阿倍野区天王寺町北
一一三一一一

謹賀新年

山 崎 武 彦

〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町
四一一一一

謹賀新年

糀 谷 和 郎

〒673-0883 明石市中崎二一四一一六二二

謹賀新年

澤 井 敏 治

〒590-0114 堺市南区樋塚台一一六一五

謹賀新年

伊 達 郁 夫

〒572-0001 寝屋川市成田東町四〇一二

謹賀新年

水 野 黒 兎

〒561-0813 豊中市小曾根二一四一一

謹賀新年

原田すみ子

〒540-0014
大阪市中央区龍造寺町三一〇

謹賀新年

長谷川崇明

〒636-0202
奈良県磯城郡川西町結崎
二一六四

あけまして
おめでとうございます

川端一歩

〒536-0024
大阪市城東区中浜二一一一七

謹賀新年

佐々木満作

〒578-0963
東大阪市新庄二一九一〇

あけまして
おめでとうございます

敏森廣光

〒658-0083
神戸市東灘区魚崎中町
二一二一五

謹賀新年

川端安福和夫

〒636-0344
奈良県磯城郡田原本町宮森
一〇〇一九三

あけまして
おめでとうございます

〒639-0251
香芝市逢坂二一七二〇一一〇

謹賀新年

村田博

〒669-1322
三田市すずかけ台
三一四一一E八〇四

あけまして
おめでとうございます

榎本舞夢

〒545-0051
大阪市阿倍野区旭町
二一一一七

あけまして
おめでとうございます

鈴木いさお

〒583-0007
藤井寺市林五一一八一一〇一三〇三

ピョンピョンと飛躍の年になるように

柏原夕胡

〒640-8442
和歌山市平井五五

あけまして
おめでとうございます

竹村紀の治

〒683-0804
米子市米原五一一一三一三〇四

謹賀新年

福士慕情

〒036-8275
弘前市城西一丁目九一五

おめでとうございます

前田洋子

〒351-0035
朝霞市朝志ヶ丘四一一一六
スチユーデイオ8 304号

あけまして
おめでとうございます

川本真理子

〒155-0033
東京都世田谷区代田二一一四一一二

あけまして
おめでとうございます

居谷真理子

〒634-0051
檜原市白樺町五一一一四〇五

あけまして
おめでとうございます

森田旅人

〒586-0027
河内長野市千代台町一三一一五

あけまして
おめでとうございます

石田孝純

〒546-0033
大阪市東住吉区南田辺二一一一六

喪中につき年始のご挨拶を
失礼させていただきます

黒 田 茂 代

〒797-0015 西予市宇和町卯之町五—三一一

あけまして
おめでとうございます

齋 藤 さ く ら

〒599-8122 堺市東区丈六 七七一四

謹賀新年

富 山 ル イ 子

〒572-0043 寝屋川市錦町八—二二三

あけまして
おめでとうございます

八 甲 田 さ ゆ り

〒440-0892 豊橋市新本町六二

明けまして
おめでとうございます

藤 村 亞 成

〒573-1104 枚方市楠葉丘一—九—一三

賀 正

北 野 哲 男

〒669-1515 三田市大原一五五三一一二

本 田 さ く ら

〒811-2502 福岡県糟屋郡久山町上山田
二五四一六

謹賀新年

杉 野 羅 天

〒861-8064 熊本市北区八景水谷
一一三一一一七

川 本 信 子

〒572-0063 寝屋川市春日町一一一二六

いくつになつても正月いいもんだ
今年もよろしくお願ひ致します

謹賀新年

谷 英也

〒573-1174 枚方市小倉東町一二一五

あけまして
おめでとうございます

石田ひろ子

〒597-0082 貝塚市石才二五一三

あけまして
おめでとうございます

雪本珠子

〒596-0076 岸和田市野田町一一八一七

おめでとうございます

栗田忠士

〒791-0101 松山市溝辺町甲六一〇

あけまして
おめでとうございます

酒井紀華

〒562-0001 箕面市箕面四一六一二六

あけまして
おめでとうございます

池田純子

〒560-0022 豊中市北桜塚
四一一〇一一〇一三〇三

あけまして
おめでとうございます

西田美恵子

〒797-1324 西予市野村町大西二二二三

新年おめでとうございます

安土理恵

〒633-0054 桜井市阿部七八七

老齢の為新年のご挨拶
ご無礼致します

津村志華子

〒547-0022 大阪市平野区瓜破東
四一五一四一一三一三

<p>謹賀新年</p>	<p>丹後屋肇</p>	<p>古手川光</p>	<p>田中廣子</p>	<p>明けまして おめでとうございます</p>
<p>〒573 -0065 枚方市出口二一九一五三〇一</p>	<p>米澤倣子</p>	<p>山田葉子</p>	<p>本年もよろしくお願ひ致します</p>	<p>〒790 -0924 松山市南久米町一七六一八</p>
<p>〒599 -0301 大阪府泉南郡岬町淡輪 三〇二六一九七</p>	<p>明けまして おめでとうござります</p>	<p>米澤倣子</p>	<p>明けまして おめでとうござります</p>	<p>明けまして おめでとうござります</p>
<p>〒583 -0857 羽曳野市誉田三一一一二</p>	<p>藤原大子</p>	<p>川名洋子</p>	<p>明けまして おめでとうござります</p>	<p>明けまして おめでとうござります</p>
<p>〒193 -0812 八王子市諏訪町 一九三三一一六一七〇八</p>	<p>賀春</p>	<p>竹信照彦</p>	<p>倉吉川柳会</p>	<p>鳥取県東伯郡湯梨浜町園 五四五一六</p>
<p>〒558 -0055 大阪市住吉区万代六一八一二三</p>	<p>岩切康子</p>	<p>本年もよろしくお願ひ致します</p>	<p>田中廣子</p>	<p>明けまして おめでとうござります</p>

あけまして
おめでとうございます

島 田 千 鶴 子

〒569
-1146
高槻市赤大路町二四一六

明けまして
おめでとうございます

柳 田 か お る

〒791
-8082
松 山 市 梅 津 寺 町 五 六

おめでとうございます

徳 山 み つ こ

〒583
-0864
羽曳野市羽曳が丘一一一一一八

謹賀新年

谷 口 義

〒546
-0043
大阪市東住吉区駒川五一〇一一六

謹賀新年

永 井 松 柏

〒799
-2206
今治市大西町脇甲六四〇

あけまして
おめでとうございます

松 本 文 子

〒699
-0401
松江市宍道町宍道三八五一二

明けまして
おめでとうございます

森 松 ま つ お

〒580
-0026
松原市天美我堂
三一三〇一一四〇四

あけまして
おめでとうございます

太 田 扶 美 代

〒583
-0037
藤井寺市津堂一一一一九

賀
年 豊 人 楽 五 穀 よく 実 り 人 喜 ぶ
朱子

川 柳 塔 な ら
中 原 比 吕 志

〒636
-0144
奈良県生駒郡斑鳩町稻葉西
一一四一三

頌春 川柳塔社

主幹	小島蘭幸	新家完司	川上大輪	内藤憲彦	居谷真理子	上田ひとみ	宇都満知子	内田志津子	江島谷勝弘	大久保眞澄	糀谷道夫	棄原和郎	平井美智子	平賀国和
理事長	小島蘭幸	新家完司	川上大輪	内藤憲彦	居谷真理子	上田ひとみ	宇都満知子	内田志津子	江島谷勝弘	大久保眞澄	糀谷道夫	棄原和郎	平井美智子	平賀国和
副理事長	川上大輪	内藤憲彦	居谷真理子	上田ひとみ	宇都満知子	内田志津子	江島谷勝弘	大久保眞澄	糀谷道夫	棄原和郎	平井美智子	平賀国和	小島蘭幸	新家完司
副主幹	川上大輪	内藤憲彦	居谷真理子	上田ひとみ	宇都満知子	内田志津子	江島谷勝弘	大久保眞澄	糀谷道夫	棄原和郎	平井美智子	平賀国和	小島蘭幸	新家完司
常任理事	内藤憲彦	居谷真理子	上田ひとみ	宇都満知子	内田志津子	江島谷勝弘	大久保眞澄	糀谷道夫	棄原和郎	平井美智子	平賀国和	小島蘭幸	新家完司	川上大輪

常任理事	藤田	武人	藤井	宏造
相談役	藤	村	松岡	村
初代正彦	森	山下	まつお	亜成
村上玄也	板尾岳人	吉久仁雄	じゅん子	
仁部四郎	木本朱夏			
西出楓樂				

編集後記

★新年号は、定例の同人特集「私の一句」である。特集「私の一句」は、昭和41年以来掲載された「ゆ」も特集「に代わり、昭和53年から現在まで続いている特集である。

★12月号で予告した野沢省悟氏の「波蘿草の花」が始まった。省悟氏と執筆の段取りについて電話で打ち合わせた時のこと。「タイトルがまだ決まっていません。川柳塔の川柳讃歌は木津川先生が考えてくださいました。出来れば考えてくださいませんか」とお願いしたところ、30分もしないうちに「波蘿草の花」のタイトルがFAXで送られてきた。私はすぐに路郎精神が花と開いた作品という意味だと理解しました。素晴らしいタイトルを付けてくださったこと

を数年ぶりに企画した。4月号発表の「私の好きな笑いの句」。どんな作家のどんな笑いの句が採り上げられるのか、楽しみにしています。

(道夫)

○おめでとうございます。猫年の真澄です。今年もよろしくお願ひします。

○昔はあちこちで猫を見かけたが、町から猫の姿が消えて久しい。

○3年前、1匹の野良猫に出会った。ノラらしい、

彼女はその子を70数万円

で平成4年に82歳で世を去った。清張は、飽くな

き探求心で、長編短編ほ

○今は落ち着いて施設で暮らしている後期高齢猫

を、NHKがドラマ化し

▲その中の小説「空の城」

を、目雅子のステキな色気に

惹かれて、一気にDVDを

5時間も観てしまった。

○夏の終わりまで、彼女

の代わりにご飯をあげた

つていてる様子を気にした

に感謝する。

★定例ではない同人特集

を数年ぶりに企画した。

4月号発表の「私の好き

な笑いの句」。どんな作

家のどんな笑いの句が採

り上げられるのか、楽し

みにしています。

川柳ささやま

私達の「川柳ささやま」が、毎月の句報八〇〇号を記念して句集

を手作りで発刊することになりました。

した。平成二五年に七〇〇号記念誌を、恩師・遠山可住先生のもと

で発刊の喜びを分かち合いました

が、その後、恩師を始め多くの仲間が他界されました。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻を

お願いいたします。

ひとこと

「川柳ささやま」も高齢化が進

○半年ぐらいで怪文書が

マンションに入れられて、

彼女はその子を70数万円

で平成4年に82歳で世を去った。清張は、飽くな

き探求心で、長編短編ほ

○今は落ち着いて施設で暮らしている後期高齢猫

を、NHKがドラマ化し

▲その中の小説「空の城」

を、目雅子のステキな色気に

惹かれて、一気にDVDを

み、一番の悩みとなつております。

ばれた経営破綻事件。

▲当時のトイレットペー

ク只中、総合商社安宅産

業のカナダ石油精製ビジ

ネス失敗が発覚した。政

越え」(田中裕子・平幹

うが、次は清張作「天城

二郎出演)を早速観ることにした。

▲松本清張の没後早くも30年が経つ。肝臓がん

業のカナダ石油精製ビジネス失敗が発覚した。政

越え」(田中裕子・平幹二郎出演)を早速観ることにした。

(憲彦)

川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙

種目 「 」 発表(3月号)

地名

市
県
府道都
姓雅号

きりとりせん

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

「川柳塔」への投句について

(1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。

(2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。

(3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。

(4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から14時までにお願いいたします。

檸 檬 抄 投 句 用 紙

「かなり」 (1月15日締切)

3月号発表

永見 心咲 選 —— 共選 —— 江島谷勝弘 選

B A

B A

地名

県 市
府 道 都

姓 雅 号

地名

県 市
府 道 都

姓 雅 号

切らな
いで下さ
い

左右に同じ句を書いて下さい

きりとりせん

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

同人特集

投稿用紙

好きな笑いの句と作者名（フルネーム）を記入し、70字以内の文章を添えてください。
なお、文意を変えない程度に編集部で文章を添削することができます。

原稿用紙
70字

※必ず原句を確認してください。

句

私の好きな笑いの句

同人特集「私の好きな笑いの句」
発表（4月号）

地名 市都道県府 姓雅号

きりとりせん

◎楷書で正確に書き、2月15日までに到着するようお送りください。

川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

フリガナ

氏名

住所

電話

紹介者

年

月から半年
月から一年

5000円
9800円

該当の方に○をつけて下さい

(無記入でも可)

〒
一

一
一

〒543
-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル

201

川柳塔社

(電話 06-6779-3490
振替 00980-4-298479)

川柳塔のホームページアドレス

<https://senryutou.net>

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

作品募集

初歩教室	一路集(2句)	檸檬抄(2句)	愛水川染煙柳帖抄塔(28句)	3月号発表(1月15日締切)
	「近い」 〔近い〕 〔3句〕	〔パワフル〕 〔耕す〕 〔なり〕	〔永見〕 〔江島谷〕 〔新木島〕	
初歩教室	〔平井〕 〔は4月号発表〕	〔柏〕 〔梅〕 〔大〕	〔大原〕 〔澤〕 〔西〕	〔見〕 〔心〕 〔勝〕
	〔美智子〕	〔夕〕 〔盛〕 〔泰〕	〔心〕 〔勝〕 〔完〕	〔朱蘭〕 〔咲弘〕 〔司夏幸〕
	〔担当〕	〔胡〕 〔夫〕 〔世〕	〔夫〕 〔世〕	〔共選〕 〔選〕 〔選〕

3月号
檸檬抄「穴」
一路集「一番」「輪」
初歩教室「箱」

本社句会欠席投句のお薦め

*幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚に一句ずつを書き、裏面に題とお名前を記入のこと。

*投句料1000円(切手不可)。

*句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

〒543-0052

振替
電話(06)6677-1412
○○九八〇一四二九八四七九〇番
発行所
川柳塔社
大阪市天王寺区大道一ー一四一七
花野ビル201号室

定
価
半年分
一年分
一〇三三年(令和五年)一月一日発行
九千八百円(同)

発行人
印刷所
編集人
美研アート
小島和幸

本社1月句会

投句料	会員	兼席題	ところ
1000円(切手不可)	「自由吟」	「情け変う」	1月10日火アワイーナ大阪
	「自由」	「情け」	13時開場・13時40分締切
	「由り」	「け」	3階 葛城の間
	「吟り」	「変う」	天王寺区石ヶ辻町19-12 電06-6772-1441
			おはなし「広島県の川柳作家」
			新鈴大久保内家完か朝真子司
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
			小島蘭幸
			佐木内家
			大久保内家
			新鈴大久保内家
			石田隆吉澄彦氏
	</td		

箸がとまらん 極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ

職人の技術で、超どろ火の火加減により、
秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE
QRコード

舞昆のお友達に
なって下さい。

商品のお問い合わせはどちらまで(ご試食承ります)

舞昆のこうはら

フリーダイヤル 0120(11)5283

自費出版

川柳・俳句・エッセイ・小説

新聞・チラシ・ポスター・伝票等

あなたの思いを かたちにします

具体的なアイデアがある方はもちろん、「こんな出版物をつくりたい」という漠然とした思いだけでも結構です。まずはあなたの「思い」をお聞かせください。じっくりと丁寧にお話を伺いながら、それをかたちにするお手伝いをいたします。

美研アート

Tel 06-4800-3018 FAX 06-4800-3028

〒531-0061 大阪市北区長柄西 1-1-10

ホームページ <https://www.bikenart.com> Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp

営業時間 平日 10:00~17:00 定休日:土/日/祝